



山  
を  
上  
る

第55号 令和6年11月

関東氷上郷友会

兵庫県丹波市 豊かな自然と歴史ある場所

# 四季の彩りと伝統を感じながら 輝く未来を創造できるまち



丹波市は、兵庫県の中央東部に位置し、緑豊かで美しい自然にあふれたまちです。

丹波市には「<sup>みわら</sup>水分れ」と呼ばれる本州一低い中央分水界があります。「水分れ」に落ちてきた雨粒は、この地で日本海側か瀬戸内海（太平洋）側かどちらかに分かれ、川となって海に流れます。それらが、日本海側と瀬戸内海側を結ぶ大きな道の役割を担い、古くから人々が出会い、行き交うまちでした。秋から冬にかけて発生する「丹波霧」は、美しい自然に一層の深み

と神秘さを醸し出します。また、カタクリに代表される可憐な花々や、色鮮やかな紅葉は、四季折々の良さを感じさせます。

美しい自然と風土の多様性は、豊かな恵みをもたらします。その一つ、全国に誇る丹波市ブランドの農産物は、ここに暮らす人々の手で丹精込めて育てられ、丹波の豊かな自然の滋味に富んでいます。

また、2006年には草食恐竜の骨格化石が発掘、のちに「丹波竜」と命名され、古代から続く歴史を感じることができます。



やっぱり行きたくなる、やっぱり帰りたいくなる。

丹(まごころ)の里  
 丹波市

おかえり丹波

OKAERI TAMBA

国史跡黒井城跡

お申し込み・返礼品の選択は下記のサイトより検索できます

丹波市ふるさと納税特設ページ おかえり丹波

<https://furusato-tamba.jp/tax/>



最新の返礼品情報・在庫状況をご確認いただけます。

・楽天  
ふるさと納税



<https://www.rakuten.ne.jp/gold/f282235-tamba/index.html>

・ふるさとチョイス



<https://www.furusato-tax.jp/city/product/28223>

・さとふる



<https://www.satofull.jp/city-tamba-hyogo/>

・ふるなび



[https://furunabi.jp/municipal\\_single.aspx?municipalid=1179](https://furunabi.jp/municipal_single.aspx?municipalid=1179)

・au PAY  
ふるさと納税



<https://furusato.wowma.jp/282235/>

・セゾンの  
ふるさと納税



<https://furusato.saisoncard.co.jp/city.php?n=282235>

● ふるさと寄附金制度に関するお問い合わせ

丹波市 ふるさと創造部 総合政策課  
TEL.0795-82-0916 FAX.0795-82-5448  
メールアドレス [sougouseisaku@city.tamba.lg.jp](mailto:sougouseisaku@city.tamba.lg.jp)

● 寄附金の申し込みや返礼品に関するお問い合わせ

たんば商業協同組合  
TEL.0795-73-0005 FAX.0795-72-0118  
(営業時間/9:00~17:00 土・日・祝・12/29~1/3休み)



山  
ぎ  
る

第  
55  
号

# 山ざる 第55号 目次

巻頭言……岸本 勲 5

## 《近況・エッセイ 特集 密かな楽しみ》

ドラムのライブ演奏を夢に練習に励む楽しみ……福西みのり 6

釣り人かく語りき……藤本幸人 10

「不食の人」になり、人生楽しく……細見次郎 13

イラストの記憶……近藤利春 15

## 《インタビュコーナー》

山本明弦さん 「ボクサー魂」 貫く料理人……編集部 19

## 《近況・エッセイ》

千島に花は咲いたか?……石橋順子 24

丹波の実家始末記……谷口浩章 27

我が家に残る「昭和の残照」……廣瀬佳智 30

ゴルフ場への出向と出会い……渡辺正幸 34

わが旅立ちのとき……山岸幸子 37

「ハッピーミーディアム」という生き方……上 高子 40

## 《山ざる群像》

日本語学ふアジアの学生をサポートし21年 44

### 表紙「寂光院の石段」

(アクリル淡彩画 43×24cm)

#### 笹倉鉄平さんのメッセージ

京都市街から離れた大原の里に在る、寂光院をお盆過ぎに訪ねました。

本堂への石段は、角が取れ丸みを帯び優しい印象です。

ジャンケン遊びをする女の子と、時折、聞こえるつくつくぼうしの鳴声…

子供頃の頃に親しんだお稲荷さんへの石段を思い起こしました。

《山ざる文芸》

俳壇・詩座・歌壇……………46

《丹波から》

丹波に輝くソーントン……………鎌野 善三 62

子ども45人、大人36人の城山教室……………大槻佐知子 65

《丹波ブランド紹介》

その15「丹波の城」……………古西 純 69

《丹波人物伝》

時代の先駆者「深尾須磨子」……………原谷洋美 73

《丹波通信》

孤高の彫り物師初代柏里……………荻野祐一 79

《山ざる研究》

安政2年の西国三十三所朱印帳……………徳田八郎衛 84

ふるさとの会報告……………90

会計報告書……………96

祝寿の方々ご紹介……………97

《MY Gallery》縣（丸川）康子／近藤利春……………51

《簡単レシビ》中村典子／高見美智子……………53

《丹波を撮る》……………徳田八郎衛 55

ふるさとトピックス（丹波新聞）から 井徳正吾……………61

BOOKS……………102 会員だより……………104

同窓会だより……………110 インフォメーション……………112

寄附者芳名……………113 《協賛広告》……………114 編集後記……………128

寂滅

雪に埋れて  
雪を炊き

雪を点して  
雪を恋う

雪に埋れて  
雪を炊き

雪を点して  
雪を恋う

須磨子

寂滅

雪に埋れて

雪を炊き

雪を点して

雪を恋う

深尾須磨子 『永遠の郷愁』  
書は藤原ひと子さん

## 人生100年の時代！

会長 岸本 勲



「健康で豊かな老後」を送る時間は意外と少ない。日本人の平均寿命は男子81歳、女子87歳です。健康で自立した生活を送れる健康寿命となると平均寿命に比べて男女で少し差があり、9～12年短いのが実情です。会社でサラリーマンとして勤め上げ60歳で定年退職したとしても人生はまだ20年以上残っています。

還暦を迎えた仲間たちの話題は「二度目の人生をどう生きるか」「いつまで働くべきか」「元気であれば70歳を超えて働きたい」と様々です。

だが前向きな話ばかりではありません。「年金生活を間近に控え給付額を調べたら思ったより少なかった」「今の生活を維持するにはいつまでも働き続けるしかない」となることも多いでしょう。

もう一つの関心ことは栄養補給の問題です。人生50年、人生80年の時代だったころと比べて今や100年の時代。人が生涯に食べる回数は格段に増えました。20年分が増えたとなると2万1900回増える勘定です。何を食べて十分な栄養を摂るかは若いころ以上に重要になります。

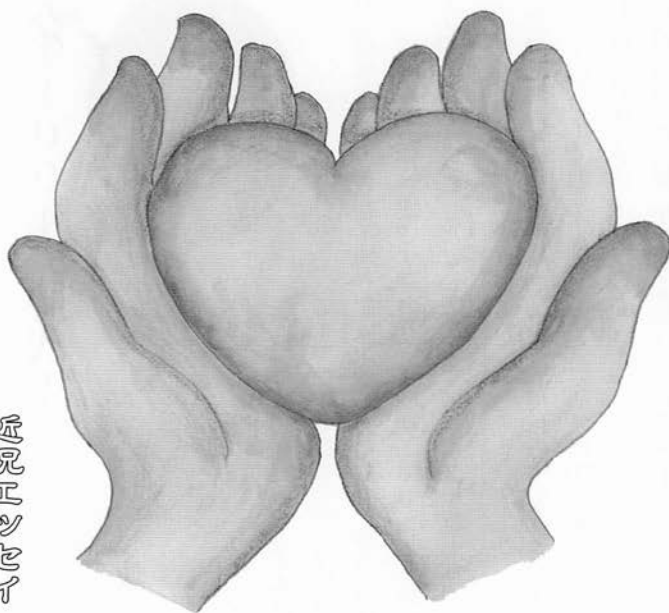
何を食べるかで体は変わります。体調が変わると脳や心も変わります。栄養は、良く生きるために私たちが選択できる唯一のものかもしれません。「健康家は長生きする」という言葉があります。長生きの素質はより好みせず楽しくしっかりと食べることが肝要です。

さて私は当年でもって満80歳を迎えました。永く会長の職を戴いておりましたが、今年の総会で会長職を辞することと致しました。皆様方からの永年のご指導ご鞭撻は終生忘れることはないでしょう。後任には石橋順子さんをお願い致しました。石橋さんは丹波を代表する明朗にして活発な女性です。末永くご支援下さるようお願い申し上げます。

今年の総会は11月24日（日）に上野精養軒にて開催します。上野精養軒は上野公園内にあり、その名も東京の誇る老舗会場であります。大勢様のご参加を心からお待ちしております。

特集

# 密かな楽しみ



近況エッセイ

ドラムのライブ演奏を夢に  
練習に励む楽しみ

福 西 みのり (東京都渋谷区)



私は「山ざる」54号の「私の職場」にも寄稿させていただきました。その寄稿文の最後に、65才からの新たな挑戦としてドラムを習い始めたことを書いたところ、選歴を超えての挑戦について、ぜひその経緯を知りたいという話をいただき、今回引き続きの投稿となりました。私にとつては無謀な挑戦ではなく、65才で「はまって」しまった私の密かな楽しみであるドラムについて、その顛末とこれからの夢をここに書き記したいと思います。

ドラムとの出会い 80代の元気な女性に触発

元々音楽(聴くこと、楽器を演奏すること)はジャンルを問わず好きでした。ことの初めはコロナ前に海





ドラムの練習風景

外旅行で親しくなつた音楽好きの80代の女性です。この方がご自身で経営しているレストランで、とても素敵な演奏会を企画しているのに来てほしいと誘われ参加したのがJazzのライブ演奏で、ドラムとの出会いです。

Jazz演奏前に紹介していただいたミュージシャンを見て、「なんだ！おじさんバンドか！」なんて心で思つてしまいました。演奏が始まると、目から鱗自由のびのびと会話するように曲が流れ、私たち観客の心をわしづかみにしました。その中でも『キャラバン』を演奏された今の私の師匠であるサバオ渡辺さんのドラムは、メリハリのある鋭く力強い音や歌うような優しい響き、リズムから醸し出す曲の表現など素晴らしく、演奏終了後は拍手喝采、私も大きな感動を受けました。

Jazzにはデキシシー、スイング、モダンなど色々

なスタイルがあります。そんなスタイルの違いにも魅力を感じつつライブやCDを色々聴いているうちに、主旋律よりもベースやドラムのリズムが耳に止まり、気がつくと手でリズムを取っていました。聞きながら自分も参加している気分になり、自分がやったことがないドラムを習ってみたい！他の楽器と合わせて演奏したい！と思う気持ちが日々強くなっていったのです。

ただ、未経験でかつこの年齢ですからうかつには声に出せず、悩んでいたところ、偶然ライブで一緒にあった80代の伊藤佐伎子さんも習っておられることを聞き、さらになんと伊藤さんは何日か前にライブ演奏をされたというではありませんか。これも、また、目から鱗。ついには「年齢は関係なく未経験者大歓迎」という言葉に後押しされ、Jazzドラムをサバオ渡辺先生のもとで習うことになったわけです。

もう一つ私がこの夢に飛び込んだ理由があります。それは65才を迎え定年が近くなる中、これまで私の軸足はどっぷり「仕事」で、これから何を目標に前に進めば良いのか、もやもやしていました、そんな時、そ

のモヤモヤを吹き飛ばすかのように目の前にあらわれたのがJazzドラムだったのです。サバオ渡辺先生の演奏、レストランのオーナー、ドラムを習う80代の元氣な伊藤さん、みんなが私の心をドラムへと推し進め、ついにドラムレッスンの日々がスタートしたというわけです。

### 師匠、サバオ渡辺のもとで楽しいレッスン

体験レッスンで、自分がやりたい曲は何か？と聞かれ、Jazzではないけれどカラオケでよく歌う曲、大黒摩季の「ららら」をやりたいとお伝えしレッスン



私と師匠のサバオ渡辺さん（中央）、  
ドラムを習う伊藤佐伎子さん（右）

が始まりました。その曲を叩くためには、何をやればいいのか、初心者ですから、スティックの持ち方、スティックの振り方、シンバルとバッドラムのシンク

口の練習から始まり、8ビートでハイハット、スネア、バッドラムを叩き、今は演奏の飾りになるフィルインなどの技を入れるなど総合的な基礎テクニクの練習に進んでいます。最近はやっとJazzの基礎のリズムであるシンバルレガートを取り入れた練習やブラシの使い方も習い始めています。スティックの振りなど基本の練習は行いつつ、少しずつですが前進しています。

新しいことを覚えるのはとても楽しく練習のモチベーションが上がります。1回のレッスンは45分で休憩せずに集中して行いますので、あつという間。汗びっしょりとなりますが、爽快感で次また練習を頑張ろうという気持ちで帰ってきます。うまくいかない時もあります。些細なことでもできた時や褒められた時の気持ちを大切にレッスンを楽しんでいます。この年になっても、褒められることは嬉しくモチベーションが上がります。

ここで、初心者の私を根気強く指導いただいている師匠、ドラマーサバオ渡辺さんを紹介いたします。

1952年生れで、大学在学中よりライブハウス等

で活動を始め様々なコンボで活躍。卒業と同時に池田芳夫グループに参加し、その後、17年間Jazzクラリネット奏者の北村英治オールスターズのレギュラードラマーとして活躍。海外のジャズフェスティバルやツアー等に数多く出演し、ティディ・ウィルソン、ハンク・ジョーンズ、世良譲など国内外の多くの巨匠達とも共演されました。また、自己のプロデュースによるライブやツアー等も行っておられます。繊細にしてダイナミック、良く歌うドラミングで、多くのジャズファンの注目を集めている方です。指導のモットーは何を持っていて何が必要なのかを見抜き、できるだけその人の特性に合わせた指導をするということなんです。

### 1〜2年後のライブ演奏を目指す

ドラムを習って早2年となりました。今年の5月にふとしたきっかけから、みんなに後押しされ、初めて聞く曲でしたが、初めて人前でドラム演奏をする機会を得ました。きっかけは78歳の知人からのお誘いでした。その知人がジャムセッションに参加して歌うので、

一緒にきてほしいと誘われて行ったところ、まだ、ドラムを人前で叩くレベルではない私に、演奏していたミュージシャンから教えてあげるから叩いてみたらと声をかけられ、気が付けばドラムに座っていました。無我夢中でドラムを叩きましたが、とても楽しく、他のお客様から「とても楽しそうに叩いていたね」と声をかけていただき、自分の気持ちの高鳴りがお客様にも伝わったのかと思うと感動的でした。この経験が練習に対するモチベーションをさらに向上させ、レッスン日でない日も仕事終わりにヤマハに立ち寄り練習を始めています。1〜2年後にはJazzドラムの演奏をどこかでできたらと夢を膨らませながらレッスンを楽しんでいきます。決して誰もがやるわけではないドラムを習い続けることは今の私にとって「密かな楽しみ」であり、この楽しみは私の「心身の健康」をととても元気にする大切なエッセンスとなっています。

まずは私の家族や友人達に聞いてもらって辛口の評価でもしてもらおうかとも思っています。おぼさんドラマーのパワーがどれだけ発揮できるか…練習・練習。

(東京海上日動メディカルサービス顧問、市島町出身)

## 釣り人かく語りき

藤本 幸人（栃木県宇都宮市）

私、凄腕技術者と呼ばれています（笑）。



某大手自動車メーカーで上席研究員まで務めて、燃料電池車や電気自動車といった最先端技術を搭載したクルマの開発責任者として現場を率いました。

そんな私が、つり人社の「フライフィッシャー」という釣り雑誌に釣り記事を書きました。実は、釣り（フライフィッシング）も凄腕なんです。自他共に認める「プロ級の腕前」と他人が言っているかどうかは不明ですが。

その筋では、そこそこの腕前ということが知れ渡り、雑誌社の社長や編集長から直接執筆依頼を受けて、北海道への釣り記事を書き起こしました。その釣行には、編集長とカメラマンが随行し、実際にデカいニジマス

を釣り上げているシーンを写真に収められて、私の釣行記の誌面を飾りました。

記事のタイトルは「覚めない夢」でした。フライフィッシング歴は30年近くになりますが、まだまだ夢の途中だという認識です。

さて、話は幼少期に遡ります。兵庫県山南町立和田小学校に通っていた頃、週末には加古川の支流に竿と魚籠を提げて自転車で通っていました。シラハエや鯉を釣って遊びました。ある日、近所のおばさん呼び止められ、「これ使いな」と言っつて、布で作った竿



釣ったニジマスと藤本さん  
（2023年6月、北海道旭川近郊）

入れを貰いました。きつと、近所でも釣り好きの少年という事が知れ渡っていたのだと思います。

時は流れ、暫くの間は釣りとは疎遠にしていました。が、某大手自動車メーカーに勤めていた20歳代の頃、アメリカに長期出張で赴任した先で、休日の暇つぶしに先輩から譲り受けたルアー竿（ルアー…金属等々でできた小魚などを模した擬似餌）でブラックバスを釣って遊びました。そこから昔取った杵柄に火がつき、帰国後、本格的にルアー釣具セットを揃えて、近くの湖や海に釣りに出かけるようになりました。

ある時、管理釣り場でルアーを投げていると全然釣れない私の隣で、お洒落なお兄さんやお姉さんが、フライフィッシング（フライ…西洋毛鉤釣りで毛鉤の擬似餌の釣法）で、いっぱい釣っていました。「おぉ、これだ！俺もやってみたいー！」。何より、釣れている事実よりも、兎に角、お洒落な感じが超イケてるどワクワクしました。

そして、再びアメリカ出張した先で、スポーツショップに入って釣りコーナーを覗いてみると、フライフィッシングキットが50ドルで売られていました。

思わず手に取り、その場で買って帰りました。で、そのキットを開封したものの、何をどうして良いのやら全く見当もつかない。糸の結び方すら分からない始末。どうにか準備を整えて、毛鉤を投げてみますが、全く投げられない。毛鉤が飛んでいきません。当然、釣りなんて程遠く、途方に暮れました。

周りにはフライフィッシングの先生はおらず、兎に角、専門書やプロのVHSビデオを買って独学で勉強しました。

実は、これがフライフィッシングに嵌った切っ掛けなんです。最初は、全く歯がたたなかつた。もし、これが最初から簡単に出来ていたら、きつとそこで終わっていたと思います。簡単には出来なかつたからこそ、のめり込みました。

私のモットーは「困難を楽しむ」です。これは先端技術の開発現場でも大事にしていた心得です。困難だからこそ楽しいものです。困難を乗り越えた先に法外な喜びというご褒美を得る事が出来ます。フライフィッシング歴は30年ですが、いまだに思う様にかかない事がいっぱいあります。まだまだ修行中で、だか



ホンダの燃料電池車「クラリティ」と  
(2007年6月、スウェーデン・ゴットランド島)

らこそ、のめり込むのだと思います。  
私はNHKのプロフェッショナル・仕事の流儀という番組に出演したことがあります。そこでも、釣りのシーンの撮影がありました。カメラの前で見事に岩魚を釣り上げたのですが、あまりにはしゃいでいたせいか、残念ながら全面カットでオンエアされませんでした。

その番組でキヤスターを務められていた脳科学者の茂木健一郎さんから「あなたにとつてのプロフェッショナルとは？」という質問を受けました。私は「信念を持って突き進み、夢を実現できる人。」

そしてプロ中のプロとは、どんな条件の中でも結果を出せる人」と答えました。そして「技術者に必要なものは？」という問いには「拘り」と答えました。

仕事も趣味も、信念や拘りが必要です。夢に向かう楽しさ。プロを目指すなら、どんな条件でも結果を出すという姿勢です。プロは言い訳はしません。釣りは、あくまで趣味の領域ではありますが、少しでもプロの域に近づきたいと思って、修行を続けています。

目指しているのは、釣り人の基準となる「尺」サイズを超える大きなヤマメを数多く釣り上げることです。それも、自分自身で工夫して製作した毛鉤を使って。これからも足腰が立たなくなるまで、地元の鬼怒川に通い続ける日々が続きます。

(柏原高校昭和51年卒業、山南町出身)

## 「不食の人」になり、人生楽しく

細見次郎（埼玉県加須市）



私は毎日、ごはん三食をいただき、育てられ、社会に出てからも毎日三食食べながら人並みに生きてきました。ところが壮年期になると、なんとなく体が重く、怠いと感じるようになりました。そんな頃、『食べない人たち／「不食」が人を健康にする』（秋山佳胤・森美智代・山田鷹夫共著）という本を手に取り、読みました。人は食べるから病気になるという主旨の本でした。

この本を書いた医学博士で弁護士の方の秋山さんによると、不食の人は世界に10万人いるといわれています。共著の森さんも山田さんも不食の人です。「人は食べなくても生きられる。誰でも不食の人になれます」と山田さんは述べています。

森さんは脊髄小脳変性症（酩酊様歩行）という難病

を患われたそうです。原因は腸にガスが溜まるせいらしく、断食入院されました。やがて症状が消えて退院普通の生活に戻り、食事をするようになったら病気が再発しました。その後は断食入院、退院再発の繰り返しでしたが、とうとう不食生活を決断され、今に至っておられます。食べるから病気を呼び起こしたと後悔されたのです。

私たちはごはんをいただくときまず咀嚼し、分解、吸収、最後に排泄します。ごはんの成分は糖質と植物繊維からなり、糖質は分解吸収されますが、植物繊維は最後まで残り排便されず。便は食べた物の残渣だけではなく、細胞の残骸老廃物、腸内細菌も含むので高いものです。

小腸から大腸につながる部位はT字状となり、便の溜まり場といわれます。肛門の手前のS字状の腸も便の溜まり場です。そこには赤ん坊の二人分に相当する便を溜める人もいます。便は体温を奪い、腸を冷やします。その結果、腸の蠕動運動が弱くなり排便を困難にします。

この症状は年寄りばかりではなく、若い人にも多い

そうです。人間の排泄能力が未熟なのは、直立二本足歩行の動物だからで、常に地球の重力に抗って生きていく構造上の宿命を背負っているからだと思います。

人は毎日ごはんを三食いただく生活が当たり前だと思っけています。しかしそれが病気の原因になっていることに多くの人は気がついていません。

私は10年前から不食に挑戦しています。ごはんは5年ぐらい食べていません。現在は朝だけ味噌汁と生野菜をいただく一日一微食の生活です。何も食べないと思うと無理がありますので朝だけいただきます。

食べないことに体を徐々に慣らしていくと、食べないことがいかに気持ち良く感じられるかがわかります。この10年医者にかかることは一度もなく健康に暮らしております。私のように一日一微食も不食の人の範疇に入るそうです。不食は三日すると止められないといわれます。

未来の人間は消化器官がないところまで進化するでしょう。その時は生存のための食の概念はなく、お茶などを趣味として楽しむ——。そんな世界になるだろうと秋山さんはおっしゃっています。そんな人間の進

化を夢見て、私は不食の生活を楽しんでいきます。

(昭和16年生まれ、氷上町小谷出身、柏原高校昭和35年卒業)



撮影・岡 吉明



## イラストの記憶

近藤 利春（厚木市）



「イラストことはじめ」

子どもの頃、道路にチヨークで落書きした。書き始めたデコボコの丸や四角が面白くて、丸をくつつける。

反対側には三角をつける。描いていると線が路肩の石に当たる。かまわず石の上にも描く。息をついたとき、離れて見ると落書きは一つの作品として自己主張してくる。私にとってイラストは落書きしているのと同じだ。自分だけの空間。空想の世界かもしれない。そして、旅行や音楽に触れることで空間は広がっていった。高校時代、年賀状にイラストらしきものを描いた記憶がある。雪の上に残る足跡をつなげて文字を書いた絵で稚拙なものだった。ただ、思いつきで描くところは今も変わらないような気がする。一方、絵画には興味があり、学校の廊下でオシャレな運動会ポスターを

見つけた。思い起こすと、当時、高校生の笹倉鉄平さんの絵だったと推測する。笹倉さんは「山ざる」の表紙画も描かれている。その頃から芸術的センスは群を抜いており、才能は培われていたと思う。

「旅とイラスト」

旅に出たとき、スケッチすることもあった。大学時代、サッカー部の友達と和歌山の海辺にキャンプ旅行することになった。何とかテントが張れる海岸をみつけない夜になる。ふと、夜空を見上げると吸い込まれるような満天の星。海岸線に目をやると数分おきに流れ星が光る線を描いた。初めて見る幻想的な夜空に、思わず手帳にスケッチした。



竹富島の水牛スケッチ

夏期休暇に、ソニーの仕事仲間と石垣島から竹富島へ旅行したことがある。ウオークマンとスケッチブックをリュックに入れて旅に出た。海岸のハイビスカス、屋根上の



スイングジャーナル誌の投稿 ハンク・ジョーンズ

JazzLife誌の投稿 ソニー・ロリンス

### 「音楽誌へのイラスト投稿」

シーサー、草むらの水牛が、夏の日差しに眩しく、パステルでスケッチした。宿に着いたとき、出してくれた美味しいシークアーサーは忘れられない。

京都の会社に勤めていた頃、市内にはたくさんジャズ喫茶があつた。店のドアを開けると身体を揺さぶる音の空気が流れてくる。うす暗い室内の向こうにスポットライトのあたる新譜レコードが目に入る。珈琲だけでどつぷりとジャズに浸ることができた。お気に入りの曲では、聴きながらハガキにミュージシャンのイラストを描いた。鉛筆で下書きしボールペ

ンで描いていく。下手くそだが音楽に没入しているのでお構いなし。そのハガキをジャズ音楽誌に投稿した。すると翌月号にイラストが掲載されていた。しばらくして出版社のボールペンも届いた。この嬉しさから投稿がクセになつてしまった。

しかしながら10数年前、投稿していたジャズ音楽誌老舗スイングジャーナルは廃刊されてしまった。ジャズファンが少なくなつたということだろうか。寂しいけれど、これも時代の流れだろう。

### 「キース・ジャレットとイラスト」

このイラストは初期のパソコン「マッキントッシュ」を買つたとき、お絵描きソフトの操作感が感動モノでマウスを使って描き上げた。ジャズピアニスト、キース・ジャレットは私にとつて特別なアーティストだ。キースを知つたのは大学時代。ラジオで初めて聴いたのが「ソロ・コンサート」。すぐにレコード店に行き、違いも分からず買ったのが「ケルン・コンサート」だった。下宿でレコードに針を落とすとキースの美しく透き通つたピアノの音が流れ来て、一気に虜になつ



キース・ジャレットのカセットジャケット



マウスで描いたキース・ジャレット

た。

それ以来、レコードは勿論、来日する度にコンサートへ行く。京都会馆で聴いたコンサートは「サンベア・コンサート」としてレコード発売され、私の記念盤となった。

さらにその後、ソニー株式会社のプロオーディオ部で仕事していたことだ。人見記念講堂で来日コ

ンサートがあり、開発したスタジオレコーダーによる収録に立ち会えたのだ。ピアノ音源からアーチストやピアノ鍵盤のカメラ映像まで、全ての音声・映像をミックスするコントロールルームに入りライブ収録を見守った。開演前、

張り詰めた空気に息を飲む。そして、演奏が始まると音楽に合わせてカメラ映像が切り替わっていった。テナポ良く収録が進む様子を見届けた後は、ホール内でコンサート鑑賞させてもらった。こちらもライブコンサートDVDが発売されている。

その頃、ソニーのウォークマン発売により、音楽を持ち出せるようになった。当時としては画期的だ。カセットジャケットにはアーチストのイラストを描いた。レコードをプレーヤーにセットしてからペンを取り、曲を聴きながら描く。アーチストの曲に没頭して描くと、ジャケットを見ると音楽が聞こえてくるようだ。

#### 「絵ハガキとイラスト」

ビートルズもよくイラストに描く。ビートルズを知ったのは高校時代。深夜のラジオから聞こえてきた少しノイズ混じりの「ハロー・グッド・バイ」が思い出される。ある夜、新曲発表に耳を澄ましていると、女性シンガー、アレサ・フランクリンの「レット・イット・ビー」が流れてきた。ビートルズが彼女に捧げた曲だった。近くにビートルズマニアの友達がいる。

最新リマスター復刻版や昨年の新譜「ナウ・アンド・ゼン」などを紹介してくれる。お礼にはビートルズの絵ハガキを送っている。

関東へ引っ越してからは、実家は正月に帰省するくらいだった。きっかけは忘れたが、母の目を前に、つけペンとクレヨンでカーネーションを殴り書きした。



ジョン・レノンの絵ハガキ

#### マウスで描いたカーネーション

母親に絵ハガキを送るなど後にも先にもこのときくらいだった。ずいぶん後になって「生花は枯れるけど、このカーネーションはいつまでも咲いている」と母から聞いた。喜んでくれていた様で嬉しかった。

定年のしばらく前、複写ハガキという書き方を知った。「ハガキの控え帳」にカーボン

紙をはさんでハガキを書くもので手元に控えが残る。控え帳は日記の様で、後から見るのも楽しい。喜んでもえらえるか分からないけれど、なるべくイラストを付けて絵ハガキにしている。

#### 「おわりに」

イラストを描くとき、著書にサインをもらった芸術家、岡本太郎氏の言葉が頭に浮かぶ。「本当の人間は、みんな透明な目をもった猛烈なシロウトなのである。自分の専門に対して」と。誰でも初めは素人、へりくだる必要はない。むしろベテランであつても素人の純粋な眼で向き合うことが大切、ということだろう。また、子どもに返って落書きしてみるのも楽しいかもしれない。

(春日町出身、柏原高校昭和47年卒、姫路工業大学卒、令和2年ソニー株式会社退職)



## 「ボクサー魂」貫く料理人 丹波の生産者と 里山フレンチづくり



プライベートルーム「りんごの絆」代表

### 山本明弦さん

●インタビューー 長澤孝昭、安井孝之

《プロフィール》 1963年岡山県笠岡市高島生まれ。父親の仕事の関係で小学5年の時に兵庫県丹波市に転居。柏原中学校をへて篠山産業高校に進学。在学中からボクシングを独習しインターハイ（高校総体）に出場、将来を囑望された。ただ卒業後はボクシングを「心の支え」としながらも料理の世界に入り、2000年から11年にかけて東京でレストラン「りんごの絆（きずな）」を開店。「魂の料理」が多くの人々に感動を与え、伝説のレストランと言われた。そういう生活に疑問を覚え17年からは自宅で会員制プライベートルーム「りんごの絆」を主宰する。最近では丹波とも行き来して地元の人たちとも交流を深めている。

——山本さんが生まれたのは広島県と接する岡山県笠岡市。その沖合に浮かぶ30ほどの島の1つの「高島」です。山本さんは小学5年の時に兵庫県丹波市に引越された。どういう関係ですか？

山本 父親の仕事です。父親は高島で御影石を採る採石業に携わっていたが、だんだん採れなくなってきた。うちの遠い親戚が兵庫県丹波市柏原町で「丹波鉄平石」（今は丹波石という）を採掘していた。それで手伝ってくれないかと言われたのです。

### 丹波で出会ったボクシング

——山本さんは丹波でボクシングと出会います。

山本 ボクシングを始めたのはやはり家庭環境が大きいのと思います。中学2年の時にクラスに不良っぽいのがいて、同級生が上級生にやられていたのを見たときにものすごく腹が立ち、本当に強い男とは、優しい男とは…などと自分なりに考え、「中学卒業したら東京に行つてボクシングジムに入る」と勝手に決めた。高校受験は考えていなかった。

——しかし篠山産業高校に行かれた。

山本 それは中学の時にボクシングの経験がある人と出会ったんです。その人は人間的に苦労されていてすばらしい人で、コーチをしてくださいました。その人が「高校だけは行きなさい。産高なら体育の先生の心も広いから、もしかしたらボクシングの試合に出させてくれるかもしれない」と産高受験を薦めてくれた。

### 自分を鍛えた柏原く篠山20キ口自転車通学

——産高にはボクシング部はないですよ。

山本 ないです。あるのは阪神間の高校だけでした。自分は体力を付けるために柏原から篠山まで自転車を漕いで通った。約20キ口を自転車通学し、一番の難所はトンネルのある鐘が坂峠。そこで足腰や心肺機能を鍛えました。天気の良い日はなるべく早めに行つて授業前にグラウンドを走っていました。そんな姿を校長先生が見ていたらしく「そんなに頑張っているならば」と高体連の試合に出られるよう許可してくれました。

——練習するにも相手がいませんね。

山本 はいコーチだけです。ミットを持ってもらったり、スパーリングの相手をしてもらったり。コーチは40代前半でした。柏原の八幡さんの裏に街灯のある広場がある。そこでずっと練習していた。初めて出場した高校1年の新人戦で優勝しました。記事を読んだ人が柏原中央公民館（当時）で練習したらと口をきいてくれた。今度はそれを神戸新聞が扱ってくれて、それを見た西脇の人が一緒に練習させてほしいとやって来た。それが長谷川穂積（元WBCスーパーバンタム級王者）さんのお父さん。縁とは不思議なものです。

### 対象を仏料理に切り替え料理人を目指す

——ボクシングは山本さんのすべてみたいですね。

山本 はい、そうです。今の自分はフレンチシェフともボクシングすることも同じです。ボクシングの場合、基本的に相手の前方と側方のみへの攻撃が許されており、それもベルトラインから下は攻撃できません。また相手の後ろ側を故意に攻撃すると反則になります。



りんごの絵の前で妻の雅子さんと

攻撃は前方と側方、それもベルトラインから上に限定されている。ボクシングはシンプルだから深い。井上尚弥（世界スーパーバンタム級王者）選手が言うように、「ボクシングは美しいから好きなんです」。「散り際も美しい」。

——ボクシングをやっていた山本さんがなぜ急に料理の世界に入ったんでしょうか？

**山本** それは自分が高校1年の時に家族に不幸なことがあったからです。その影響が大きいです。複数の大学から推薦入学の話がありましたが、自分だけが大学へ行くことに抵抗があった。

進路は自分で考え、1年間だけ調理師学校に行かせてほしいと両親にお願いしました。卒業後、福岡の有名店で修業し、東京デイズニールランドの近くのシェラトンホテルで約6年間働きました。

——山本さんはハードワーカーだったそうですね。

**山本** 働き出して2度ほど倒れています。一度目は福岡時代に心臓疾患のためランニング通勤中に意識不明となり病院に担ぎ込まれました。ものすごく厳しい料理長の下で仕事は半端じゃなかった。睡眠時間は2〜3時間で、心臓にペースメーカーを入れる寸前まで行った。2度目はレストラン「りんごの絆」時代です。最初のころは東京・新宿で、04年からは四谷に移転しましたが、その11年間で家に帰ったのは50回ほど。ずっと店に泊まっていた。3カ月に1回帰ったらいいほうでした。その頃も過労で何度か倒れていました。

**全身全霊で打ち込むのは自信がないため**

——なぜそうなるのですか？

**山本** 全身全霊で料理に打ち込むと言えば格好いいのですが、要するに要領が良くなかったという事だと思っています。野菜にしてもデセール（デザート）にしても、なるべく当日に！直前に！仕込んだものを出したかったです。自分で自分の首を絞めていたのだと思います。

——出来たてを出したいというのは何ですかね。

山本 それは自分の料理に自信がないから。世の中にはすごい料理人がいっぱいいます。野菜でも、魚、肉にしても人間は色々な食材をいただいて生きています。どの食材も愛おしく「自分の所に来た食材は幸せ者だよ」と思ってくれる仕事をしたと願っています。料理人は食材の最後を見届ける仕事です。食材の一生を考えると、食材が生まれる自然の力が40%、種を蒔き自然と格闘しながら育てる百姓さんの力が40%、産地から全国に運んでくれる方々の力が15%、最後の5%が食材を手にする料理人のお役目だと思っています。

——普通そこまで思いますか？

山本 料理人だから食材をお客様に一番良い状態でお出したい。それだけです。なぜそこまでやるのかと聞かれたら、自分の性格ですかねと答えるしかないです。私は4回戦ボーイの試合を見るのが好きです。茶髪で突っ張っているボクサーがみんなに応援されてリングに上がる。突っ張っているけど内心はめっちゃめちゃびびっている。勝ったらいいけど負けたらみじめ。そういう姿が愛おしくてたまらない。あの不器用さと懸命さが人間らしくて、ボクシングは心の支えです。

——山本さんにはやはり「りんごの絆」のことを聞かないといけませんね。

山本 ギタリストで元スパイダースメンバーでもある作曲家の故井上堯之氏が名付けてくれた「りんごの絆」にはいろんなお客さんに来ていただきました。予約の取れない店として人気を頂きました。特に丹波栗の時は同郷である村上信夫氏（元NHKアナウンサー）が故永六輔さんや著名な方々をお連れ下さり、縁が縁で繋がっていき、賑わったものです。

そうした中で丹波にいる母親が認知症になって、その相談ごとが東京の自分のところにも押し寄せてきて、大変でした。店は繁盛していましたが、この頃から体調は思わしくなく、包丁さえもやと握っていた自分です。その時の体調でお応えできる人数しか予約を受けなかったのが、悔しさの中、閉店を決断しました。ピークに見えていて一番つらい時でもありました。

丹波で11月には1年に1度だけの食事会

——丹波の食材を使うことにこだわりますね。丹





丹波の高校生、中学生に鹿を知ってもらおうフォーラムを開いた（2023年8月）

波と行き来してどんな思いを募らせておられますか。  
山本 料理の業界では丹波のシカやイノシシはブランド品。氷上町の「丹波姫もみじ」さんは鹿肉加工専門工場として私財を投じながらも維持、継続していただいています。春日町の専門店の「無鹿リゾート」さんを始めとして丹波らしいお店や、食材の提供に頑張っていたいている方々がたくさんおられます。

昨今、鹿や猪は獣害で世間の注目を浴びていますが、本来、鹿は山の神として人間の命を守ってくれました。時代の変化と共に誤解を含め色々な伝わり方がありません。そんな中で料理人として、鹿や猪がすばらしい食材であることを伝えるだけではなく、鹿や猪に感謝し、もっと大切なことを伝えて行くべきだと思います。

最近丹波との行き来も盛んそうですね。  
山本 最初は美しい里山の原風景が今も残っている。

最近丹波との行き来も盛んそうですね。  
山本 最初は美しい里山の原風景が今も残っている。

る山南町谷川の笛路村でした。専業農家の竹岡農園が食材と場所を提供し、私が料理を作る里山フレンチを17年から4年間やりました。21年からは春日町の婦木農場で「丹波テロワール」と題して食事会を開いています。今年は11月23日と24日に開きます。農家のテロワール（産地特性）をまとった食材を、私と婦木農場の皆さんとで一皿一皿仕上げていきます。丹波の食材、朝採れ野菜、日々自然と格闘している農家の方々が直接お皿を運びます。一流のサービスではないけれど唯一無二の特別な空間です。

私のDNAは瀬戸内の海ですが、丹波に越し、ボクシングと出会い、多感な思春期を丹波の風土で育てていただきました。人として料理人としてたくさんのご縁に恵まれたのは丹波のお陰です。微力ながら何かしからお返しできたら……。そんな思いでいます。

### インタビューの言葉

長澤孝昭 「本当に真っ直ぐな人」と覚悟して付いていくと決めた雅子夫人をリスペクトします。（柏原町出身）  
安井孝之 「ボクサー魂」で自分をトコトン追い詰める山本さんの流儀に頭が下がるばかりです。（氷上町出身）



## 千島に花は咲いたか？

—父の戦時植物採集—

石橋 順子（東京都町田市）



父が95歳で他界して20年近くになる。以来空き家になっていた家を昨年初めて訪れた。中は父母が暮らし続けていた時のまま。母の鏡台や机、父が絵を描いていた部屋にはたくさん作品や絵の道具がそのままだった。

実家を訪れるといつも父は最近描いた絵を並べ、「これはどうだ？」「あれはどうか？」と感想を求めてきた。老境になってから始めた絵で、答えるのに窮するものが多かった。そんな思い出が脳裏をよぎった。

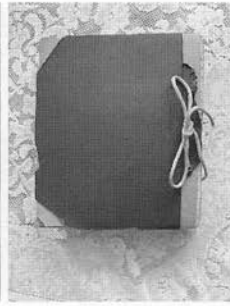
母の短歌団体の会誌や手紙、写真類と共に、兄妹たちにとっても貴重だと思われる父の形見を一つもらって帰ることにした。それは父が戦地で作った「植物採集」、手製の本である。



千島ふうろ



千島きんばいそう



父の植物採集手製本

我が家は何回か転居をしているが、この「植物採集」はいつも捨てられずにあって、その度に気になる存在だった。表紙や台紙は劣化しているが、中を開くと父によって押し花にされ、几帳面に名前も付けられた花々が色も褪せず姿、形を保ったままだった。

しかし持つて帰ったもののそれをどうしたものかと考えあぐね、父と同じように捨てられず日々は過ぎて行った。

父の軍歴については健三郎兄が「山ざる」43号に投稿している。それによれば1937年8月に招集され陸軍少尉で入隊。29歳の時だった。父は杭州湾上陸作戦に関わり上陸用

舟艇で30〜60人の兵士の上陸を受け持っていたらしい。戦いの場は揚子江（長江）に沿って、蘇州、南京へと遡って行き、日本軍南京入場の前日に南京郊外で任務に就いていた。

その時空から爆撃を受けた。父のすぐ近くに爆弾が落ち隣にいた兵士は即死、父も爆弾の破片を全身に浴び野戦病院に運び込まれた。幼い頃から馴染んでいた父の頬にある「ヤケド」の跡はその時の爆発によるものであり、弾丸が貫通した2か所の脚の傷はその時のものだったという。

出征から3年で一時帰郷したが1941年12月に満州へ、同月、日本軍は真珠湾を奇襲攻撃した。そして1943年に千島（占守島か幌筈島かは不明）に配属されたが、この年「アッツ島玉砕」が起こった。

アッツ島はアリューシャン列島の最西端にあるアメリカ領で、1942年6月に日本軍が占領した。1943年の5月、日本軍アッツ島守備隊2600人に対し1万人のアメリカ軍が島に上陸。弾薬も食糧も不足し増援部隊の派遣や補給はなく守備隊は「玉砕」した。1942年6月のミッドウエー海戦敗北に続く敗北で、

これ以降、軍は「玉碎」という行為を礼賛し、それに呼応し「玉碎」する部隊が相次いだ。

このように戦争の要所要所で動員された父だが1944年、36歳の時に千島で除隊となって帰国した。しかし千島はポツダム宣言受託後もソ連と熾烈な戦いを行い、生き残った兵士たちは捕虜としてシベリアに連行されたのだ。

「植物採集」を眺めていると色々疑問が湧いてくる。どうやって戦地から持って帰ってきたのか？長兄にあれば荷物として送ったのだろうと言う。父は時々戦地から珍しい食物などを送ってきたそうだ。では花の名前はどこで調べたのか？1945年終戦間近に家族は徳島から丹波に疎開したが、空襲で実家は全焼した。疎開地の生活も困難なものだった。そんな状況下でどうやって103ページにも及ぶ名前を調べたのか？

これについてはつい先日私がぎりぎりで申し込んだ「尾瀬水芭蕉バスツアー」がヒントになった。というのも、尾瀬ヶ原では父が採集したのと似た花が咲いていたのである。尾瀬ガイドの男性が開口一番に説明してくれたのが、「これは千島笹です」だった。胸がズ

キンとした。広大な尾瀬高原に咲く花々は小さく可憐で群れになって風に吹かれている。花の色も鮮やかだ。

採集本にあるワタスゲ、モウセンゴケ、リンドウ、コケモモなどはガイドさんが歩きながら指さして教えてくれた。インターネットを開けば、千島きんばいそう（高山の湿った草地）、きんぼうげ（草地や山地、高山）、千島ふうろ（亜高山帯～高山帯）、えぞりゅうきんか（寒い地域、湿地）など共通項は高山で、花には土地の名前がそれぞれつけられている、とある。

尾瀬ヶ原は2000m級の山に囲まれた亜寒帯湿原。一方、千島（占守島）は海拔200mくらいの緩やかな丘陵が続き沼地と草原で覆われている。夏は15度くらいで濃霧が覆われ冬はマイナス15度の極寒で猛吹雪に襲われることが多い。高台にある四嶺山（171m）には、戦時中に日本軍守備隊の本部が置かれていたという。NHKアーカイブ動画（1995）を見ると戦車や飛行機の格納庫などの残骸とともに黄色い花が群生して咲いている。

気象条件が高山に似ている千島は低地でも高山の花が咲いていたのだ。しかも父は戦前、写真が趣味で花

の写真をよく撮っていて家にも数点飾られていた。著名な高山植物の名前は知っていただろう。名前のない押し花もある。花の図鑑など手元になかったのだ。懐かしく感じながら、花を押し花にして記憶にある名前を付けたに違いない。激戦地をかくぐり九死に一生を得、やっと穏やかな気持ちになることができた喜びがこの押し花だったのかもしれない。気まぐれで参加したあの「尾瀬水芭蕉ツアー」は父に「尾瀬にヒントがあるぞ」と呼ばれたような気がする。

戦争中に植物採集をしていたなどと言えば「非国民」とそしられるのではと危惧したが、逆に戦争中にも関わらず、ありふれた人間的な行為を実行する勇氣を持っていた。そのことを誉めてあげてもいいのではないかなと思うようになった。戦争に突入する前に日本人全員が「非国民」でありえたならと思う。が、歴史を巻き戻すことはできない。過去の歴史に「たら、れば」はないのだ。

(市島町出身)

## 丹波の実家始末記

谷 口 浩 章 (横浜市)



空き家になった丹波の実家の処分が思いがけず完了しました。空き家になった実家をどうするか悩まれておられる方も多いと思います。参考

になることがあればと思い記載します。

2022年9月に母親が亡くなった。母親は施設に入らず最後まで自宅で一人住みだったので、死亡により空き家になり、その処分に直面することになった。築年数90年を超え、最寄りのJRの駅から7km、バス停からも遠い。徒歩圏内にスーパー含めお店は全くない状況で買い手を見つけるのは容易ではなく、マイナスの不動産(負動産)の懸念大の物件です。(田圃は米作りしない、出来ないことがはつきりしていたので、10年ほど前に耕作してもらっていた人に無償で引き取って貰う等自宅と自宅に隣接した畑以外の不動産



谷口実家

は全て処分完了して  
いました)

丹波に移住は困難、

また移住はある意味問  
題の先送りであり、元  
気な間は別荘としてた  
まに帰省も考えられる  
が何時まで元気でいる  
かは見通せません。将  
来子供達が丹波に住む  
ことが考えられない以

上は自分達で処分せざるを得ないと思いつつも、動き出すのは三回忌法要が終わってからだなと思っていま  
した。

何時売りに出すかは別として売りに出すためには家  
の片付け、不用品の処分が必要です。着物を始め衣  
類・写真等思いつきの品の処分等を毎月のように帰省し  
て、丹波在住の妹にも手伝ってもらいながら進めまし  
た。ひと段落したところで食器類と金属類の引き取り  
に来てもらった2社のリサイクルショップの店員が、



谷口村落風景

いずれも「きれいに  
使っておられますね、  
躯体もしっかりして  
おり、この家なら売  
れますよ」と言っ  
てくれたのです(20  
23年3月)。

元々家は古いので  
価値はなく壊して建  
て替えるしかない  
と、思っていたので、こ  
の言葉には吃驚しました。取り壊しには数百万円かか  
るとも聞いていました。このままで売れるのであれば  
有難いし、取り壊さないで買ってもらえるのなら空家  
の期間が短いほうがいいので、早く売りに出そうと思  
い直しました。

売却につき妹達にも了解を取って、「丹波市住まい  
るバンク」に電話し物件査定をお願いしたところ不動  
産会社を紹介され、3月末不動産会社に査定を依頼し  
ました。

5月に査定結果が出て、なんと固定資産評価額の2倍を超える価格で建物も値段がついていました（前提として①建物表示変更登記要②農地法の手続き要……地目「田」に未登記の倉庫あり③建物・敷地内の不用品は全て要撤去）。

予想外の価格でした。理由は①非常に綺麗に使用されている藁葺き（トタン張り）屋根の家は珍しい③玄関入った内側にガラス障子の縁側等昔のまま残っているのは珍しい④自宅に隣接して野菜畑がある⑤山間の集落で雰囲気がいい、というものでした。

不動産会社と専任媒介契約を結び、査定価格で売却活動スタート。不動産会社のホームページに物件情報が掲載された6日後に不動産会社から提示価格で購入希望者あり契約を進めても可かとの連絡がありました（購入希望者は3人目で最初は家族が多いので部屋数がない、2人目は農業をやりたいので田圃がないとの理由で断られた）。購入希望者は老夫婦、野菜作りをしたい・環境が気に入った・家も気に入ったとのこと。↓別荘ではなくて常住するのであればOK、進めてほしいと返答。

2023年6月双方同席の上契約調印。丹波スマイルバンクの要件である自治会マッチングで自治会役員との話合も完了済、位牌等仏具関連品を除いて全て残しておいてもらって結構との意向が示される。当方より引渡しは法事終了後9月下旬でお願いする。

以後、自治会長に自宅売却の挨拶・表示変更登記、農地法の許可、法事後仏壇位牌の処分、帰省時2回雨漏りが発生したので修理の上9月末物件引き渡し完了。その後11月帰省時に見たところ人が住んでいるのが確認出来、安心した。

購入者は床の一部補強・古い畳の取り換え程度で殆ど改修無しで住まわれた。当方にとっては稲木やタンズ等そのままでもいいと言ってもらい処分の費用、手間がかからず助かった。また「丹波市住まいるバンク」から仲介手数料補助金を受け取った。

尚、お墓については関東に移転はせずに丹波に残しておくことにしておりますが、丹波の空き家の維持・管理を気にする必要が無くなり、処分が出来て本当に良かったです。

移住希望者は都会に無い田舎らしさを求めているの

ですが、既存建物にそのまま住める物件の購入希望者が多いようです。また見た目が大事で売却物件は家の内外とも不用品は処分しすっきりした状態にしておいたほうがいいとのことでした。

新型コロナウイルス以降働き方改革もあり丹波市への移住希望が大幅に増えている、2022年は市内への移住者が転出者を始めて上回ったとのことですが、最近では売り物件が少ないことがネックとなりつつあるようです。売却を考えておられる方にとっては追い風のようなです。

(氷上町旧幸世村出身 柏原高校昭和38年卒業)

## 我が家に残る「昭和の残照」

廣瀬 佳智 (埼玉県和光市)

来年は昭和100年になるという。第2次世界大戦の敗戦や高度経済成長を経て、令和の時代を迎えている。昭和は遠くになったものだが、我が



家の中に残る三つの「昭和の残照」への想いをオムニバス風に紹介したい。

### 残照その1

昭和17年、朝日新聞に掲載された祖父の訃報広告欄

元々我家の本籍地は大阪で、当時祖父が大正区で材木仲買人を営んでおり、特にエゾマツの売買を得意分野としていた。昭和17年3月、その祖父が亡くなった折りに、朝日新聞大阪版に訃報の通知広告を出したのである(写真1)。

当時の朝日の紙面では、太平洋戦争緒戦の段階で、南太平洋で優勢な戦況を詳細に報じるなど、日本が第2次世界大戦中アジアで領土を拡大した時期である。一方で、北浜の株価、受験情報、高島屋、サントリの広告などが掲載され、現在と変わらない落ち着いた平穏な日常の記事となっている。

母が丹波幸世村から大阪市大正区の父のもとへ嫁いだ昭和初期は、第2次世界大戦中の大日本帝国陸海軍イケイケの時代だったが、結果は徹底的な敗戦に。それから1952年までの7年間は日本が歴史上初め





写真1・昭和17年の計報広告(上)と当時の朝日新聞

て、国外勢力の支配下に入り、46年に米国が主導し、現在の新憲法を公布した。その後、財閥解体と農地改革を軸とした経済、社会の構造を次々と変え、新生日本がスタートする。米国が外交戦略上、日本を西側陣営の地政学的な東アジアの砦でとし、且つ共産主義勢力に対抗する重要軍事拠点とする。

GHQの占領下、新憲法施行、民法改正等を通じて日本社会を自由と法の支配に基づく民主主義体制の構造に変え、日本国民全般に通底する考え方や生活様式そのものも変えた。

私達が生まれた46年は敗戦で社会状況が大きく変化し、日本の歴史的転換点となった年である。

## 残照その2

### 母の出身地丹波幸世村の『幸世村誌』

氷上郡の一町四村を廃し合併し、この区域を新たに人口2万3千人の氷上町としてスタートしたことの記念と郷土発展を願って編集した幸世村誌が自宅にはある(写真2)。当時母の従兄弟でもある幸世村の村長、井上新護氏が村史編集委員のメンバーであったこともあり紹介したい。

本誌は幸世村の村民が教育、自然科学、政治、経済と得意分野を其々手分けし、10年以上の歳月をかけて刊行にこぎつけた。村民編集担当者の熱意が伝わってくる詳細且つ郷土愛溢れる入魂の郷土史である。

母は幸世村南御油井上家から大阪に嫁ぐ。太平洋戦争が勃発し、父は戦地に赴く。度重なる大阪大空襲の難を逃れるために、母は兄を連れて、家族で幸世村の円通寺の麓にある南御油の実家に疎開する。

我家の丹波の生活はこの疎開をきっかけとする。太平洋戦争と疎開そして終戦と、まさに我家もこの当時の激しい時代の流れと共にあった。

丹波幸世村の地は古代から中世には、山陰と畿内を



写真2・幸世村誌

達し、佐治川流域の豊かな水田や京都賀茂大社の荘園があり、丹波山中にありながら、米作りに適した豊かな盆地である。

戦国時代から江戸時代と時代の変化する中でも変わることなく、日本海側諸国と京都、畿内、瀬戸内海に通じる人と物資の重要な流通路であり続けた。この様に地政学的に重要であったために、畿内の支配統一を目指す戦国武将にとっては京都の背後にあるこの地区はどうしても押さえない戦略の後背地であった。

日本人にとって、古代から今日に至るまで政治的にも、食料としても最も重要な生産物、米の生産に適した土地柄であった事が、幸世村が丹波の大村として郷土をリードする要因になっている。

結ぶ主要な交通路で、丹後、但馬、

丹波の特産物を畿

内に輸送する物流

拠点であった。し

かも水が豊富なこ

とから、稲作も発

そのことは歴史的事実が示している。戦国時代に入

ると、足利氏は畿内で勢力拡大し、京都の支配を確立

する上で、敵方の勢力範囲である京の背後の丹波を統

治する必要があった。

そのため北朝の足利尊氏は南北朝時代に入ると、後

醍醐天皇の南朝色の強いこの丹波の地に、強引に北朝

の楔を打ち込んだのである。真言宗等の平安仏教が強

く、朝廷の影響下にある神社仏閣多いこの辺りに、武

士の仏教の禅宗寺を次々と作り、平安仏教の力を削い

でいった。それが京都の戦略の後背地である丹波幸世

村に円通寺を創建した理由である。

足利氏は丹波を支配するために、武士の精神世界を

司る禅宗寺と軍事施設である城郭の機能を合わせ持つ

寺院を作った。長い参道と立派な山門を構え、正面に

池を掘り、その背景に大石垣を配置して大伽藍とし、

その結果、足利氏は円通寺を丹波の宗教的支配と軍事

的支配の両面の役割を担う足場としたのである。

母の実家はこの円通寺とは代々、寺総代を務めるな

ど古くから縁が深かった。私も度々訪れ、高3の時は

兄も私も静かな別棟を祖母のコネで借り受けて、受験

勉強までした思い出の場所である。今、思い出しても、円通寺本堂の大広間と池を配した立派な建築様式は山中の自然で禅の修業をするにふさわしい環境だった。

幸世村誌は円通寺をはじめ、この地に残る神社仏閣の歴史、古文書、史実、文化を深く掘り起こし、詳細に解説し紹介している。丹波にまつわる歴史、政治史と文化を理解する上で優れた書物である。

### 残照その3

妻が「第25回隠岐後鳥羽院俳句大賞」を受賞

妻の出身地は福知山市で、代々江戸時代から続く旧家に生まれ、父は府立高校校長、母は小学校教師、叔父は国立大学教授、叔母夫妻も教師と言う教育者一家に生まれた。当時の典型的な豊かな知識階級の家庭で育ったといえる。

その事は、今も手元に残っている彼女が書いた5、6歳頃の絵日記帳とアルバムから、何不自由無く大切に育った日常生活と、恵まれた家庭環境が良く分かる。例えば、日本全体が未だ貧しい昭和20年から30年代初期の時代に、妻の一家は外食する場合、京都の老舗中華料理店東華菜館で鯉の名物料理で円卓を囲んだそ

うである。その他、服装、趣味、食事等普段の生活スタイル全般においても両親の考え方、教育方針が妻の考え方やものの見方に影響しているのがよく分かる。

福知山高校を卒業し、大阪樟蔭女子大学国文学科を卒業した妻は長年俳句の世界に関わり、以前は地元で俳句結社を運営した。現在は東京の著名な先生が主催されている句会に参加している。

そうした中で生まれた作品が2024年の「第25回隠岐後鳥羽院俳句大賞」の受賞作。或る日、書斎の書架で、次男が中学校卒業時に学校からもらった名前のゴム印をふと目にし、懐かしい昭和の当時の事を思い出すと同時に、子が独立し、巣立った子への母親の郷愁が入り混じった俳句をつくった。

己が名の ゴム印貰ひ 卒業す

俳句界を代表する選者二名双方から佳作に選ばれ、大賞を受賞した。

（柏原高校40年卒、関西学院大を経て専門商社に就職。  
水上町出身）

## ゴルフ場への出向と出会い

渡 辺 正 幸（千葉県四街道市）



かつて日本がバブル景気だった頃、ゴルフ場を運営する会社はたいいてい銀行と借入金の取引がありました。そしてバブル崩壊後は銀行からゴルフ

場へ資金繰りなどを支援するため、行員がゴルフ場へ出向し直接管理することがよくありました。私の出向も最初は同じ事情だったでしょう。私の場合は同じゴルフ場に二度出向したのですが、そういう経験は銀行業界でもあまりないように思います。二度の出向で通算約7年半、それだけ長い年月の間、ゴルフ場に勤めさせてもらい、そのお陰で高校の同級生をゴルフ場に誘えたという少し変わった経験をいたしました。ちなみにゴルフのスコアは出向前とほとんど変わらないままでした。

高校卒業までは丹波の実家で、大学時代は大阪でひとり暮らしをし、22歳で銀行に就職しました。今は就職において色々な選択肢があり、実家の近くに就職する人もあるようですが、当時は就職というと実家から離れることが当たり前だったように思います。いずれ関西や名古屋辺りに転勤できたら実家には近くなるだろうというくらいの考えでした。

入社後の辞令では、東京下町の門前仲町駅近くの支店勤務となりました。その後も一度も西の方面へ転勤することはなく、東京近辺が多く当初の転勤イメージと違ったサラリーマン生活になりました。

就職した1980（昭和55）年の頃を振り返りますと、サラリーマンも公私ともにゴルフをする機会が増えてきた時期でした。その頃ゴルフ場の数も増えたようです。私が後に出向することになる、ゴルフ場でプレーしたのは勤務先のコンペに参加したのがきっかけです。銀行のゴルフ場への営業支援の一環だったでしょう。たまにプライベートの時も同じゴルフ場が多かったように思います。ただ私の場合、それからしばらくして92〜96年にそのゴルフ場を担当し、さらに10



右から本人、杉本啓助さん（故人）、安井孝之さん、山名清博さん。大多喜カントリークラブで。

年程経って2005年にはそこへ出向し直接運営に関係することになったのです。47歳の時でした。

私が出向したゴルフ場の名前は「大多喜カントリークラブ（CCC）」といいます。場所は千葉県房総半島の真ん中辺り。そこで高校の同級生との新たな交流につながります。出向して3年目に東京で同窓会があり、それがきっかけでした。丹波で開かれた卒業30年目の同窓会は残念ながら欠席したのですが、東京の会には出席できたのです。東京における幹事の人に感謝

しています。実際にゴルフに誘えたのは4〜6人ということが多かったと思います。もしあの時ゴルフ場に出向していなかったら、同窓生と東京で集まる会には行ってもゴルフまで一緒にという話には

つながらなかつたのではないのでしょうか。

その出向も3年で終わり、2008年に銀行を退職し系列の不動産会社に転籍しました。その後も同窓生を年に1〜2回誘い、大多喜カントリーへ行っておりました。

なぜ引き続きそのゴルフ場に行ったのかですが、それはそのゴルフ場が難問を抱えたままでこれをどうするか、関心を持つていたからだと思います。問題を引き継ぎした当事者として当然のことでした。また、そのゴルフ場の筆頭株主が転籍した不動産会社だったということもありました。当時のゴルフ場業界では、資金繰りに窮したゴルフ場の悩み、それは会員への多額の預託金返還をどうするかという問題で共通していました。大多喜カントリーが抱える問題も同じでした。これを整理した後の2014年、私は不動産会社から再びゴルフ場に出向することになりました。

あとで分かったのですが、この時の目的はゴルフ場の売却のためでした。こうして同じゴルフ場に二度出向したわけで、期間を通算すると7年5か月にもなります。これらの出向で得られたこと、それは「お付合

い」の広がりです。

昨年1月に65歳になり銀行系列の不動産会社を退職。そこで約43年間のサラリーマン生活は終わったのですが、ありがたいことに大多喜カントリーで得られた付合いは今も続いています。

多くの人は長い人生でたくさん出会いがあり、さまざまな交流が生まれます。私の場合、たまたま銀行などからゴルフ場への出向という経験ができ、それがきっかけで同郷の同窓生との付合いが深められました。

こんなはずではなかったのに……と誰でも戸惑うことがあるでしょう。どういう人生でもどこかで必ず選択があります。しかし選択チャンスはその時しかありませんし、その時の考えを大切にすれば良いと思います。

私の場合、「丹波に居た方が良かったのかもしれない」と考えたこともありました。しかし今はなるべくそう考えないようにしています。その方が良かったかどうか、考えても答えはないように思うからです。そう思ってもこれからも迷い続けることがあります。そんな時は、落ち着いてたまには深呼吸して間を置きゆっくりと前に進むしかありません。ゴルフ場で得ら

れた友との付き合いがその支えとなりそうです。

（市島町出身、柏原高校1976年卒。大阪市立大学経済学部を経て、80年第一勧業銀行〈現みずほ銀行〉入行）



撮影・岡 吉明

## わが旅立ちのとき

大卒後東京へ／国際電話オペレーター30年

山 岸 幸 子（東京都八王子市）



昭和20年12月に父の故郷、氷上町（当時は幸世村）小谷で生まれ、翌年鴨内に転居し、そこから北小学校、北中学校へ通い、昭和36年に柏原高

校に入学、自転車で40分くらいかけて雨降りでも雪降りでも頑張つて通学した。3年生になると受験態勢になり、クラスの雰囲気緊張感が感じられるようになったが、勉強に熱が入らず、結局、受験に失敗した。

母が「武庫川女子大の夜間部なら今からでも間に合うようだから受けてみるか？」と背中を押してくれた。他に行くあてもないので、急遽、武庫川女子大に行き、簡単な面接と試験を受けて、その日のうちに入学手続きを終えた。その時にはお互い何も話さなかったが、こんな馬鹿な娘を持つて、母は肩身が狭かっただろう

な…という気持ちはいつまでも消えない。

4月初め、大学のすぐ隣にある学生寮に入ることになり、6畳くらいの和室に短大生2人と私と夜間部生4人での生活が始まった。部屋にゆとりはないので窮屈ではあったが、短大生は大体、朝から授業に出かけて帰りは午後、私たちは夕方からなので昼間はゆっくり過ごせた。こじんまりした寮で、お互い自己紹介などして親しくなった。私たちのほかに夜間部の学生は何人かいて夕方、一緒に登校し学校の食堂で夕食を取つてから、それぞれのクラスで授業を受けた。

社会学、生活科学、美術史、哲学など一般教養の授業の場合は、大きな教室で夜間生全員で受講した。哲学など難しい授業もあつたが興味深いものもあり、講師の方々のお話も面白くて得る所が多かつた。夜間部の学生は大抵、朝から夕方までの仕事を終えてからの授業だから疲れているはずなのにみんな一生懸命勉強しているのを見て、すごいなあ!と思つた。

半年後、夜間部から短大へ編入して、不足している単位を取るために毎日補習授業を受けた。編入したクラスの人たちと休み時間にはおしゃべりしたが、大阪

の人の話し方はなかなか真似できなかった。2年生では学年全員で、貸し切り列車で東北地方へ修学旅行に出かけた。猪苗代湖や五色沼などの見学と、幕末の戊辰戦争の一環である会津戦争の白虎隊の戦いについて説明を受けた記憶しか残っていないが、東北地方の景色を眺めながらの賑やかな旅だったように思う。

短大を終える頃になっても身の振り方が決まらず、また編入試験を受けて引き続き大学へ進むことになった。その後の2年間は神戸の親戚の家に下宿させてもらうことになり、阪神電鉄の三ノ宮駅から鳴尾駅まで電車通学することになった。高校時代は自転車通学、短大の2年間は寮生活だったので電車通学は新鮮な感じがした。

短大から大学へ編入した為の単位不足を補うために3年生ではまた、ほぼ毎日通学し4年生になって、やっと授業から解放されたが、今度は卒論の準備に追われることになり参考資料を探し回っていたら、英会話の先生から「国際電電という通信会社が今、電話交換手を募集していますよ!」という願ってもない話を聞き、早速応募することにした。

東京大手町の会社で入社試験を受けたら、運良く合格通知を受け取りホッとした。それから卒論のまとめにかかり提出期限ギリギリで完成し、何とかパスしてやっと卒業できた。ここまで来られたのは、半分は自力だが後半分は、今は亡き母の後押しのお陰なので、母には一生感謝しなければならない。

昭和43年4月から国際電信電話株式会社、通称「KDD」(当時)にオペレーターとして勤務することになり、練馬区にある会社の寮から毎朝、同期の人たちと一緒に中央線の吉祥寺駅から東京駅まで行き、そこから徒歩10分ほどの会社に通勤するようになった。

オペレーターとして108名が採用され、最初の3か月間は3クラスに分かれて、これからの仕事に必要な勉強を大先輩から厳しく指導されることになり緊張の毎日だった。

教室での勉強が終わり、いよいよ次は電話交換室での実務訓練が始まった。私たちが入社した頃は国内のあちらこちらに米軍基地があり、そこから通話申し込みが多かった。最初のうちは何を言われているのか全く聞き取れず、先輩指導員に交替してもらってばかり



だった。必死でやっているうちに、少しづつ耳が慣れてきて、一人で通話の受付作業ができるようになった。

次は申し込まれた通話を外国側に接続する機器操作を教わり、簡単なものから難しいものへと順番に教わりながら何とかできるようになった。24時間対応の仕事なので日勤、夜勤、宿直を6日ごとに交替する輪番勤務をすることに。輪番勤務に慣れるまで緊張したが、宿直明けや休日には同じ課の人たちと一緒に出かけた。勤務中は厳しい上司や先輩方とも親しくなれた。

その頃は好景気だったようで、社内レクリエーションでスポーツ大会とかお正月には餅つき大会、潮干狩りなど家族ぐるみで楽しむ催し物などがあった。以前からテニスに興味があったので、休日ごとに会社のコートへ行つて初歩から教わり、ゲームができるようになるまで楽しくて、いつの間にかテニス仲間ができ、数年後にはその内の一人と結婚して1年ぐら以後に長女を出産することになった。

仕事はもう続けられないから退職するつもりにしていたら、親しい先輩から「今は育児休暇制度があるか

ら、それを利用して仕事を続けた方が良いわよ」と勧めていただいた。早速、会社に問い合わせ、出産後、3年間の育児休職を申し込んだ。この制度の他にも子供が小学3年生修了するまで、希望すれば1日6時間の短縮勤務ができる制度もあり、非常にありがたかった。私たちが入社した頃は労働組合運動が盛んで、女性の職場だけに女性の団結力が強かったことは間違いないと思う。

入社以来、ほぼオペレーター業務一筋で働いて、気がつくとも30年もたち、社名も「KDDI」に変わり、お客様も自分で国際電話をかけられるようになった。もちろん必要な時には「0057」にオペレーターが待機している。というところで平成10年に退職。その後は人と接する仕事をしてみようと思ひ、介護、日本語教師数年やってみたが、体力と根気不足で断念。今はテニスだけが楽しみで、老骨に鞭打つて出かけては皆様の足を引っ張っている。何歳までやれるかな？

(柏原高校昭和39年卒業、氷上町出身)

## 「ハッピーミーディアム」という生き方

上 高子（東京都世田谷区）



コロナ禍以降、在宅時間が増えて、テレビや新聞などマスメディアで情報を取ることが以前より増えました。私は老女ながら、目まぐるしい世界の変化に何とかついて行こうと懸命に頑張っています。そんなとき、物事を見る目（視点）をどこに置くか、ということがすごく重要だ、とつくづく思うのです。

なぜなら同じ客観的事象を見ても、マラソンのテレビ中継で競走する2人の選手の距離は、望遠レンズかクローズアップか、はたまたドローンからの撮影かによって、距離が全く違って見えます。またコップの半分の水を見ても、「まだ半分もある」と楽観的に受け取るか、「もう半分しか残っていない」と悲観的に受け取るかで、心の持ちようは変わります。つまり今の

自分の見方、視点がすべてではないことに気付くのです。

50歳の時に出会った「ハッピーミーディアム」

私にとつて自分の価値観が確立したように思える体験があります。それは50歳で1年間、国際交流基金から日本語教師としてアメリカへ派遣された時の体験です。中西部のインディアナ州の首都・インディアナポリスで、初めて日本語を習うアメリカ人成人向けのクラスを担当しました。この1年間の一番大きな収穫は「ハッピーミーディアム」という言葉との出会いでした。

ある日のことです。勤務先の日米協会近くにある駐車場の閉鎖機が故障していました。サービステーションを呼び出したのですが、なかなか誰もやってこない。30分以上待ってかなりイライラし始めたところ、「ハロー」と言いながら若者がやってきて「ノープロブレム」とすぐに開閉機を直しました。「すみません」という言葉を待っていた私はあつげにとられ、「これだからアメリカはだめだ」と怒りながらホームステイ

先へ帰りました。ホストマザーのルビーに「アメリカ人はサービスピス精神がない」と言ったら、「それ黒人？」と聞きます。「いや白人男性」。「アルバイトでしょう」とルビー。「日本ならアルバイトでもまずは謝るよ」と言い合つて、日本はウエット、アメリカはドライ、といつもの文化比較になりました。

その時ルビーが言いました。「タカコ。ハッピーミーディアムを諦めたらだめ」。「ハッピーミーディアムって何?」。「ステーキを焼くとき、よく焼けたのをウエルダン、生焼けをレアーと言うでしょう? ミーディアムはその中間のこと、そしてハッピーだから、ちょうどいい具合のこと」と、ルビーは答えました。日本のようにウエットすぎない、アメリカのようにドライ過ぎない、ちょうどよい中間ということか。辞書には「中庸」とも書かれています。両立とか、極端ではないこと、という意味らしいです。その言葉を知ってから、わたしは自分の視点が少し変わったことを自覚しています。

今、私たちが直面している課題は、ナショナルスタンダードと、グローバルスタンダードとの相克です。

どの国もそれぞれ独自の文化や価値観を持ち、それを大事にしたいと思えます。一方、世界標準（欧米の基準で作成）に近づくことも大事です。特に男女の格差、ジェンダーギャップでは日本は世界に大きく遅れています。世界経済フォーラムによると、2024年の日本のジェンダーギャップ指数は146カ国中118位です。過去最低の順位だった昨年の125位よりも改善したとはいえ、不名誉な位置のままです。

そもそも日本の男性優位の社会について、それを当たり前として生きてきた男性と、変革したいという女性の間では大いにギャップがあります。この考え方の価値観、意見の相違に関するギャップを埋めるにはどうしたらいいでしょうか。

### 日本文化はハッピーミーディアム

私は、このように考えます。正解はないので、なくてはならない、絶対すべき、ということではなく、フレキシブル（柔軟）な考えを容認する土壌が必要で、そこでは、異文化、多文化、様々な考えの人が自由に発言して、自分の考えを述べ（主張）、他人

の考えを聞き（傾聴）、気づきを得たりして、自己改革、行動変容に結び付けていく。いい加減、いい塩梅、ハッピーミーディアムを見つけていくということが大事です。

落としどころを見つけるには、相反する当事者の言い分を足して二で割る、あるいは、関係者みんなが自分の妥協をする、というのではなく、強い方が弱い方へ少し譲る、ということにしたらどうでしょうか。体力、財力、武力などいわゆるパワーを持つ者が、持たない者、あるいは少ない者に譲る、という方向が大事ではないでしょうか。なぜなら、人類の未来は若者が担っているし、今は権勢を誇っている人も、いつか老いて死んでいくのですから。「おごれるもの久しからず」というではありませんか。

一方、日本文化はこのハッピーミーディアムを比較的にうまく取り入れてきた文化だ、と思います。4世紀ごろ、漢字を中国から輸入したけれど、カタカナとひらがなを作り出して、それまでの文体を変えなかったので、中国語にすっかり置き換わることがありませんでした。この状況は、母語であるタガログを無くして、

公用語を占領国の英語に変えてしまったフィリピンや宗主国の言語に置き換わったインドやアフリカ諸国などとは違います。

仏教が大陸からもたらされた時も、それまでの神道とうまく融合して、神仏混交の宗教にしました。太平洋戦争後に一挙にアメリカの生活様式が入ってきて、椅子やテーブルに置き換わっても、畳と裸足とお箸は消えませんでした。洋食も和食も中華も、普通の家庭で料理して食べられる。こういう食生活の多様性は世界でも珍しいと思います。そして私はこの日本的な入り混じった文化がとても好きで、これはハッピーミーディアムな文化と言えるのではないのでしょうか。

### 我が家のハッピーミーディアム

ハッピーミーディアムの卑近な例として、私たち夫婦について書かせていただきます。もともと性格の違うカップルでしたが、老後はますます違いが目立ってきました。若いころは子育てという共通の目標があったからでしょうか、お互いに譲り合ってきたのかもしれません。あるいは、男性優位が当たり前でしたから、

対立した時はしづしづ私が夫に合わせていたのかもありません。現役を引退すると一緒に家に居ることが多くなり、お互いの違いに敏感になります。

我が家では、一般家庭と反対のようで、夫が細かいことに気付く虫観図の見方（虫の目―顕微鏡のような接写レンズ）で、私は大雑把で、どちらかというとき鳥観図的（鳥の目―俯瞰的望遠レンズ）な見方をします。私は「地球環境」について興味と関心があり、戦争や自然破壊など社会に関心があるのですが、夫は「無駄な電気を消す」「冷蔵庫に無駄な食品を蓄えない」「洗濯物は陽に当たるほうへ分厚いものを干す」など、うるさく言います。

ときどき、「そんな細かいことは、大事ではない。もっと世界のこと、社会のことを考えなければ」と私が出ると、「僕のモットーは、一隅を照らす、なんだ。目の前のことがちゃんとできなくて、そんな偉そうに言うのはどうか」と反論されます。

最近には特にロシアのウクライナ侵略や、イスラエルとガザの戦争が続き、私の関心はそのことが多くを占めて、ときどきテレビのプーチンやネタニヤフに向

かって「地球が危うい時に、戦争なんかしている場合か」と怒りをぶつけるのですが、夫は「我々のようなものが何を言っても怒っても、何ら影響を与えないことに無駄なエネルギーを使わない方がいい」と言い、すれ違つたままです。

ある日、私はこの状態は良くない、と反省し、どうしたらハッピーミーディアムを実践できるか、と考えました。私は夫の機嫌直しになればと、洗濯ものの位置を変えたり、電気をこまめに消したり努力をするようになりました。夫もそれなりに鳥の目を持つように努力しているように思えます。政治番組にもコメントをするようになりました。

ある時、夫が「ネットで見つけたよ」と言います。「一隅を照らすは千里を守る、というらしい」。これこそハッピーミーディアム、です！つまり目の前のことも、世界のこと、両方大事、ということなのです。

私たち夫婦は、あと何年かの余生をお互い譲り合い、折れ合って、ハッピーミーディアムを模索しながら生きていきたいと願っています。

（氷上町出身）

日本語学ぶアジアの学生を  
サポートし21年

「アジアの新しい風」の一大勢力に

ふ、ぞろ  
群像



関東水上市友会会員の上高子さんらが21年前に創設したNPO法人「アジアの新しい風」(通称「アジ風」)のもとに多くの郷友会員が集まり、同法人を支える「一大勢力」の体をなしている。

アジ風は日本語を学ぶアジアの学生を対象にしたNPO法人。日本人会員が「イメイト」になってメールで個別に添削指導したり、色々な相談に乗ったりするほか、留学してきた人をサポートする。中国の清華大学やベトナム、タイ、インドネシアの計4か国の大学と提携し、現地の大学訪問、合同の日本語コンテストの開催など多彩な活動を展開している。

広く日本の文化を知ってもらい、やがてその国のリーダー層になっていく彼らと深い交流を重ねるといふ趣旨に、郷友会員らが賛同した。アジ風メンバー200人のうち郷友会員は15人。うち8人が7月に都内のレストランでアジ風への想いを語り合った。

原谷洋美さんは上さんの熱意に惹かれて入会。「外国のことを全く知らなかったの、"目から鱗"だった。ベトナムの女子学生から『今日は国際女性デーですね。おめでとう』とメールを受け、へえー、そんな

日があつたのかと感心。一方、女子でも軍事訓練があり迷彩服を着た写真を見せられて、また驚いた」。

藤原ひさ子さんは米国留学時代に多くのボランティアに世話になり、「いつかその恩返しをしたい」と思っていた。中国のイメイト7人と家族同様の交流を続けていて、結婚した人がパートナーを連れてくることも。「なぜか中国の人が一番馴染める」という。

海外経験の豊富な林孝男さんは中国、タイ、ベトナム合わせて延べ20人とイメイトになった。卒業して途絶えた人もいるが、「私の場合はベトナムの人が長続きしている。病氣治療の相談を受けたり、彼氏にふられたことを話してくれたり、結構フランクに話してくれる。イメイトをしたお陰で、若返った気分」。

ドイツやフランス滞在が長かった石橋順子さんは帰国後、欧州系の学生をホームステイさせていたこともあるが、藤原さんに誘われて入会。「先日、アジ風から清華大を訪ねた際、しばらく交信が途絶えていた学生から声をかけられて嬉しかった」。

皆さん、各国の学生から大いに頼りにされる存在だが、自分たち自身も楽しみながら得ることも多いよう

だ。上さんは「日本のアニメがきっかけで日本に興味を持つ学生が多いが、日本人の生活文化、精神性、民度の高さなどに惹かれるのだろう。これまでは日本の企業に入りたいたいといった動機が多かったようだが、日本の経済力の低下と共にこれからはそういう学生は減っていくかもしれない。アジ風としては日本の文化の真髄を彼らに伝え、文化の違いを知ることと国民レベルでの相互理解に貢献できればと願っている。アジ風メンバーが活動を続けながらおのずとそのことを体得して下さっているようで、ことに郷友会員の協力はとても心強い」と締めくくった。

この日は安井孝之さん、井上巖さん（写真のみ）、小田晋作（丹波在）も出席。メンバーにはほかに岸田功さん（丹波在）、坂上勝朗さん、高見秀史さん、谷口浩章さん、藤田千治さん、藤田玲子さん、木下正勝さんもいる。  
（小田晋作記）

◆写真は右から小田さん、林さん、藤原さん、上さん、石橋さん、原谷さん、井上さん、安井さん。日比谷公園で。

俳壇……………

このごろは「これが九十か」といろいろ実感しながらの毎日です。

坂上 勝朗（板橋区）

麦の秋母の見目よき野良着かな

早乙女の祖母のお腰の赤さかな

見つけたり捨女の句碑の苔の花

天の川大志抱きし頃もあり

野良犬の脚取り軽く九月尽

※

私の俳句との付き合いは定年退職後ですから三十年足らず。その上、故郷に棲みついたまま故まさしく井の中の蛙、丹波の山ざるとは私であるうと思う。ひょんなことから『山ざる』の誌面に登場して花のお江戸で楽しませて頂きました。

全く古い句で恐縮ですが「朝日俳壇」に採ってもらった句を。

大野 昶（丹波市）

畑まで届く昼めし麦の秋  
（長谷川權先生選）

木曾駒に連なる春の雪に会ふ  
（金子兜太先生選）

山霧のとりまく郷や吾小さし  
（全右）

石臼はゆるりと回せ草の餅  
（全右）

※

恥も外聞もなく、駄句を投稿いたしました。

『山ざる』文芸欄の隆盛を祈念いたします。

坂上 豊（千葉市）

青空を背負ひて桜咲きにけり

ゆすら梅遠き幼き夢を見る

梅雨寒や膝を抱えて鳥鷺を打つ

山鳩や父母恋し柿若葉  
（ちんはは）

鶯や俳句脳てふ蔵書読む

※

帰れなくて一泊した妹の家の前に小児科医院が。窓下が丁度処置室らしく、盛大な泣き声が聞こえて（笑）そんなこんな夏の日々。



上田 道代 (目黒区)

極暑なりコバエを一匹コロシました

友一人欠けて今年も夏芝居

帰路絶たれとりあえず冷やし飴

(7/22新幹線事故)

蝉時雨負けじと悲鳴小児科の窓

いちにちをいかに凌がんこの暑さ

歌壇……………

一年過ぎるのが早いこと。そして足腰が弱るのもあつと言う間ですね。遠出が出来なくなつてしまいました。

足立美都子 (春日部市)

庭先のびわの実黄色にいろずいて吾の楽しみ

ひとつ増えたり

近々と建つアパートのカーテンが時折ゆれて

人の気配す

大空の端から端まで白雲はおにぎりのよう連

なりており

何時の間に切られしものか道のそばにそびえておりし大木が消ゆ

観覧車止めてもらつて乗り込んだ人生初の経

験として

(初であつて最後かも知れませぬ)

※

一人暮らしになつてから六年になるが話す相手が居ないので、一日に話す口数が少なくなり淋しい限りである。

荻野 哲男 (狭山市)

物忘れ、字忘れ進む、日は落ちて夜は近所の

「米寿の会」に

あじさいが去年は紅く咲いたのに今年はおわ

い水色に咲く

初夏なのにかえるの。声が聞こえない静かなま

まに夏は行くのか

今ごろは苗上り祭りはするのかな昔なつかし

田植えの終り

※

母の小さい頃のハルピンのこと、お髭が立派な馬車の御者や、お菓子食いしん坊の私が甘い物がなくなっていた東京で想っていた、ハルピンでの世界中で一番美味しい洋菓子ペロージナのこと、色々書きたいことが走馬燈のように浮かびます。

木呂子 惠美子（清瀬市）

十三の孫弾くトルコ行進曲ハルピンで母が弾いていた曲

幼き日征く父と来た公園は今孫の住む井の頭あたり

春日部の忠霊塔の石庭に三種のすみれこぼれ咲きしを

※

長年の介護も無事区切りがきました。お陰様で体力気力もいくらか残っておりまして、最近は大ランドゴルフに誘われ、日々午前中は汗をかくのが日課となりました。午後は昼寝です。感謝の

毎日です。

山本 述子（三浦市）

先祖らの墓に詣でて無沙汰詫ぶ懐かしさあり丹波の里に

三十年時を隔てて友と会ひ昨日の友に今日会ひし感

菩提寺の茅葺き屋根の古びたりをちこちシート貼り付けられて

水面に緑や黄色の木木映し子鴨の三羽泳がせをりぬ  
（公園の池）

息子去り介護の辛さ拭ぐはれたれど親の不覚の尚詫び足らじ

※

マスコミを通して知る世界や日本のさまざまな情報について行けないことが一段と多くなりました。戦争なんかしている場合じゃない、災害や貧困を何とかしなければ、の思いはつのる一方です  
が。

田中 一美（八王子市）

憤ることさえ疲かるるウクライナ、ガザの惨禍も見通せぬま、

誰を何を選べばいいか迷ふなか女性大統領の出現まぶし

「一隅を照らす」とふ教えありせめて挨拶心を込めて

挿木して咲いたと真紅の薔薇の写メ仕事に追わたる日々の吾娘より

散歩する里山の道万緑にほたるぶくろのひっそりと咲く

※

文京区春日通りの麟祥院は春日局の墓所で秋には法要の春日忌が執り行われ「丹波おばあちゃん」の里」の出店もある。今年は栗を買うのかな？

近年大人気の「枝付黒大豆」に比べて丹波栗の流通は少ないようだ。檜葉を敷いて艶々した丹波栗の溢れるほど入った竹籠は、もう玉手箱なのだろう、と遠く西空を見遣った。

原谷 洋美（杉並区）

おばあちゃんの里の法被のじいさんの朝便ト  
ラック露も輝き

栗はねえもう無いのやわ穏やかな声のあるぢ  
の手は武骨なり

春日忌の丹波物産ブースには枝付黒豆畝をな  
せるも

炎暑耐へ程よく枯れし莢の内ストレスだらけ  
の豆は弾ける

あなたにもおまけにひとつ天空ゆふいに丹波  
の秋の陽が射す

余録 明日を恋をり

空近き窓辺を一機また一機宮のけやきの風菓  
のやうに

励ましのシャワーのやうなにわか雨行つて来  
ますと空に礼せり

名を名乗り幾つ扉を越えただる医師待つ無影  
の室に着くまで

カーテンの内は光の繭となり術後のひと日を  
繭籠もりせむ

真夜深く飲む眠剤の効くまでの天の川遠し遠きぬばたま

点滴もドレーンもみな糧としてあふるるものに養はれるつ

青空に抜きん出でたる今朝の富士朝の哀しみ一山に受け

リンパ浮腫予防の着圧靴下の不自由さを得て雪山憶ふ

月面の夜を越したる探査機のS L I Mはわづかな希望と訳す

二週間ごとに昼と夜入れ替はる月を想ふて明日を恋をり

のぼり来る夜の木霊に水匂ひ夜明けの向かうは水槽ならむ

街角のミモザは黄色に朝ともし留守宅灯す里の山菜莢

浮き沈み多きひと日を積み重ね三週間の春蘭となり

## 「ご寄稿のお願い」

「峠見ゆ十一月のむなしさに」

丹波から但馬への国境の峠道・遠坂峠を見遣った細見綾子の代表句。

交通網やIT手段の発達で、瞬時に峠を越えられる現代においても、誰にも心の峠はあろうかとおもいます。

皆様の峠越えを、ぜひ教えて下さい。

会費振込用紙の通信欄でも、総会返信葉書の余白にでも、もちろん編集部宛でも大歓迎です。

丹波の底力が漲る文芸欄になりますように、投稿をお待ちしております。

(山ざる編集部)

# My Gallery

縣（丸川）康子さん（市島町出身）

（エッチング 4 作品）



モリンガの木

“モリンガの木”

アフリカではこの木の葉っぱは食用だとか。カレーにして食べたAさん、まずい！のでやめた。Bさんは黙って食べて、完食。

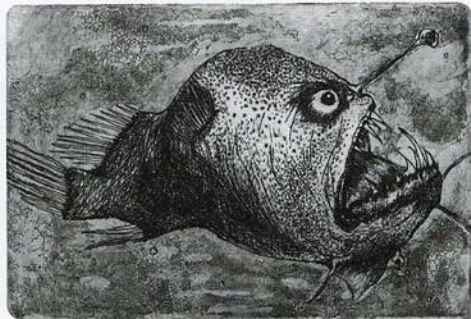
“あんこう”

誰かが噛みつかれそうと言って、周りの人が大笑い。

人に何と言われようと私はあなたの味方よ。ひがまないでね。



アフリカの少女



あんこう

“アフリカの少女”

おしゃれな少女。  
沢山の葉っぱは正装。

“セミホウボウ”

小さな写真からデザインを起こしたので形、大きさが分からない。羽根（胸ビレ）を伸ばした姿がステキ。

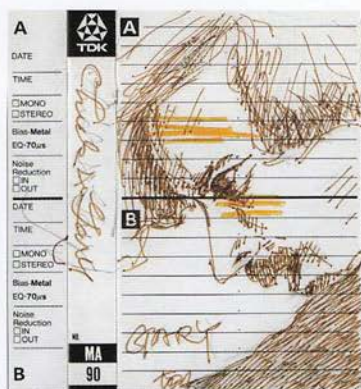
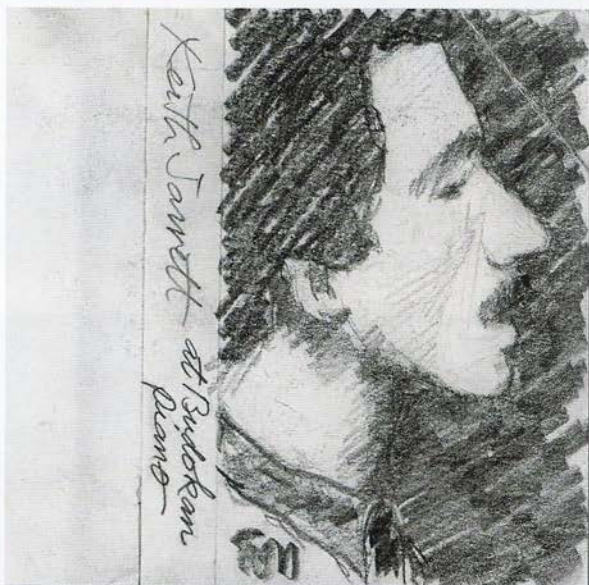
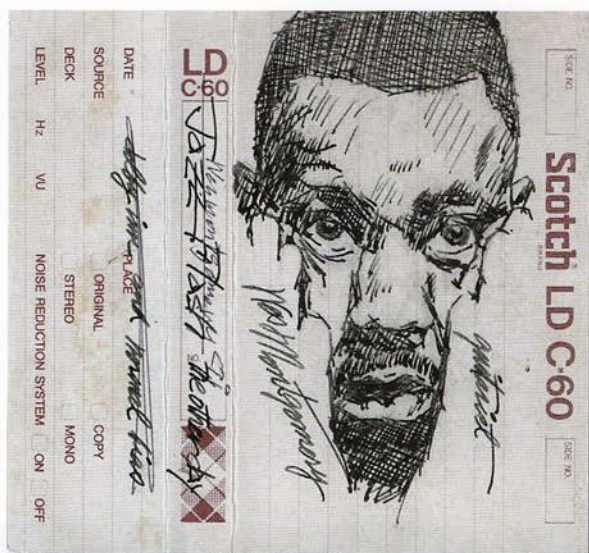
Yasuko . A



セミホウボウ

# My Gallery

近藤 利春さん (春日町出身)



45年前、ソニーのウォークマン発売。音楽を持ち出せるのは当時画期的でした。早速購入しジャズアルバムをダビング。一人旅にはウォークマンとカセットをリュックに。電車の中がライブ空間に変わります。レコードを聴きながらジャケットにイラストを描き、絵を見ると音楽が広がります。

# 簡単レシピ

## ぼくめし

中村典子さん（市島町出身）

ぼくめしは浜松のソウルフードとしてお祭りや祝い事の際に食べられています。その謂れは太い杭の「ぼくく」からきているそうで、私が浜松の地に住み始めた頃にはうなぎの生産量が多く、太すぎるうなぎが売り物にならなかったため、養鰻場の賄い飯として食べられ始め、それが「ぼくめし」と呼ばれるようになったようです。我が家の近くにあった養鰻場も閉鎖し、また近年ではうなぎの値段も高騰しているので、家で作る機会も随分減っています。副菜として、すまし汁、新玉ねぎのスライス等簡単に出来てあっさりとしたものがオススメです。

### 材料

1. 米 3カップ
2. うなぎ 200g（白焼き）
3. ごぼう 100g
4. 山椒粉

### 調味料

1. 醤油 大さじ 4
2. 酒 大さじ 5
3. 砂糖 大さじ 2

### 作り方

- ①お米は同量の水で炊く。
- ②うなぎは1cmの幅に切り、熱湯に通して水を切る。
- ③ごぼうはさがきにして油で炒

める。余分な油は捨て、調味料をすべて加え、沸騰したら②を加えて煮含める。

- ④①の中に③を切るようにして混ぜ込み茶碗にもる。
- ⑤好みの量の山椒粉を振る。木の芽があればのせる。



# 簡単レシピ

## さくらんぼ（紅秀峰）のコンフィチュール

高見美智子さん（氷上町出身）

さくらんぼのコンフィチュールを作ります。作り方はジャムの手順で煮かたが異なります。さくらんぼを洗って軸と種を取り、果実の20%弱の砂糖をまぶし冷蔵庫で一晩置きます。砂糖はグラニュー糖を使用しましたが、きび砂糖などのブラウンシュガーを使うとコクのある仕上がりになりますが、色はくすみます。通常、果実の60%位の砂糖を使用しますが、さくらんぼの甘みが強いので20%にしました。ペースト状のジャムと違いフルーツの粒々感を生かして幅広く活用できます。ヨーグルトのトッピング、マフィンやスコーンとの相性もよく、ソースにすることも出来ます。さらにバルサミコ酢やワインビネガー、オリーブオイルなど合わせてフルーツドレッシングにして彩りも楽しめます。

また、ドリンク作りにも幅広く活用できます。紅茶やハーブティー、ホットドリンクや氷を入れてソーダ割にしてかき氷のシロップとしてもおすすめです。果肉を添えれば彩りも楽しめます。



### 用意するもの

- |          |       |
|----------|-------|
| 1. さくらんぼ | 6個    |
| 2. 薄力粉   | 100g  |
| 3. 卵     | 1個    |
| 4. 冷水    | 200ml |
| 5. 塩     | 一つまみ  |

### 作り方

卵を泡だて器で泡立つくらいに混ぜ、冷水を加え、塩一つまみ入れて混ぜます。その中に薄力粉を加え、ダマが少し残る程度にします。普通のだらみの要領で揚げます。

【食味】見た目は良くないですが、揚げトマトより甘みが強く、果肉がしっかりしています。冷めても甘みがあります





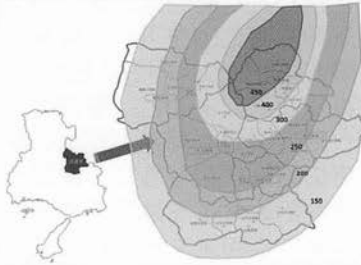
# 丹波を撮る

文：徳田八郎衛、撮影協力：和久靖之

## (1)市島町旧前山村を往く①



2014年8月16～17日、丹波市北部と福知山市南部を24時間雨量が414mmに達する豪雨が襲う。市島町、春日町、氷上町での人的被害は死者1、負傷者4。丹波市全体の物的被害は、公共土木施設35.8億円、住宅関係21.2億円、農林施設20.0億円等で総計94.9億円に達した。256か所で林地崩壊があり、そのうち104か所は人家に影響を与えた。



←8月16・17日丹波市内累積降水量



←徳尾谷上地区の急傾斜地崩壊対策工事（市島町徳尾）。各集落に複数の崩壊箇所があり、毎年のように集中豪雨が繰り返すので、兵庫県にも優先順位の選択は苦渋の決断であったが、このモルタル吹付工事は2015年に開始され、2016年7月に完成した。

## (1)市島町旧前山村を往く②



←余田谷から左上の鴨坂・上鴨阪の谷を進む。上鴨阪の曹洞宗萬宗福寺から左の小さな谷へ入ると庵という感じのこじんまりした寺が森の中に見えてくる。聖徳太子の作と言われる薬師如来瑠璃光如来像の護持に努めてきた曹洞宗清水山薬師寺である。



←山門の案内板によると同寺は、明智の軍勢が黒井城攻撃の際、百毫寺とともに焼き払った小野寺三十六坊の一つであり、後年、文政11年(1828年)に至って宗福寺住職の手で再建された。焼き払われた時には、傷ついた武士が如来像を背に山を下り、祠を建てて像を護ったという。同寺に伝わる「薬師如来略縁起」によると、聖徳太子が湖水だったこの地を開き、湖水の龍蛇を小野寺の霊地に封じるため薬師十二神の尊像を刻み草堂を建てて安置された。和同年中に当地を巡錫した法道仙人が七堂伽藍を建て、同寺を開基したとされる。



←薬師如来なので病気の平癒を祈願する人たちがお参りするのは当然だが、穴を開けた石や瓦に紐を通し、本堂の鰐口の鐘の緒に結び付けて供える風習が当地にあり、境内には少なからぬ瓦が残されていた。また、この如来像は三十三年毎に御開帳され、ふだんはお目にかかれない。たまたま2014年3月末日から同年4月27日までが公開期間だったので、せっかく33年前や66年前に上鴨阪出身の友人から知らされながらも訪れることが出来なかった同寺へ伺い、ご住職に来意を伝え、如来像を撮影させて頂くことができた。その友人とは、本誌第27号(1996年)の会員近況コーナーに「戯れに歌を作りて入選す」を寄稿してくれた故余田功君である。心待ちしていた2024年の秘宝開帳を見ることなく、豊島区の霊園で眠っている。

# 丹波を撮る

文・写真：徳田八郎衛、撮影協力：和久靖之、写真協力：近藤悦生・植木政行

## (1)市島町旧前山村を往く③：前山小学校の閉校その1



←前山小学校も立派な歴史を誇っていた。明治7年、折杉神社に小学校「余田学校」として設立され、同15年に余田小学校となり、ようやく「村立」となるのは同18年。それまでは関係集落の「組合立」だったのだ。その後も「簡易小学校」「尋常小学校」と名称は転々とするが、同26年には現在の地に移転し、同34年には前山尋常高等小学校という、戦後の学制改革まで続く名称となる（昭和16年から同22年までは国民学校）。



明治43年と大正12年には校舎・講堂の増改築が行われ、戦中・戦後の卒業生が利用したのは、この木造校舎である。昭和33年には鉄筋校舎に改築され、45年後の平成15年に新校舎が竣工して閉校まで使用された。



写真（上）と写真（中）は、閉校前の「平成15年校舎」であり、写真（下）は、竣工当時の「昭和33年校舎」である。

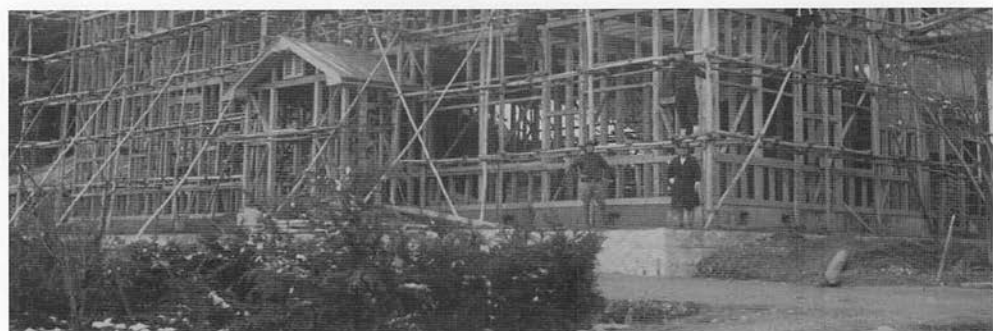
## (1)市島町旧前山村を往く④：前山小学校の閉校その2



← この三葉の写真は、大正12年に増改築された木造校舎の貴重な記録である。写真（上）は、児童が名札を下けているので戦前の写真とみる人もいるが、学校によっては戦後も名札を下げたし、教師のくだけた着衣から、戦後、それも昭和20年代後半と見ることも出来よう。



←この写真（中）には、昭和21年撮影と記されている。講堂兼雨天体操場であろうか。



校舎建設中の写真である。建築職人のモダンな仕事着から、明治43年ではなく大正12年の建設工事である可能性が高い。

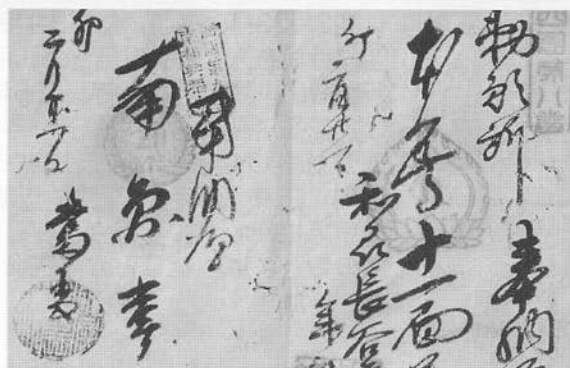
# 丹波を撮る

文・写真：徳田八郎衛

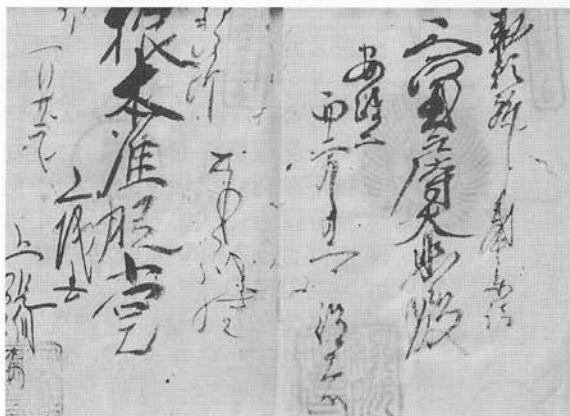
## (2)安政2年の西国33所朱印帳①



←あしかけ36日で約千キロのコースを周遊した曾祖父徳田庄三郎の巡礼で、もっとも強行軍だったのは、奈良から宇治・山科・大津の7スポットを2日間で回った時であろう。2月21日に奈良県南部の長谷寺と奈良市の興福寺・南円堂を参詣した後、宇治まで移動したと推定される。翌朝は宇治西部の三室戸寺に詣でてから山科の醍醐寺へ移動し、上醍醐寺まで登った後、尾根伝いに大津市石山の正法寺、さらに下って石山寺を参詣。さらに大津市内へ出て三井寺に到達する。その証拠となる朱印は次の通りである。



←兎2月21日、8番札所。豊山・長谷寺(右)と9番札所、興福寺・南円堂(左)。右には「勅願所奉納 本尊十一面、和州長谷寺」、左には「南円堂、当番」と各々日付が記されている。長谷寺から興福寺を経て宇治大橋まで移動したのであれば、50kmの強行軍である。

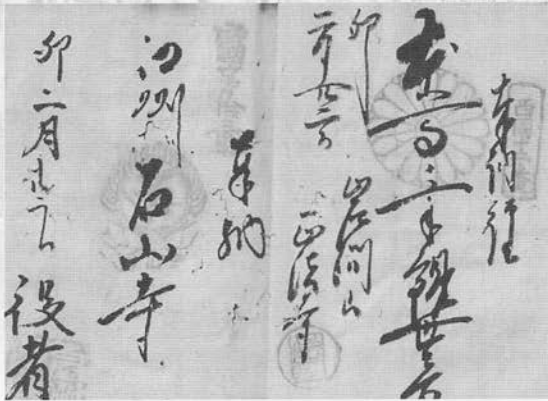


←兎2月22日、10番札所、明星山・三室戸寺(右)と11番札所、右には「勅願所 三室薬師、三室戸寺大悲殿、安政二」、左には「勅願所 西の御堂、根本准胝堂(じゅんていどう)」と各々日付が記されている。准胝堂は2008年に落雷で焼失し、今は麓の観音堂で納経や朱印を受け付けているので貴重な記録と言える。

# 丹波を撮る

文・写真：徳田八郎衛

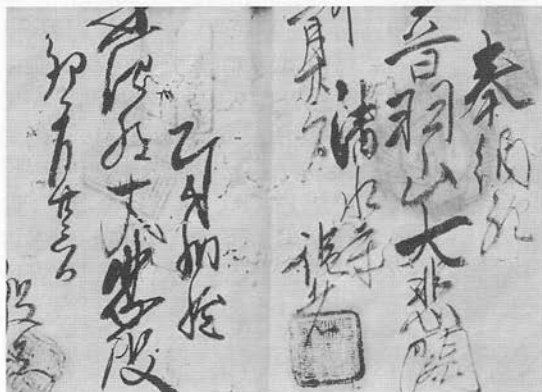
## (2)安政2年の西国三十三所朱印帳②



←兎2月22日、⑫札所、岩間山・正法寺(右)と⑬札所、石光山・石山寺(左)。岩間寺の名で知られる正法寺は、宇治市と大津市の境に位置する岩間山(443m)の山頂付近にあり、琵琶湖が一望できる。ここから瀬田川のほとりの石山寺への下りは8.8km。現代のガイドブックでも2時間半は必要と記されている。



←兎2月22日、⑭札所、三井寺・圓城寺(右)と2月23日、⑮札所、新那智山・今熊野観音寺。686年、大友皇子(弘文天皇)の子、与多王が送検したと言われる圓城寺。境内に三帝(天智・天武・持統)の産湯に使われた霊泉があり、御井の寺とよばれたことから三井寺となった。



←兎2月23日、⑯札所、音羽山・清水寺(右)と⑰札所、補陀落山・六波羅蜜寺(左)。空也上人が自製の十一面観音像を安置した堂が始まりで、空也没後、高弟の中信が六波羅蜜寺に改めた。ここには平家一門が5,200余の居館を並べたが平家没落の際の兵火で六波羅蜜寺は本堂以外の建物を焼失する。それにも拘わらず寺は仏像の宝庫として知られる。

**誰が市島町・前山小学校跡をリユースしませんか？**

青垣町の旧神楽小学校は、木の魅力を伝える体験型施設として生まれ変わった。この夏には、パワハラ兵庫県知事の「おねだり」で突如、耳目集めたところでもある。

市島町の前山（さきやま）小学校も跡地利用で今、利用者を絶賛募集中である。教室10教室の校舎に広いグラウンドがある。大阪から90分の距離だ。

山間に佇む静かなスペースはいろんな可能性を秘めている。どなたか、ここを起点に新しいビジネスを始めませんか？

**俳優新木宏典さんが丹波市の観光アンバサダーに**

丹波市の魅力をSNSなどで発信する初代観光アンバサダーに丹波市出身の俳優、新木宏典さんが就任した。新木さんは丹波が生んだ全国的イケメン。ワタナベエンターテインメント所属の「D・B

OYS」のメンバーであり、音楽ユニット「D☆DATE」のリーダーでもある。

今後、新木さんは、10万人以上のフォロワーがいる自身のX（旧ツイッター）やインスタグラムを利用して、丹波の魅力を大々的に発信していく。あなたも友達登録してみたら？

**一人で野球部を守った氷上西高の女性マネージャー**

氷上西高校の野球部は3年生が卒業した後、部員ゼロの状態が続いた。マネージャーの女性が一人で部活動を担う日々。誰もいないグラウンドに向かつて孤独なノック練習を続けた。

そこへこの春一年生が入部。ようやく選手相手にノックが打てる日が来た。

選手一人では夏の甲子園予選には参加ができない。そこで多可高校との合同チームで参加した。結果は惨敗だが、一人でも部活動を絶やさない氷上西高にアッパレ！

**丹波に突如現れた高校生「ライフルマン」**

氷上西高ライフル射撃部の横谷勇人さんが、「近畿高校春季ライフル射撃選手権大会」に出場した。

競技は10メートル先の直径15・5センチの的を、両手のレーザーライフル、片手のピストルで共に狙う。制限時間は45分。時間内に60発を撃ち、得点を競う。ピストルは片手なので照準を合わせるのが難しいと言う。

昔「ライフルマン」というテレビ番組があったが、とてもあんなふうには撃てないらしい。

**春高バレー氷上高校が今年も出場**

氷上高校女子バレーボール部が5年連続39回目の「春高バレー」に出場した。残念ながら初戦で敗退したが、県内では敵なしの強さを誇る。県予選も初戦から決勝まで1セットも落とさないといい絶对王者だった！

エースアタッカーは木下結稀。サブは高下百々花。そこに溝上愛那が加わる。溝上は淡路市出身。丹波にバレー留学してきた。U18でも日本代表に選出された有望新人だ。将来の全日本代表は間違いなくだろ。

さあ、みんな応援しよう。ニッポン、チャッチャッチャー！ミゾカミ、チャッチャッチャー！

**丹波在住のミステリー作家**

丹波・黒井に住む作家瞬那浩人さん（63）が、三作目の著書「残された命の証し」をヒーロー出版から出した。350ページの長編小説。一年がかりで執筆したという。

瞬那さんは関西大学大学院卒で、セイコーエプソンを経由し、作家一本の生活へ。それと同時に丹波に移住してきた。本が売れない時代、本気でみんな応援しよう！



撮影：徳田八郎衛 犬岡橋から下流を見る

# 丹波から

## 丹波に輝くソーントン

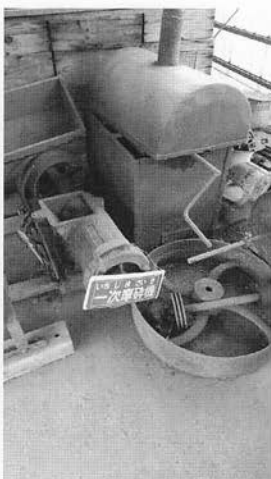
鎌野 善三（西宮市）



2024年元旦発行の丹波新聞に、「ソーントン宣教師」の特集が掲載されていました。キリスト教界ではかなり有名なこの宣教師のことが取り上げられたので、牧師である私は非常に嬉しく思ったことです。今春、『山ざる』の編集者のお一人から執筆を依頼されたとき、喜んでお引き受けしたのはそんなこともあったからです。

J・B・ソーントン宣教師は1922年（大正11年）から約6年、現在の崇広小学校の隣にあった旧藩校の「崇廣館」を借り受けて、日本各地から集まった若者たちに聖書を教えていました。「日本自立聖書義塾」と名付けられたこの学校の生徒は10名〜20名。その中には、1908年に来日していたソーントンの説教を聞いて、わざわざ神戸・大阪・岡山・東京からこ





の地にやってきた青年たちもいました。その一人が藤田昌直で、1970年に『丹波に輝くソーントン』という本を著しました。丹波新聞の記事は、この本から幾つかの引用をしています。

この聖書義塾には特色がありました。新聞には「朝は研究、昼は労働、夜は伝道」という見出しがつけられています。聖書は2000頁もあるので、最初から



最後まで読み通すのも大変です。ソーントンの講義は単に知識をもたらすだけでなく、魂に感動を与えるものだったと藤田は記しています。昼の労働には、塾生たちの生活を支えるという意味もありました。どこからも援助を受けないで「自立」していくために、ピーナッツ・バターを製造販売したのです。その製造機は現在も柏原町内に保存されています（写真参照）。さらに夜は、自転車に乗って山南・氷上・春日・市

島・青垣まで、聖書に記されている福音（ゲッド・ニュース）を人々に伝えるために出かけていきました。この働きによって、キリスト信徒となった人々が、2022年に創立100周年を迎えた「丹波柏原教会」の礎となったのです。再建

されて現在崇広小学校の校門となつてゐる尚徳門から伝道に出かけようとしてゐる塾生たちの写真をご覧ください。

様々な事情でソーントンは1926年に帰国の決心をし、塾生たちは神戸にあつた「御影聖書学校」で学びを続けることになりました。その内の一人が私の父、鎌野良作です。父は静岡県三島でソーントンの説教を聞き、柏原に来る決心をしたとのこと。そして1989年に亡くなるまで丹波柏原教会の人々と苦楽を共にしていました。

ピーナツツ・バターの製造技術を受け継いだのは、現在の「ソントン食品工業株式会社」です。初代社長の石川郁二郎は、塾生たちの生きざまに感動してその願ひを持ったそうです。その孫である石川紳一郎（ソントンホールディングス代表取締役）は、丹波柏原教会の『創立100周年記念誌』に、社名の由来は「早口でせっかちな性格の郁二郎がソーントン先生を語る時、いつもソントン先生と周囲には聞こえていたから」と記しています。

1959年にソーントンが米国で死去した翌年8月、

彼のもとで学んだ塾生たちが日本各地から丹波柏原教会に集まり、恩師の思い出を語る「記念会」を開きました。そこに集つた人々は大らかな感銘を受けて、同趣旨の集会が1〜2年に一度開催されることになりました。「丹波聖会」と名付けられたこの集いは、今年8月には第60回となります。講師として、藤田昌直はもちろんのこと、ご長男であるS・W・ソーントンも数度来会されました。彼は米国イリノイ州にある教会の牧師でしたが、1970年に67歳で来日し、福島市の聖光学院で英語教師をしながら伝道して、一つの教会が誕生するに至りました。

『丹波に輝くソーントン』の後半部には、丹波の村々町々に荷車をひきながら伝道しているとき、夫人宛てに書いた書簡が収録されています。私はその翻訳のお手伝いをさせていただいたのですが、夫人に対するだけでなく、丹波の人々に対するソーントンの温かい愛を感じました。また、2015年から2年間、「御影聖書学校」の後身である「関西聖書神学校」の校長を務めさせていただいたことも不思議なつながりだと感謝しています。

(西宮聖愛教会牧師 柏原町出身 柏原高校S43年卒)

参考文献

藤田昌直 『丹波に輝くソントン』いのちのことは社、

1970年

ソントン食品工業株式会社 『ソントンの歩み』、1994

年

丹波柏原教会 『創立100周年記念誌』、2021年

荻野祐一 『崇廣館と志士たち』 崇廣館を再建する会、2

024年

ピーナッツ・バター製造機写真、柏原町・植木克幸さん

提供

子ども45人、大人36人の城山教室

二十五周年記念書道展を終えて

大槻 佐知子(丹波市)



高校在学中は、竹内五郎先生に前衛書道を教えて頂きました。書道家荻野丹雪さんとは、一年後輩の書道班でした。高校生ながら毎年、大阪日展には先生に連れて行って頂きました。その時書道は勿論日本画、洋画、彫刻、工芸美術、各部門に深い感動を覚えました。結婚してからも、忙しいのにあの感動が忘れられなくて日展だけは見に行きました。私が三十四歳の時夫が病死しました。その時多忙な仕事の傍ら無心になれる時間を求めてほんの少しの時間、筆を持つようになり、そろそろ五十年になろうしています。当初は、ただ夫を亡くした寂しさ、むなしさから逃れたくてそれ一心でした。そして毎年見る日展の感動も、私を救ってくれました。



色紙額

した風信書道会に、入会して貰い毎月競書を出し冊子に写真が載るのを楽しんだり、本部の指示で、色々の展覧会にも出せるようになり、青潮書道会展、兵庫県展、豊岡市展、日本書芸院展、読売書法展等本部の先生方のご指導を受け挑戦が始まりました。

今回九十一歳の方が「長いことお世話になりましたけど、そろそろ限界です」のお言葉から「何年になるのでしょうか」と話して振り返りましたら二〇〇〇年四月から風信誌に載せてもらっているから、足掛け二十五年になる事が分かり、もう先も短い教室全員で展覧会をと盛り上がりました。子供達優先で夏休み中ということで、日程も決め、子供の半切に書く課題

書道教室を始めたのは株

式会社オオツキの社長を交代した頃、ご近所の方が、

熨斗袋に、「お中元、お歳暮、お供。ご香料等書くのを教えて」から始まりまし

た。直ぐ書けるようになり、以前から私が所属していま



芭蕉布の着物を着用



九一歳の方と（向かって右端）

日頃の心情など、思い思いに語り合い、取り組みました。出来上がった作品を見て「私が書いた作品だろうか？」などとご満悦のお顔を見ると、毎月の競書や展覧会の出品に苦慮しているのと違い、それは楽しい時間でした。会場準備も業者さんに手伝ってもらい午前中に終わり、皆さんも自分や仲間の作品をすっかり見て、また美しく出来上がった会場で「すごい！」とほころんだお顔を拝見し、開催して良かった、と万歳を

も決め取り組みました。大人の方も風信まつりの作品を流用したり、自分の好きなのを展示したり、色紙だど小作品で気軽に作成出来るから、と全員で好きな言葉、



中学年作品

唱えたい気分でしたが、次は、ご来場下さらないと本  
 当に自己満足に終わると案じていましたが、生徒さん  
 たちが其々にお声かけ下さっていろいろなグルー  
 プのお友達らで終日賑わい、丹波の森の職員さんから  
 も「毎日凄く盛況ですね」と声を掛けてもらいました。  
 九十六歳の恩師に「よくやった。よくやった」と背中  
 を撫でて貰ったり、子供の生徒の祖父母さんまでお越  
 し頂き話が弾んだり、楽しい時間でした。

当番も居なかったら私が行こうと、医者診察日を変  
 更してまで心の準備をする生徒さんもあり本当に、  
 生徒全員で作らあげた展示会でした。全員が感動して  
 「来年も開催しよう。毎年しまししよう」と自然発生的  
 に声が上がりました。

教室を初めて以来  
 「随分沢山の生徒達  
 に関わり、巣立つて  
 行ったなー」と感慨  
 無量です。しかし一  
 人も書道の先生にな  
 ったと報告は貰った

ていませんが、今一番うれしいことは、柏原高校書道  
 部始まって以来「県高等学校総合文化祭書道展」で最  
 高賞の全国総文推薦賞に春日中学校城山教室出身の谷  
 垣結心さんが選ばれ全国レベルで活躍してくれている  
 ことが最高にうれしくて本人以上に私が胸を張ってい  
 ます。

篠山産業高等学校に入学した子は書道班が無いから  
 書道出来ないかと嘆くので、自分で書道班を作る覚悟で  
 頑張るように発破をかけています。

風信書道会城山教室  
 25周年記念作品展  
 全生徒の力作100点

丹波市 丹波市の「風信書道会城山教室」の25周年記念展、各校の書道部、丹波市原町南町の展示場「丹波市立中央公民館」の展示場にて、小・中・高の生徒が作った書道作品を展示しています。会場は、無料。開催期間：25日～27日。開場時間：午前10時から午後5時。会場：丹波市立中央公民館。お問い合わせ先：丹波市立中央公民館。電話：074-741-1800。開催中止の場合は、ホームページをご覧ください。

教室の生徒たちが制作した大小の作品が読者会場＝丹波の森公園展示ギャラリー



私事ですが昨日読書法展審査発表で評議員の中から選ばれる奨励賞を受賞しました。昨年風信書道会会長の息子さんが受賞された賞を今年私が頂いてよいのだろうか、と

神戸新聞より

些か気恥ずかしい気分です。八月二十四日東京での授賞式に元気で伺おうと心弾ませています。

私達の記念書道展終了の三日後、八月三日に日本の文化体験フェスティバルが同じ会場であり、丹波市の子供たち四十名あまり参加してくれて丹波書の会役員八名は本心に熱心に指導しました。

八月十八日には第二十六回席書大会もあり行事も目白押しですが丹波書の会の女性初の会長として与えられた使命は果たすつもりです。書の文化がユネスコ無形文化遺産に登録されます日が一日も早いことを願いながら。

(柏原高校昭和34年卒)



撮影・岡 吉明

# 丹波ブランド紹介

その15 丹波の「城」

絶景！黒井城跡の雲海  
丹波は山城の宝庫

古西 純

(丹波新聞社)

今年の「山ざる」『丹波ブランド紹介』は、「城」というテーマをいただいた。丹波市には江戸時代の「城」はない。あるのは戦国時代の「山城」跡である。「『山ざる』読者の方が帰省した折に『ちよつと足を伸ばして行ってみようか』と考える記事を」とのリクエストだったので、まずは最も有名な国史跡「黒井城跡」を紹介したい。



2020年11月、俳優の赤井英和さんを招いて盛り上がった黒井城まつり。赤井さんは祖父母や父が丹波篠山市の旧西紀町出身で、NHK「ファミリーヒストリー」で、赤井直正の弟・幸家（よしいえ）の子孫と紹介された

光秀の「丹波攻め」舞台上に

2020年のNHK大河ドラマ「麒麟がくる」は、長谷川博己演じる明智光秀が主人公だった。丹波市では大河が決まった2年前から、ちよつとした盛り上げりを見せていた。黒井城跡は、光秀が苦戦を強いられ

た「丹波攻め」の舞台だったため、「黒井城主の赤井(荻野)直正が登場するのでは」という期待感からだった。

結果を言えば、ドラマの中で「丹波攻め」はほとんど描かれなかったが、コロナ禍で「密にならない」屋外のお出かけ先として登山が好まれたという背景も相まって、黒井城跡に多くの観光客が訪れた年となった。

黒井城跡は、地元の方が毎年、丁寧に草刈りなどの整備を続けられており、市内では群を抜いて登りやすい城山になっている。市内で最初に登る城山としては、まず黒井城跡をおすすめしたい。

猪ノ口山(標高356メートル)にあり、山頂まで30〜40分程度で登ることができる。私も何度も登っているが、うちの子どもが3歳の時に真冬に登れたぐらゐの難易度だ。黒井小学校近くに広い無料駐車場がある。

### 秋から見頃「雲海」の名所

ちようどこの「山ざる」が発行される11月は、黒井城跡からも見られる「雲海」のベストシーズン。朝晩の寒暖差が大きい丹波は、深い霧が発生しやすく、雲



黒井城跡山頂からの雲海。深い丹波霧の上に出ると、「絶景」が広がる＝春日町黒井で

海の名所でもあり、というわけだ。

真つ白な霧の中から山に登ると、頂上と空はきれいに晴れているという不思議。霧で前髪をびちゃびちゃに濡らしながら自転車で登校していた高校時代、霧は嫌なものでしかなかった。大人になって、雲海を見て、霧はこんなきれいな景色を見せられるものだとして初めて知った。

雲海から昇る日の出はもちろん感動が大きいですが、それには相当早起きをしなければならぬ。しかも、暗い中を登ることになるので少々危険。雲海は午前8〜9時ごろまで見られるので、明るくなってから登っても十分楽しめる。雲海は毎日見られるわけではなく、





立派な石垣が残る岩尾城跡＝山南町和田で

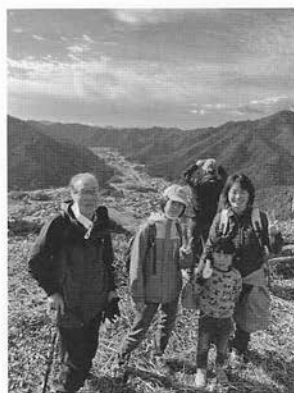
▽前日までに雨が降って湿度が高くなっている▽当日は気温が低く、風のない晴れた朝—というのが好条件だそう。3月頃まで、丹波の雲海シーズンは長い。

隠れた名所？「岩尾城跡」

山南町和田地区にある「岩尾城跡」も、「推し」た山城である。近年、地元の方たちが「観光名所に」と、木々を伐採して環境を整備され、見晴らしが格段に良くなっている。国史跡の黒井城跡ほど有名ではないが、

黒井城跡よりも多くの石垣が残っており、小さいながらも市内で唯一、天守台も備えている山城だ。

蛇山（標高360メートル）の山頂にあり、メインの登り口は和田小学校の敷地内にあ



岩尾城跡からの眺望は抜群

やや時間がかかるが、1時間程度で登れる。

市内の山城跡は100以上

市内にはこのほか、数多くの山城跡がある。丹波市教育委員会は昨年、遺跡として確認されている約110カ所の城跡をまとめたパンフレット「丹波国城攻め 丹波市之部」を作製した。春日、柏原の歴史民俗資料館の利用者



丹波市内の城跡をまとめたパンフレット「丹波国城攻め 丹波市之部」

館の利用者に無料配布している（購入や取り寄せはできない）。

る。和田地域づくりセンターの駐車場に車を停め、小学校の門を通って登山する。頂上まで、黒井城跡よりは

地図を見ると、よくもこんなにたくさん城が造られたものだと驚かされる。一大勢力がおらず、豪族が群雄割拠していた鎌倉時代。赤井氏・荻野氏が台頭し、織田信長の命による光秀との戦いで多くの城が滅ぼされた。

ちなみに、お隣の丹波篠山市にある国史跡「八上城跡」も、黒井城と同じく、丹波攻めで滅ぼされた山城。城主・波多野秀治は、赤井（荻野）直正と手を組み、光秀に一矢報いたという歴史も残る。八上城には光秀の母がはりつけにされたという「伝説」があり、2000年の大河放映時には丹波篠山市も盛り上がった。

### 城がつなぐ中世と近世の歴史

さて、丹波地域の「城」といえば、代表格は丹波篠山市の「篠山城跡」だろう。「日本100名城」にも選ばれている。江戸時代の初め、徳川家康の命で築城されたいわゆる天下普請の城で、1609年（慶長14年）にわずか半年で完成した。

以前に取材で知ったマメ知識になるのだが、この篠山城跡と、戦国時代の篠山を代表する八上城跡は、歴



徳川家康の命で造られた、国史跡「篠山城跡」＝丹波篠山市北新町で

史がひと続きになつている。

初代篠山藩主・

松平（松井）康重

は、1608年（慶

長13年）に、八上

城主として常陸国

からやって来た。

その際、父の徳川

家康から「八上城

は廃止して、笹山

に新しい城を造

れ」と命じられていたのだった。城と城下町の機能は、こうして八上から篠山に移された。

戦国時代は敵から攻められにくい「山城」が一般的だったが、江戸時代になり、政治が行いやすい平地の「平城」や「平山城」に城が変わった。

八上城跡は「中世」を代表する城跡、篠山城跡は「近世」を代表する城跡として、どちらも国史跡に指定されている。

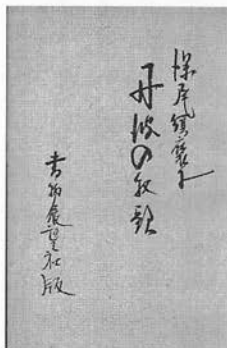
## 時代の先駆者「深尾須磨子」

原 谷 洋 美（杉並区）



梅雨のある日、駒場公園内の一角にある近代文学館を訪れた。その文学館に、森鷗外文庫や与謝野晶子コレクションとともに、文庫ナンバー

59番として深尾須磨子文庫がある。文庫は著者や遺族からの寄贈と言うが、丹波出身の深尾須磨子文庫があると知ったときは心底驚いた。詩稿、与謝野晶子や岡本かの子や西脇順三郎らの書簡、遺品、旧著書などの2829点が保存されているらしい。文庫から『丹波の牧歌』など3冊の貸し出しを求めたが、残念ながら成田分館に移管したこのこ



とであった。取り寄せの請求をして、館内に所蔵の詩集『班猫』や文学全集などを閲覧した。手にした『新潮日本文学アルバム24・与謝野晶子』のページを繰っていると、須磨子が写っている写真が2枚も掲載されており、いかに須磨子が晶子に私淑し、門下として認められていたことと、詩人として文学者として活躍した事実を改めて納得した。

### 処女出版『天の鍵』

1912年（M45）須磨子は、岐阜県の山持ちの家に育ち、京都帝国大学出身の鉄道技師・深尾贇之ひろのすけと結婚した。彼が26歳、彼女24歳。哲学を学び、バイオリンを弾き、文学をよくする物静かで温厚な青年であった。須磨子は夫の理解を得て語学学校に通った。また、彼のバイオリンにすっかり魅せられてバイオリンも学習するなど、恵まれた新婚生活を送っていた。しかしながら幸せは長続きせず、法事で岐阜の実家に帰省中に原因不明の高熱に見舞われた贇之ひろのすけは、間もなく急逝した。1920年（T9）結婚後8年目の夏である。

相思相愛の夫に先立たれた須磨子の嘆きはどんなにか深かったであろう。須磨子が書いた夫・贇之照のプロフィールには「好きな文学への執念がたちきれず、大正7年、尊敬していた森鷗外、与謝野晶子を選者とする、東京日々新聞の現代詩公募に、自作の長編一編を応募し、首席に選ばれた」と書き、彼女の文壇デビューの遠因にもなりそうで、非常に興味深い。

深い嘆きの底にいた須磨子は、しかし、そこだけで終わる女性ではなかった。彼女のバイタリティーが発せられるのは、前述のプロフィールに因っている。夫・贇之照作品の一番の愛読者であり最大の理解者であった彼女は、作品集の発行を思い付き、与謝野晶子に相談した。数年前から親しく目を掛けていた晶子は、遺篇を整理して上梓すると同時に、須磨子自身の作品を付録とすることを強く進めている。晶子が書いた跋文を抜粋してみる。

略— 「天の鍵」には森林太郎先生が序をお書きになり、山本鼎さんが装幀をなさいました。かうして作者の遺篇が最も立派に社會に紹介されるのは限りなく嬉しいことです。 —略—

大正13年10月19日、詩話会主催の詩人の自作朗読の会にて。前列右より中田のぶ子、晶子、深尾須磨子、沢野綾子、後列右より尾崎春八、川路柳虹、佐藤惣之助、福田正夫、寛、白鳥省吾、山田耕伴、島崎藤村、富田碎花、野口雨情、小山内薫、北村春夫



尤も「天の鍵」に深尾夫人の作品を附録とするに到つたのは、私が特に婦人にお勧めしてしたことです。 —略—

猶、夫人はこの附録の作品以後に、幾多の秀れた新作を渾々として続けられて居ます。我國の詩壇が、夫人に由つて初めて天成の女詩人を得たことを承認する日は恐らく遠くないでせう。

斯様にして、森鷗外の序を冠した『天の鍵』に附録ではあるが自身の作品「詩五十四篇」を以て晶子のお墨付きを得て、詩人・深尾須磨子は誕生したのである。

冒頭の一編の「かわいそうな彼と私」の少々乙女チックな恋しい日常の描写が、今後どのように詩と詠まれ、晶子と言う所の女詩人に昇華していくのだろうか。上の写真のキャプションに書かれる一

924年(T13)は須磨子36歳。天逝した夫の遺稿集『天の鍵』を上梓してわずか3年である。写っている人物すべてが日本近代文学史で見聞する名と顔である。『天の鍵』は文字通り、夫から受け取った天の扉を開く鍵であり、須磨子の華々しい詩人としての登竜門を開くことになった。

生い立ちと結婚までの年譜

1888年(M21)11月18日に氷上郡大路村下三井庄(現在、丹波市春日町下三井庄)に、父荻野小次郎福秀、母岸恵の7人目の末っ子として生まれた。荻野家は父母ともに武士の出で格式高い生活をしていた。世の趨勢に倣い、神戸に出て日本で初めての茶の輸出商を始めたが失敗し、虚しく帰丹を余儀なくされ、これを機に没落に向かう時の出生であった。幼名は「志げの」である。彼女が4歳の時に父は波瀾の生涯を閉じた。没落は決定的になったが、母は毅然とした高い精神性で7人の子育てをした。末っ子の志げのは、片時も母親から離れたくない甘えん坊だった。この幼い折の深層心理は、彼女が生む多くの詩の下敷きになっている。

その後の志げのは8歳で仙台市の叔父・荻野魚太郎の養女となったが、山育ちの少女がもらわれて行った北国の海辺の家に馴染めるはずもなく、後年の詩の種になるほど孤独な立場を嘆いていたが、10歳の秋に、夢に見た丹波の実家に返された。

11歳の初夏には、大阪に居る仙台の叔父の弟の家に預けられ、そこでは姉も一緒に働き、そのうち市内の商家に移され、子守りをしていたという。まだまだ母親に甘えたい8歳から11歳の少女にとってなんと過酷な日々であっただろう。目まぐるしい居場所のなさは詩を生む通奏底音であるに違いない。

1901年(M34)12歳の志げのは大路尋常高等小学校へ転入してきた。これについては、丹波新聞創設者・小田嘉市郎自伝『権太くされ』に次ぎの描写がある、

——略——その高等科一年へ京都から転校してきた女の子がいた。荻野しげのと言って、ごつごつの木綿物しか着ていない子供達の中で唯一人、メリンスの着物を着ていた。お下げ髪にリボンを結び、えび茶の袴を胸高にはいていた。黒目

がちの色の白い上品な子であった。まさに群鶴  
中の一鶴と言えた。——略——

しかし、1年余りを過ごして再び京都に戻り、15歳で  
京都師範学校に入学している。晶子ばりの歌を詠み、  
派手な袴で通学したりと、服装や言動のため退学とな  
った。その後直ぐに菊花高等女学校に転入し、ここで  
も自作の劇を上演するなど、大いに自己主張を続けた  
が、1907年(M40)に無事卒業している。この女  
学生時代に与謝野晶子と通じる糸が芽吹き重なって行  
くことに注目したい。

彼女の後ろ盾になり良き理解者の川口孫次郎、得子  
夫妻の知己を受け、最愛の夫・深尾贇之照と結婚する  
ことも、目くるめく女学生時代も、与謝野晶子に真底  
自分を重ねたこともまた、幼き日々と同様、詩を生む  
通奏底音であったに違いない。更に、幼女時に生まれ  
た丹波の自然、人々、食べ物、日常などの丹波そのも  
のが一際深く響く通奏底音であったのだろう。

### 謎多き丹波女性

深尾須磨子はミステリアスである。幼名志げのから



東京都杉木の自宅書斎の須磨子

光を浴び始め、毎年のように詩集を上梓したとは言え、  
1925年(T14)に渡欧、フランスに3年以上も滞  
在し語学やフルートを習うことができた。その費用な  
どはどうして捻出したのだろうか、と素朴な疑問が須磨  
子に向き合う端緒である。ドラマチックなそれらにつ  
いては、次回にまた書いてみたいと思っている。

兎にも角にも、1930年(S5)の2度目の渡仏  
でパリ・ソルボンヌ大学のトールーズ博士に性科学を  
学んだ事は、一つのエポックであった。

### 『葡萄の葉と科学』は(詩と科学との握手)

1934年(S9)1月出版の性科学書『葡萄の葉  
と科学』は2月に再販となる程の大反響であった。

何しろ日本を知らない、日本語を知らないフランス性研究会の医学博士・ダルサスに序文で「浮世繪を通じてのみ心惹かれてゐた日本の女性、お伽噺の國の人物のやうにしか想はれぬ日本の女性」と書かれて仕舞う時代に、堂々と性の問題へ斬り込んでいったのだから。そして須磨子にとっては最大の賛辞

—略— 深尾女史が詩人としての立場からこのデリケートな問題に直面し、その科學的研究を進められる時、常に詩と科學との握手を忘れなかつたことは、吾々の注意に値する。—略—

と紹介した序文には（詩と科學との握手）の副題が添えられているのが、非常に印象的な一冊である。須磨子自身の序でも

—略— 全く古来から、どんなに多くの裸像に、繪畫に、物語に、見やうによつては不思議な葡萄の葉が大切にあられてゐることでせう。しかも単に長い習慣から、かりにも不謹慎無作法と思はれる事物に對して、吾々は注意深く何重もの覆ひを被せずにはいられないのです。—略—

物事の本体を知らずに隠すことにのみ専心する結果が、

ついには人類の活動の本源である性の事実までが、無智、妄想、曲解等で裁かれ、明朗新鮮なるべき日常生活が、やがて人生そのものまでが灰色の怪物のようになる、と問題提起している。

本文では「寓話の場合」の章では日本の桃から生まれる桃太郎、竹から生まれるかぐや姫、木の股から生まれる子供の伝承、欧州でも赤坊はきやべつから生まれるとの言い伝えがあるが、やはり、明確な知識と判断力で純真な生命の誕生を知らせるべきだと述べ、伝説を覆したい次の詩を記し、

—純真—

しつかりと握つた赤坊の掌に、  
大きな謎があると申します。

—天の鍵！—

詩人の立ち位置から持論を繰り広げている。また、「生物に見る」の章では、自身の幼少期を振り返り、自分の顔や性格が早くに亡くなった父に似ていること、それを口癖のように言っていた母への追慕も収めている。

挿入された詩は、なんとも優しく淋しく、しかし毅然として、理路整然とした難い文章の間に置かれると、

昭和9年2月、深尾須磨子著『葡萄の葉と科学』の出版記念講演会(朝日講堂)にて、前列右より生田花世、山田わか、深尾須磨子、神近市子、荻野綾子、岡本かの子、晶子



その起承転結のクッション剤となつてゐる。夫との共著の標題であつたり、最愛の母だつたり、と読者が息継ぎできる題材は、元來須磨子に流れてゐる詩精神なのだろう。副題

の(詩と科学との握手)は言い得て妙だと、言葉の持つ力を強く覚えた。

こうして、生物の知識と文芸を融合させた『葡萄の葉と科学』は出版後に直ぐ再版され、当時の文壇でも大きな話題となつたに違いない。右の写真のキャプションに知ると、再販された2月には出版記念講演会が催され、当時の女流文学者が綺羅星のように集つてい

る。岡本かの子に与謝野晶子に声楽家の荻野彩子。なんと華々しい晴れやかさだろう。丹波出身の女詩人、女流文学者が誇らしい。

唯一丹波が冠された『丹波の牧歌』や詩集『斑猫』、教科書に採択された詩、合唱曲の歌詞になつた詩等についても、2回目の人物伝を書きたいと思う。

註：明治は(M) 大正は(T) 昭和は(S)と省略  
参考文献

『天の鍵』 アルス社 (T10)

『葡萄の葉と科学』 現代文化社 (S9)

『丹波の牧歌』 書物展望社 (S10)

『新潮文学アルバム24・与謝野晶子』 新潮社 (S60)

『権太くされ』 新版小田嘉市郎自伝／丹波新聞社 (H26)

『深尾須磨子―丹波の自然がはぐくんだ詩人』

春日町役場企画開発課内

深尾須磨子生誕百年祭実行委員会 (S63)

(山南町出身)



## 孤高の彫り物師 初代柏里

荻野 祐一

(丹波新聞社会長)

6歳で「雪の朝」の句を作ったとされる田ステ女の童女姿をかたどった石像が柏原藩邸の前にある。作者は、初代の磯尾柏里。明治23年（1890年）、柏原町柏原に生まれ、独学で彫り物を極め、晩年には兵庫県文化賞を受けた在野の彫刻家である。その初代柏里を多くの人に知ってもらいたいと、今、吹田市にお住まいの西田芳和さんが「初代磯尾柏里再発信プロジェクト」と名づけた活動を展開されている。今号の『山ざる』では、初代柏里の人物像と西田さんの活動について書かせていただく。

裸一貫、体当たりで挑む

初代柏里の本名は、健治という。「柏里」の名は、健治が彫り物師として世に知られるようになった頃、

その作品に惚れ込んだ篠山在勤の毎日新聞の記者が授けたものだ。

大きくなれば彫り物師になりたいという夢を持っていた少年だった。しかし、親に反対され、やむなく大工となった。その後、妻をめとったが、彫り物師の夢は消えることなく、妻と手を取り合って東京に出た。親には、上京することを話しておらず、いわゆる出奔だった。23歳の時である。

彫刻家の弟子になろうとしたが、すでに弟子入りする年齢ではなかったために叶わず、働きながら暇を見つけて彫り物を学ぼうとした。指物師、人力車



制作中の良寛和尚像と晩年の初代磯尾柏里

夫、露天商、郵便集配など職を転々とし、赤貧の暮らしを送った。しかし、夢を捨てることはなかった。

東京にいた頃、健治の所在地を知った妹が訪ねてきた。そのとき、健治は妹に「毎年、帝展を見に行くが、みんな、立派な着物を着た人ばかり。それにひきかえ、わしはみすばらしいなり。寒いのにメリヤスのバッチさえ買えず、寒さに震えながら見たこともあった。でも、食べ物毎日、お粥でいいから彫り物がしたい」と語っている。

東京で2男1女の子どもができたが、芽が出ないまま上京から10年が過ぎた大正12年、関東大震災が起きた。健治一家の住む長屋など、ひとたまりもなかった。とうとう健治は東京に別れを告げ、ふるさと柏原に戻った。

30歳半ば、裸一貫の健治は体当たりで彫り物に取り組む決意を固めた。教えてくれる者はいない。日本美術学院発行の『彫刻講義録』と、帝展で見た作品の記憶を頼りに一からの出発だった。

### 兵庫県文化賞を受賞後、死去

お盆、茶托、煙草盆、だるまの彫り物など、次から次へと売り物の彫り物を作った。とはいえ、簡単に売れる訳はない。妻は駅の売店に勤め、健治もときには仕事に出て糊口をしのいだ。苦しい生活は変わることはなかった。

柏原に腰を据え、ひたすら彫り物に打ち込んで10年が過ぎた頃、健治は一刀彫りを始め、恵比寿、大黒、柏原人形などを作った。健治の一刀彫りには、10年間の鍛錬で磨かれた技の冴えがあった。ついに新境地を開いた健治の名前は地元で知られるようになり、注文が舞い込んだ。理解者も増え、来宅する人が多くなってきた。

しかし、彫り物のことで頭がいっぱいで、寸暇を惜しむ健治は、どんなに肩書きのある人が来ようとも、仕事の手を休めることはなく、適当に返事をするだけだったという。

順風に乗った健治だが、禍福はあざなえる縄の如しという。戦争が勃発し、彫り物など見向きもされ



前にある作品は「嗶（わら）う」、後ろの作品は「猩々（しょうじょう）」

なくなつた。戦後、健治がカムバックした第一作は、柏原八幡宮内の厄除神社の狛犬だ。もともとあつた狛犬は鋳物だったため戦時中に供出された。健治にとつて初めての石彫だった。ほどなく、これまた田ステ女の石像の依頼を受け、ふるさとに後世残る作品を相次いで作つた。

昭和29年、64歳の時、第1回都市美彫塑展に出品した木彫作品「平和」が入賞した。入賞者は14人。日展の審査員、日展入選の常連者らが名を連ねたなか、何の肩書きもない一介の郷土作家が入賞し、中央で絶賛された。独学で彫刻の技を磨いてきた健治

が老境に入つて、ようやく手にした勲章だった。

東京での授賞式に出ることになった健治だが、着て行く服がなかった。借金をしてコート、和服、中折れ帽子などを新調した。懐の寂しい健治は一泊もすれば帰るつもりでいた。

しかし、健治の才能に感心した主催者は、平櫛田中や朝倉文夫ら彫刻の大家に健治を会わせようとした。健治にすれば、ありがたい話ではあるが、東京で長居できる余裕はなかった。主催者の目をくらまし、こっそり柏原に逃げ帰つたという。健治の無欲恬淡ぶりを物語るエピソードである。

彫り物師として数々の作品を生み出した健治をたえ、昭和43年、県文化賞が贈られた。受賞からおよそ5カ月後の翌44年3月、がんで亡くなった。78歳だった。

病床にある時、見舞いに訪れた妹たちが「元気がなつたら、兄妹そろつて温泉に行こうね」と話しかけた。しかし、健治は何も答えない。妹たちは話を変え、「元気になったら、また彫り物をせんならんなあ」と呼びかけた。すると、健治はとたんに顔を

うれしそうに崩し、「そーや、そーや」とうなずいた。彫り物に生涯を捧げた健治らしい最期だった。

市内小学校で特別授業

終生、在野の彫り物師だったが、その技は中央でも高く評価された初代柏里。死後、半世紀以上が過ぎた今、初代柏里に光を当てたいと、西田さんが、冒頭に書いたプロジェクトを立ち上げた。

いささか面映ゆい話だが、私が30年以上前に書き、「丹波文庫」の一冊として発行された拙著『磯尾柏里伝』を西田さんが読み、初代柏里の生きざまに感動したのがきっかけになった。54歳の時だった。昨年3月、定年退職したのを機にこの活動を始めた。西田さんは三菱電機に勤め、ビデオデッキなどのメカ設計をしていた方で、義父（妻の父親、豊岡市出身）は35年ほど前、兵庫県丹波県民局長をされ、『磯尾柏里伝』の発行に監修者として携われた。

活動の一つとして『磯尾柏里伝』を紙芝居風にした動画を作成し、YouTubeで配信している。ほかに作品展の開催や作品集の発行、作品常設展示館



丹波市内の小学校で特別授業をする西田さん

のなかつた不屈の精神と一途な姿勢。さらには都市美彫塑展の入賞作に見られるように、晩年、平和をテーマにした作品を多く作ったことから、平和を希求した柏里の思い。その二つを子どもたちに伝えたいと、昨年度、6校の小学校で柏里に関する特別授業を行ったのである。

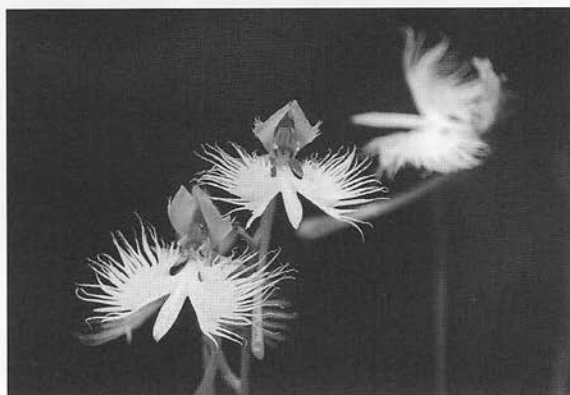
の開設などをめざし、関係者に働きかけているが、特筆すべきは、丹波市内の小学校での特別授業である。

子どもの頃からの夢を追い求め、どんな困難に出合おうとも、あきらめること

西田さんが小学校を訪ねて校長先生に出会い、自ら掲げたプロジェクトや、子どもたちに届けたいメッセージを伝えたことから特別授業を行うことになった。西田さんの熱い思いに感心し、特別授業を引き受けた校長先生もいた。今年度も引き続き市内小学校での特別授業を行っている。

県職員だった義父が丹波で勤務したことがあるほかに丹波との接点がなかった西田さんが、吹田市からわざわざ丹波市に足を運んで活動されている。初代柏里の孫になる3代目の柏里（本名・隆司）さんと共に、初代に寄せる西田さんの思いの深さに、ただただ脱帽している。

柏里を再認識しようという、西田さんの投じた一石も引き金となって、丹波市立植野記念美術館で遠くなくうちに初代柏里展が開催される見込みになった。初代だけに絞った展覧会は、拙著が出た時以来だと思うので30何年ぶりになろう。開催されれば、ぜひご覧いただきたい。



撮影・岡 吉明

# 山ざる研究

安政2年の西国三十三所朱印帳  
へ辿って知った幕末の我が家

徳田 八郎衛（浦安市）

1 はじめに

これは安政2年卯年（1855年）に当時27歳だった私の曾祖父・徳田庄

三郎が、丹波国水上郡（今の丹波市）母坪から39日で西国三十三所の霊場を巡礼した記録である（写真1）。



写真1：「西国順拝納経帳」表紙

旅の会計簿は残っていないが、曾祖父の健脚度を測ることは出来るし、霊場群をどのようなくースで巡ったか



写真2：82歳の徳田庄三郎



写真3：曾祖父自ら背負って帰った柱時計

も知ることが出来る。

参考のため曾祖父の人物像を紹介すると、文政11年（1828年）生れで幼名は岩蔵。

この旅の年の秋に結婚し、4年後に31歳で家督相続。6年後の明治3年（1870年）に村の年寄（村三役のナンバー2）を、翌4年から庄屋を

渡々務めた。旧制度の村から新制度の部落・区へ移行する時期だから行政も試行錯誤が多く、振り回されて大変だっただろうが、3期6年だけ務めて一族の若手と交代する。まるで現在の自治会長のように「早く交代したい」である。

同12年には未だ独身の長男八郎右衛門に家督を譲り

(当時51歳)、弟子に算盤や測量を教える。子供にはなく新しい時代の新しい仕事に必要な大人に……算盤で平方根どころか立方根も求め、複利計算も行ったそうだ。筆者など筆算でしかできないが。大正6年12月に行年90で没するまで晴耕雨読を楽しみ、金子堅太郎や津田梅子たちの留学生を伴った岩倉使節団が渡米する頃、英和辞書を購入して英語を学んでいる。死去する数日前まで畑仕事を楽しむほど壮健なので、周囲は行年87と見做したが、戸籍を点検すると90歳の大往生だ(写真2)。明治16年に大阪で米国製柱時計を購入した際も、同行の下男ではなく自ら背負って家へ持ち帰ったと時計に記している(写真3)。

## 2 旅の行程

ここに掲げる各霊場の名称は、曾祖父が残した納経帳(朱印帳)に記されたものである。現代のガイドブックとは山名や寺名が異なるものもあるが、当時の人々がそう捉えていたという記録である。例えば手近の加東市・清水寺は、ガイドブックでは御嶽山・播州清水寺だが、地元人には当時も今も「清水さん」で、曾祖父も清水山と記す。箕面の弥勒寺は、清和天皇の病氣



写真4：西国1番那智山の墨書と朱印

も自分の番号を朱印に取り入れている(写真4)。

回復祈願に成功し、勝尾(王)寺という新しい寺名を賜わり武家や受験生の人気を集めたが、曾祖父は平安時代以前の旧名を記している。

39日で約千キロを踏破した行程は次の通りである。丸数字は各霊場の番号で、どの霊場

- 1月22日 丹波国水上郡母坪村出発
- 1月24日②⑧ 宮津市 成相寺
- 1月26日②⑨ 舞鶴市 松尾寺
- 1月28日③⑩ 長浜市 竹生島 宝巖寺
- 1月30日③⑪ 近江八幡市 観音正寺
- 1月30日③⑫ 近江八幡市 長命寺
- 2月3日③⑬ 岐阜県揖保川町 谷汲山華巖寺
- 2月11日① 和歌山県勝浦町 那智山青岸渡寺

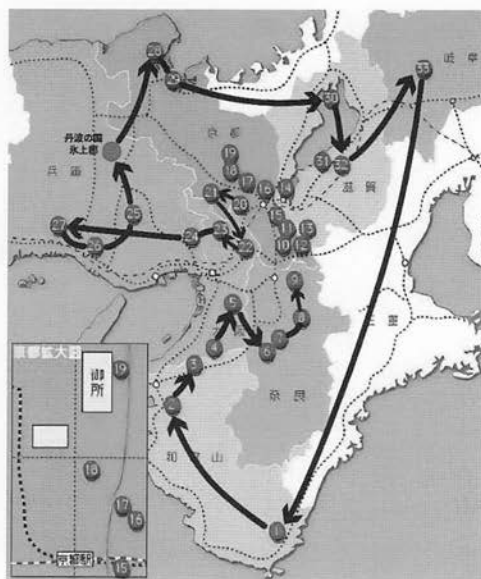


図1：地図上の曾祖父行程順路

- 13日まで滞在 「日本第一熊野」  
 2月17日② 紀の川市 紀三井寺  
 2月16日③ 紀の川市 風猛山粉河寺  
 2月18日 番外 和歌山県高野町 金剛峰寺  
 2月19日④ 和泉市 槇尾山施福寺  
 2月19日⑤ 藤井寺市 紫雲山藤井(葛井)寺  
 2月20日⑥ 奈良県高取町 壺坂山南法華寺  
 虫喰い ⑦奈良県明日香村 東光山岡寺(龍蓋寺)  
 2月21日⑧ 桜井市 豊山長谷寺

- 2月21日⑨ 奈良市 興福寺南円堂  
 2月22日⑩ 宇治市 明星山三室戸寺  
 2月22日⑪ 京都市伏見区 深雪山上醍醐寺  
 2月22日⑫ 大津市石山 岩間山正法寺  
 2月22日⑬ 大津市石山 石光山石山寺  
 2月22日⑭ 大津市園城寺町 三井寺(園城寺)  
 2月23日⑮ 京都市東山区 新那智山今熊野観音寺  
 2月23日⑯ 京都市東山区 音羽山清水寺  
 2月23日⑰ 京都市東山区 補陀洛山六波羅蜜寺  
 2月23日⑱ 京都市中京区 六角堂頂法寺  
 2月23日⑲ 京都市中京区 革堂・行願寺  
 2月24日⑲ 京都市西京区 西山善峰寺  
 2月24日⑲ 亀岡市 菩提山穴太寺  
 未記入 ⑲茨木市 補陀洛山総持寺  
 2月25日⑲ 箕面市 応頂山勝尾寺・弥勒寺  
 2月25日⑲ 宝塚市 紫雲山中山寺  
 2月28日⑲ 姫路市 書写山園教寺  
 2月28日⑲ 加西市 法花(法華)山  
 2月29日⑲ 加東市 清水寺……恐らく当日帰宅。  
 図1は、この行程を地図上に示したものが、合理的なコース選択であったと言える。



### 3 健脚ぶり

熊野には3日も滞在しており、伊勢神宮にも立ち寄ったであろう。正味日数を35日と仮定すると平均移動速度は一日に約30キロ強。社寺周辺の観光のため10キロ程度を加算すると、江戸時代の男子旅行者は、ほぼ40キロ程度歩いたという史家の報告に一致する。

都会では強行軍だ。例えば桜井市の長谷寺を早朝に参詣してから宇治へ移動するのも大変なのに、翌朝は三室戸寺へ参り、山科まで歩いて標高450㍎の上醍醐寺へ登り、尾根伝いに大津の岩間山へ出て瀬田川河畔の石山寺へ下り、さらに大津市内で比叡山寄りの三井寺を閉門までに訪れている。まさにトレイルランの感がある。

大学1回生の時、宇治分校に居た筆者は、「曾祖父に負けるな」と同コースを乗物に頼らずに歩いたが、上醍醐寺へ登ったところで日没が迫り大津行は断念した。それほどのハードスケジュールで健脚の曾祖父といえども周辺観光ができたとは思えない。案外、本人はすでに京や大阪に精通していて、今更、観光スポットを訪れる必要は無かったのかもしれないが、それで

は丹波からの同行者が満足しない。すると一人旅だったのだろうか。そして都会の親戚や、その店の従業員をサポートもあつて、これほど円滑な旅ができたのではなかるうか。

### 4 歴史的な考察

当時の旅行者の支出記録をまとめ、「現在の貨幣価値では毎日ほぼ1万円の支出が必要だった」と記す報告がある。それに従えば、40万円が準備できる中農・富農なら西国三十三所巡礼は可能である。我が先祖も含め加古川周辺の農民は、その水運に助けられ農産物、林産物の販売やその輸送に従事して比較的裕福だった。幕末に各地で飢饉や百姓一揆、米価高騰などの社会不安が定常化したのが、氷上郡や加東郡、加西郡では生じなかった。お伊勢参りや三十三所巡礼も珍しくは無かつたのだろう。

曾祖父のツアーはペリー来航の2年目だが、それ以前から曾祖父の父、八郎兵衛は堺で「南蛮貿易」に携っていた。主に清国商船がもたらす南方からの産物の販売だ。薬草や「サイの角の粉末」を調達して薬屋へ卸していたが、ついに製薬業者「三屋屋」から「安産



写真5：買い取った安枕産本舗の看板



写真6：文久2年の安枕産売り上げ帳

八郎兵衛も、文政9年（1826年）に若くして年寄役に就いているが「庄屋役に就くなんか真つ平」と親戚を頼って堺へ飛び出す。しかし三十数年後の幕末に製菓業の看板と共にUターンしてきたので明治元年（1868年）には庄屋を仰せつかっている。もう逃げられなかったのだろうが、今の自治会長役に似ている。

の妙薬・安枕産」のパテントを買い取り母坪で製造を始める。そのため、のフラスコ、試験管、計量器具、そして看板が百年以上も土蔵に転がっていた（写真5）。そのビジネスの手伝いで若き曾祖父は絶えず京・大阪へ出たという。実は曾祖父の父、



写真7：明治期の薬包紙

隠居すると待望の英語勉強や読書・謡いなどの文化活動に没頭する。気の毒なのは業務を引き継いだ長男の八郎右衛門で、自分の祖父が打ち建てた「家伝の製法」を護ることになる。だが安枕散（産）は好評だった模様で、文久2年（1862）の売上帳には売上がギッシリ記されている（写真6）。また明治16年の八郎兵衛没後も、故人の孫・八郎右衛門が販売人となり、近代的な印刷の薬包紙が登場している（写真7）。

大正7、8年に至っても注文は途絶えない。神戸の工場街へのB29来襲が始まった昭和19年夏、学齢前の筆者は祖母が待つ丹波へ縁故疎開したが、「嫁の出産に……」と遠方から買い求めに來られた老婦人が、製造中止を知って落胆されたのを覚えている。

実は、このビジネス以前から、我が家は京・大阪の親戚と交流していた。過去帳によると宝永7年（17

曾祖父自身も製菓ビジネスや庄屋の務めは真つ平で、明治12年に

10年)に他界した先祖の二男は京都三星屋の、三男は京都白木屋の婿になっている。さらに文化2年(1805年)に他界した先祖の四男は大坂三星屋の、五男は大坂(実際には堺)榎並屋の婿になる。彼らの長兄は母坪で嘉永6年(1853年)に没するが、長兄の長男(庄三郎の父)は堺で南蛮貿易に従事し、その3男(庄三郎の叔父)は大坂榎並屋別家へ婿入りしている。白木屋は、近江商人が京都で興し、さらに江戸・日本橋へも進出した呉服屋だ。堺の榎並屋は、大坂夏の陣以来の鉄砲鍛冶である。これら豪商との縁組が南蛮貿易以前からあったので、代々の香典帳を見ても京・大阪からの弔問が記録されている。

農家のボンボンが都会の商家へ婿入りしても役立たないから、我が家は江戸時代中期から加古川の水運を利用した商家も兼ねていたらしい。それにしても白木屋や榎並屋へ、よくぞ丹波から婿入りしたものだ。丹波の通婚圏もビジネス圏も案外広がったのかもしれない。幕末から明治初期まで滞日した英国の外交官アーネスト・サトウの記録では、丹波のビジネス圏は江戸に達している。明治元年夏、上野に籠った彰義隊の敗北後、サトウは暴漢の襲撃も恐れずに箱根へ登り三島

へ下るが、一人の少年を伴った柏原藩の商人二人と道連れになり、彼らが国外情勢にも詳しいのに驚く。

彼らは普仏戦争や米国艦隊の朝鮮遠征について語り、ロンドンとワシントンを訪ねてみたいと語る。また政府の要人木戸孝允の支援を受けて創刊されたばかりの、内外事情の解説新聞「新聞雑誌」さえも読んでいるようで、サトウは驚きを隠さない。この一人が曾祖父だという証拠は何もないが、堺に代わり海外情報の宝庫となった江戸へ安枕産売り込みに遠征した可能性が無いとは言えない。

「夜明け前の丹波」で英語辞書を楽しんだ曾祖父の二男は、これまた中年になってから米国加州サンノゼで起業し客死。曾祖父から測量を教わった三男は徳田組を興し、阪鶴鉄道工事では広野駅から福知山駅迄の駅舎全部を建てたが日露戦争後の経済変動で破産し、満州で再挙を図るも客死。それにもめげず孫たちも(筆者の父の代)、大正期の海外へ雄飛した。ポロポロの英語辞書を筆者が今も海外へ持ち歩くのは、曾祖父へのささやかな鎮魂のためである。

(満州奉天市生まれ／浦安市在住／元防衛省勤務／(財)平和・安全保障研究所客員研究員)



## 令和5年度「ふるさとの会」報告

令和5年度 やつと開催できた「ふるさとの会」

まさにやつと開催できた郷友会総会でした。コロナ禍で開催を見送ってききましたが、令和元年度以来の4年ぶりの開催となりました。

新型コロナウイルスが、やつと5類感染症に移行したため開くことができず。長いコロナ禍のトンネルの中で気兼ねなく出かけることができなくなり、その間に体調不良になられた方が多かったのでしようか、参加できない方が非常に増え、少し寂しい会になりました。

令和5年度の「ふるさとの会」は11月19日(日)11時から、東京都千代田区の学士会館で、石橋順子常任理事の司会の進行で挙行されました。

総会に先立つセミナーは、東京大学大学院教授の平田岳史先生による「アルツハイマーのメカニズム解明へ」それは宇宙の研究からつながった」と題した学術的な講演でした。それにもかかわらず難しい話をわかりやすく丁寧にご講演いただき、講演後は万雷の拍手となりました。(92頁参照)

総会では岸本勲会長の挨拶と報告、引き続き、谷口



本城英明さん（左）の指揮で「故郷」の大合唱

務所の岡野揮代美次長、神戸新聞社の今井和尚東京支社長に続き、丹波新聞社の足立友宏社長から故郷の近況報告をしていたきました。いつもながらあつという間に予定時間が終わってしまふという楽しいひとときを過ごし

副会長（会計担当）よりの会計報告、監査報告があり、いずれも拍手で了承されました。懇親会は御来賓の柏陵同窓会会長の太西伸弘様と兵庫県人会幹事長の川崎修様より近況等の報告とお祝いの言葉を頂きました。

兵庫県人会幹事長の川崎修様に乾杯の発声を頂き、宴会がスタート。御来賓のご挨拶では、兵庫県東京事



恒例のお楽しみ抽選会のくじ引きに並ぶ参加者

ました。恒例のお楽しみ抽選会は空くじなしで、参加者全員にチャンスがあるので、参加者は色めき立ち、くじ引きに興じました。東京に出店されている「やながわ」様からは名物のお菓子、西山酒造様からは銘酒等などが提供され、それぞれを全員がお土産として手にし、帰ることが出来ました。

総会の締めくくりは本城英明さんの指揮で「故郷」の大合唱になり大いに盛り上がりを見せました。

和やかな会も来年又元気に会えることをお約束し、閉会となりました。

（岡 吉明）

東京大学大学院理学系研究科教授  
平田岳史氏講演概要

## 隕石の研究で培った装置で アルツハイマー診断へ



講師紹介 1962年丹波市柏原町生まれ。柏原高校から東京理科大学理学部に入り卒業後、東京大学大学院理学系研究科に進む。1990年博士課程修了、理学博士。1993年東京工業大学理学部助手、助教授、准教授を経て、2009年京都大学理学研究科教授、2016年から現職。微量元素の分析を専門とし、隕石などを分析し、地球や宇宙の起源を探ってきた。最近はバイオ分野にも研究範囲を広げている。

### 宇宙から生命へ〜どんどん進化する研究分野

宇宙の果はどうなっているのだろう。物質はどのようになつてきたのだろう。生命はどのように生まれ進化したのだろうか……。小さい頃から抱いた素朴の疑問は多い。そんな謎にずっと関わってきたのが平田岳史さんだ。謎を解くには「武器」がある。平田さんが取り組

んだのは分析化学という微量元素の種類や量を知る学問だ。

講演の題目は「アルツハイマーのメカニズム解明へ」それは宇宙の研究からつながった」だった。平田さんが研究者として手がけてきたのは隕石などに含まれる微量な成分を分析して、宇宙の中で様々な元素がどのように誕生してきたかを探る研究。これまでは太陽系が誕生した46億年以降の研究が平田さんの「戦場」だったが、これからの「戦場」は宇宙ができた138億年前のビッグバンから太陽系ができるまでの間だという。途方もない大昔の宇宙で何が起きたのかを調べるといふ日常生活と一見かけ離れた研究である。

「中学校や高校で習った周期表の元素の多くはどのようにできたか分かっていません。これは宇宙が投げかける大きな挑戦的疑問です」。私たちの体を作っている元素も宇宙が進化する過程で合成されてきたという。平田さんらはその疑問を解明するために、隕石に含まれる微粒子(1ミリの1000分の1以下の粒子)を調べることができると世界最先端の分析装置を開発した。この研究分野ではスイスやフランスの研究グルー

## 私達の研究：太陽系や宇宙の誕生と進化史の解説



プと鎬を削り、2023年7月に初めての論文を英語雑誌に投稿したという。「この研究は私が個人的に研究したかった分野。そこで世界をアッと驚かせること

ができたのではないかと誇らしげだった。

こうした宇宙の謎に立ち向かう平田さんだが、「不惑」の年になった40歳、2002年に学生らが「人に役立つ研究をした」と言うのを聞いて、バイオ分野に乗り出した。生命科学では遺伝子やタンパク質、アミノ

酸といった物質に目をつけて研究することが多いが、生体内の微量元素に注目した研究「メタロミクス（生体金属支援機能化学）」はまだ少ない。そこに目を付けて、これまで培った分析装置を武器として、新たな研究分野を切り拓いた。

いまでは研究室に所属する学生の約半分がメタロミクスを研究し、研究室の主要テーマになっている。アルツハイマー型認知症の原因物質でないかと見られている「アミロイドβ」の分析を手掛けている。アルツハイマーが発症する約20年前から脳にアミロイドβは蓄積し始めると言われている。蓄積が微量な段階でその存在を知ることができれば、早期発見・早期治療につながる。ある金属元素をアミロイドβに結合させて（タグ付けと言ふ）分析する方法を開発し、微量分析を可能にした。ここにも隕石の分析で使った分析手法が効果を発揮した。

「基礎データがほぼ出そろい、これからヒトの脳の分析を始めるところです。2025年夏にはロンドンの国際学会で発表する予定です」。平田さんの新たな研究は世界的な成果を生み出し始めている。



帰るところがあると思うからいけねえんだよ。  
失敗すりやまた故郷に帰りゃいいと思っている  
からよ、俺アいつまでたったって一人前になれ  
ねえものなあ

男はつらいよ 純情編より

lp5 東京大学

どんどん新たな分野に挑戦する平田さん。どうしてそんな人生を歩めたのか。平田さんは「失敗は失敗ではない」と言い、大学受験の秘話を明らかにした。「東京理科大学の理学部化学科の定員は100名。私は補欠入学だったので100位にも入っていませんでした。焦り

講演の最後のスライドは「男はつらいよ」の寅さんのセリフだった。「帰るところがあると思うからいけねえんだよ。失敗すりやまた故郷に帰りゃいいと思っ

ているからよ、俺アいつまでたったって一人前になれねえものなあ」  
自分が優等生で一人前だと思っている人はなかなか失敗をしたくはないものだ。だから新しい道を切り開こうとすると臆病になりがちだ。でも平田さんは「失敗すれば丹波に帰ればいい」と思っているのか誰も進まない道を進み、今がある。「一人前になれねえものなあ」という寅さんのセリフは挑戦し続ける平田さんへのエールである。  
(安井孝之)

ました」と笑い、「この補欠入学が人生で決定的に重要でした」と語った。それ以降、一生懸命勉強し、大学院は東京大学へ進み、研究者への道が開けた。



◎令和5年度「ふるさとの会」出席者

(順不同・敬称略)

来賓

大西伸弘 柏陵同窓会会長

岡野揮代美 兵庫県事務所次長

川崎修 兵庫県人会幹事長

今井和尚 神戸新聞社東京支社長

足立友宏 丹波新聞社代表取締役社長

講師

平田岳史 東京大学大学院理学系研究科・教授

会員

市島町 荒木司郎 石橋順子 高見秀史

丸川寛子 丸川宥次郎 山本喜則 余田幸夫

柏原町 足立和子 岡吉明 岡田昌子

片山信子 谷敬三 徳田八郎衛 林進

平田岳史(講師) 吉田素子 三觜洋子

春日町 近藤利春 原利充 松村智子

柳川拓三

山南町 形田恒夫 下井源治郎 野垣有

原谷洋美 廣瀬安伸 廣瀬庸世 藤本和幸

藤原ひさ子 村上督

氷上町 足立謙悟 足立松子 井上巖

上高子 上野忠明 岸本勲 岸本敏子

坂上勝朗 谷口浩章 徳舛雅孝 本城英明

安井孝之 山岸幸子 山口敏之

# 会 計 報 告 書

(2023年7月1日～2024年6月30日)

関東水上郷友会  
 会計担当副会長・谷口 浩章  
 理事・原谷 洋美

(単位：円)


収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	金 額	摘 要	科 目	金 額	摘 要
繰 越 金	1,746,746	郵便貯金 194,097	出 版 費	927,144	『山ざる』53号
		定額貯金 800,000	通信・印刷費	138,974	総会・役員会案内等
		振替貯金 752,649	総 会 費	388,050	総会関係支払
年 会 費	474,200	226名	会 議 費	111,054	役員会等
総 会 費	382,000	50名	支 払 手 数 料		
会 議 費	100,500	35名	消 耗 ・ 備 品 費	70,041	事務品・広告費・慶弔費
寄 付 金	418,000	107名	繰 越 金	1,999,244	郵便貯金 182,986
広 告 料	470,000	43件			定額貯金 800,000
冊 子 代	43,058				
そ の 他	3	利子			振替貯金 1,016,258
合 計	3,634,507		合 計	3,634,507	

以上

監査の結果、上記のとおり相違ありません。

2024年 7 月 13 日

会計監査

山本喜則 

## 祝寿の方々ご紹介

郷友会では毎年の総会で80歳を迎えられる会員の祝寿のお祝いをしていきます。今年、その対象者となられる36名に以下の項目でアンケートをお願いしたところ、10名の方々から回答をいただきました。

(誕生日順)

- ① 生年月日
- ② ご出身地
- ③ 上京の年月日
- ④ 上京の動機
- ⑤ これまでに最も印象に残ることは
- ⑥ 祝寿を迎えてひと言

対象年(昭和19年・甲申・1944年、昭和20年・乙酉・1945年3月)とはどんな年? 第二次世界大戦中。流行語は「鬼畜米英」「一億火の玉」「一億国民武装」など。サイパン島の日本守備隊玉砕。マリアナ沖海戦では日本軍は空母3隻、戦闘機

の大半を失う。日本海軍は神風特攻隊を編成し、レイテ沖海戦に臨むが戦艦3隻・空母4隻・巡洋艦10隻・駆逐艦9隻を失う。アメリカB29爆撃機による日本への空襲が始まり翌年3月10日の東京大空襲へ。日常生活では、学徒勤労動員、学校工場化、に加え学童疎開が始まる。多くのスポーツは、活動全面中止。食糧難が深刻化して東京都内には「何がなんでもカボチャを作れ」「必勝食糧絶対確保」のポスターが、農作物の増産が奨励されても、種が不足の状態。節米料

理として「野菜くずの雑炊」「すいとん」が登場。戦時下で取り上げられなかった災害には東海大地震、三河地震がある。火山活動では昭和新山が誕生。映画は「土俵祭」・「一番美しく」・「陸軍」・「狼煙は上海に揚る」。流行歌は「たそがれのマニラ」「お山の杉の子」「勝利の日まで」「轟沈」「あゝ紅の血は燃ゆる」「ラバウル海軍航空隊」。物価は、ビールジョッキ1杯1円50銭・豆腐1丁10銭・都電乗車賃10銭・葉書3銭・封書7銭・巡查初任給45円・東京の銭湯12銭・雑誌「中央公論」71銭・朝日新聞購読料1円30銭・公衆電話料金10銭・ラムネ9銭。

## 祝寿の方々ご紹介

### 稲岡俊一様



- ①昭和19年（1944年）
- ②宮津市
- ③1968年4

月  
④伊藤忠商事（株）東京本社赴任

⑤通算12年4回の海外勤務をされました。出張・旅行などを含め、約30ヶ国に行き、総合商社ならではのいろいろな経験をすることができました。

⑥無事に80歳に到達することができて、うれしいです。総合商社勤務のかたわら作詞活動をやってきましたが、こども園・小学・中学・高校・大学の校歌と応援歌、その他いくつかの歌を作詞できたのが何

よりのよろこびです。

### 豊島明男様

- ①昭和19年5月9日
- ②氷上町絹山
- ③昭和44年3月

④富士通（株）へ入社

⑤私は、大学卒業後、コンピュータ業界に入り、以降、定年までシステム開発の分野一筋で活動してきました。入社当初は、社会は高度成長期の時代で、取分けコンピュータ業界は、巨人IBMを軸として、急激な変化と競争の真只中にあり、世の中も会社内部も活気に溢れ、80時間以上の残業は当たり前という、現在の感覚では考えにくいような環境でした。こんな環境下で、私

の最初の仕事は、汎用コンピュータのOS（Operating System）の開発でした。仕事を通し、色々な経験が積みまりました。我々が開発したOSのアーキテクチャを米国で開発された学会で発表できたこと、国内外のSEに対し技術教育を実施したこと、商談時には、SEの補佐として顧客先に出向いたことなど、組織の枠を超えた色々な経験は私の宝です。

⑥80歳という年齢への到達も、単なる人生の通過点の一つと考えられるようにしています。10歳以上も年上の黒柳徹子さんの活躍や、74歳にして、今だに少女のような容姿と体型を維持して活動されている由美かおるさん達の姿をみていると元気が湧いてきます。私自身は、定年後、健康の維持と

## 祝寿の方々ご紹介

他人との交流を目的に、卓球を再開し、週5日程のペースで楽しんでいきます。また、学生時代から興味が強かった“自然界の摂理”〈素粒子論・宇宙論・生命の科学〉への探究は尽きず、今後も継続していきたいと思っています。

### 細木敦子様

- ① 昭和19年6月25日
- ② 兵庫県水上郡柏原町石田
- ③ 昭和53年4月か5月
- ④ オイルシヨック後 主人の転勤で見知らぬ所へやってきました。
- ⑤ 20数年前にピアノの先生と2人でハーブ演奏に出たこと。習い始めて4年ほどになるが昨年、国立能楽堂で先生の発

表会にて、先生と御一緒に2人で舞ったこと。袴能は先生なしで一度投げかけたが思い直してやりとおし、マスクとお揃いで自作自演出来たこと。

- ⑥ 人生は良い出会いの連続だ、ということ。神戸市長(原口市長)のことは「人生すべからく夢なくてはかないません」がすきな言葉です。

### 上 高子様



① 1944年  
(昭和19年)  
7月3日生まれ

- ② 水上町成松
- ③ 1962年(昭和38年) 4月
- ④ 大学進学
- ⑤ 50歳でアメリカへ日本語教師

として派遣された一年間の体験でしょうか。異文化を実感したこと、家族から *Indie pendant* になり個人としての自己の確立ができたような気がします。帰国後体験記を出版し、その延長線上で異文化交流活動のNPO法人「アジアの新しい風」を創設しました。

- ⑥ 「子をもって知る親の恩」というように、その立場にならなければ、自分事(じぶんごと)とはならない、ということをしみじみ感じます。80歳になり、その年齢の親の気持ちをよく思います。孤独だったろう、もつと寄り沿った言葉をかけたらよかった、など。そして老人になるということは、弱者になるということですね。弱者らしい、それでも生きていくことを楽し

## 祝寿の方々ご紹介

めるような老人になりたい。若者に、「面白いお婆さん」と思ってもらえるような、せめて老害をまき散らさない老人になりたいです。

### 木下正勝様

- ①昭和19年8月16日
- ②柏原町柏原
- ③昭和46年4月
- ④転勤
- ⑤45歳で妻と高校生と中学生の娘を帯同し、アメリカに赴任して、5年間を過ごしたこと
- ⑥今まで長い間楽しく暮らしてこられたことと、それを支えていただいた方々に感謝。

### 田中さち子様

- ①昭和19年9月14日
- ②山南町谷川
- ③昭和42年8月
- ④夫の転勤
- ⑤これまで病気にせず健康であったこと。
- ⑥世界が平和であってほしい。

### 島津和子様

- ①1944年（昭和19年10月9日）
- ②山南町和田
- ③昭和38年3月
- ④一家をあげて上京。私は美容学校を出て美容師になり、その後、明治記念館で花嫁作り

に従事。結婚し新潟へ。

- ⑤転勤族の主人と各地を転々とまわり、1989年には中米パナマへ。そこで米国のパナマ侵攻、戦争を経験。ノリエガ将軍逮捕で終りましたが、怖い思いをしました。スペイン語を習い、休日はゴルフ、テニスと日本ではできない良い経験でした。今も脳裏に焼き付いております。

- ⑦思い出すのはやはり丹波の事。今実家は人手に渡り、何代も続いたお墓もなくなり帰る所はなくなりましたが、いつも夢に出て来るのは古里の庭の牡丹。露を宿した萩。台所、前栽、お蔵、ありし日の姿です。長い老後を楽しく生きるため手芸（吊るしびな作り）卓球、グランドゴルフ、カラオケ、俳句と頑張っております。大事な事はその日の内に

## 祝寿の方々ご紹介

をモットーにして!!  
俳句1句  
「梅雨の蝶傘寿の坂を越えゆ  
かん」

### 勢 正彦様

- ①昭和19年12月25日
- ②氷上町石生
- ③昭和45年12月
- ④日本航空入社のため
- ⑤上京して間もない頃、郷友会に初めて参加させて頂いた会場で衆議院の有田喜一先生にお会いし挨拶させて頂きました。先生の郷里を、想われる重さを感じました。
- ⑥傘寿を無事に迎えることができ感謝いたしております。今後も裏千家茶道人として日本の伝統文化を1人でも多くの

方に広める努力を重ねて参ります。合掌。有難とうございます。

### 谷口浩章様

- ①1945年1月26日
- ②氷上町(旧幸世村) 南由良
- ③1971年6月
- ④転勤のため
- ⑤親会社の破綻 当時グループのビル・マンション管理会社社長だったが、1998年10月親会社である日本長期信用銀行が破綻・国有化された。親会社の破綻に伴い当社も倒産必至と言われたが、まだ若かったのと、神風も吹き、親会社の意向に逆らって増資により会社を存続させることが出来た。

⑥2年前の母親逝去後思いがけず丹波の実家の処分が出来、丹波との繋がりは菩提寺とお墓のみとなりました。元気な間は出来るだけ墓参りに丹波に帰省しようと思っております。

### 富田貞子様

- ①昭和20年2月5日
- ②丹波市春日町
- ③昭和53年
- ④主人の転勤
- ⑤山に囲まれた丹波で育ち関東平野の山の見えない景色に50年近く経っても慣れない事
- ⑥遠く離れた故郷や人々を懐かしみながらも関東でも大勢の知人、友人に恵まれ、支えられて、平穩に80才を迎えられる事にただ感謝する日々です。

■会員が書いた本

岩槻邦男

Kunio Iwatsuki 著

Spherophylon:

The Integrated Lives of

Earth's Diverse Organisms

Bookend Publishing Co. ¥3,000 (税込)

岩槻邦男会員の著書は度々本欄でも紹介してきた。31号では「多様性の植物（共著）（東京大学出版会）。40号では「日本の消えゆく植物たち（研成社）。43号では「生命のつながりをたずねる旅（ミネルヴァ書房）。だが、

これらは膨大な数の著書のごく一部に過ぎない。その中で中核をなす名著「生命系—生物多様性の新しい考え（岩波書店）」が24年ぶりに改訂・追加され、昨年春に英字版となって刊行された。我がことのように嬉しい。

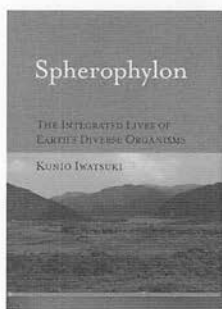
いうまでもなく和書の市場の潜在的顧客数は1億人だが英字書の市場だと

10億人であり、その分、安価で著書を提供できる。今まで専門的な学術誌を紐解く人しか岩槻さんを知る人が居なかつた海外で、もつと多くの、それも植物学や環境学専攻以外の人々が、これによつて岩槻さんを知るようになる。原著で著者は、細胞や個体よりも上の階層で認知する生命の単位としてと生命系という言葉を提案し、生物の時間的広がりを示す系統 *phylon* と空間的広がりを示す生物圏 *biosphere* とを繋ぐ *spherophylon* という造語を大胆に提唱したが、まだまだ浸透していない。

著者は、原著と変わらず、欧米文明に敵しい、次々と自然を征服してきた

欧米人の感覚では、「破壊が進む自然の保護」の必要性は理解できても、「自然との共生」の理解は難しいのではないかと危ぶむ。日本の「里山を大切にする」とか「もつたない」の精神が言葉のギャップもあって中々理解してもらえない。ここで著者は、人口が増大する旧石器時代末期、狩猟採集に依存する生活を変え、飼育栽培動植物を創り出して生物多様性を守つた新石器時代の先祖に学べと説く。それに引き換え現代では、生命科学こそ飛躍的に進歩したものの、生物多様性に関する知識も知見も未だに不十分で、環境開発における最善策が選べないこともあるのだ。

著者は愛郷心も強い。昨年は3回も郷里で講演した。益々のご活躍を祈るものである。  
(徳田八郎衛)







■会員が訳した本

ハワード・ブラム著  
芝瑞紀／高岡正人訳

『裏切り者は誰だったのか』

原書房 定価2700円（税別）

米国とソ連（現ロシア）とが激しく対立した冷戦期に演じられた諜報戦を描いたノンフィクションだ。副題は「CIA対KGB諜報戦の闇」。米国中央情報局（CIA）とソ連国家保安委員会（KGB）がそれぞれに忍び込ませた二重スパイが敵と味方とを騙しながら機密情報を探り合う。CIAに潜り込んだKGBのスパイは誰だったのかを追い続けた元CIAのスパイ、ピート・バグレーの人生を描いている。

著者は元ニューヨーク・タイムズの敏腕記者のハワード・ブラム。バグレーが残した膨大な調査記録をもとに多数のインタビュアーや政府文書からノンフィクションに仕立て上げた。

複雑怪奇な事態がどんどん進み、ストーリーがなかなか掴めない。スパイ同士の騙し合いの世界を描いているのだから読者も知恵を絞って物語についていかねばならない。

そんな難しい物語を訳したのが柏原高校1976年卒の高岡正人さんだ。大卒後は外交官として多くの国に赴任し、クウェート大使を最後に2019年に退官した。

米国で出版された直後の22年末に縁あって翻訳に関わった。全ページを翻訳家の芝瑞紀さんと共に訳した。「とても凝った英語なので翻訳には苦労した。こんなに根を詰めて勉強したのは初めてかもしれない」と苦笑いする。



裏切り者は誰だったのか

高岡さんは外交官時代にスパイと思しき人物と会ったことはないというが、大学で国際関係論を学び、40年近く外交官として働いた経験が翻訳では生きたといい。そんな高岡さんだが、キューバ危機など冷戦時代を象徴する米ソ対立の裏側で起きていた様々な事実を本書で知り、とても勉強になったようだ。

元CIAスパイのピート・バグレーが退職後も二重スパイについて探り続けた調査記録がこの本の土台になっている。高岡さんは「バグレーの知的探究心のすごさ、深さには驚いた」と言う。同じことは筆者のハワード・ブラムにも言える。多くの元スパイに会い、膨大な政府資料を読み込んでいったブラムの努力には頭が下がる。

読了し、再び米国とロシアとの対立が強まっている今、米露の諜報戦は再燃しているのかと思いを巡らせた。今にも通じる本である。

（安井孝之）

◆浅野 智也

お世話になります。いよいよ50歳となり、益々人生を楽しみ尽くそうと頑張っております。郷友会の皆様のご健勝をお祈りしています。

◆芦田 郁夫

元気で過ごしています。

◆足立 敏昭

ご盛会をお祈り申し上げます。

◆足立 悦雄

土日は原則仕事が入っており、「ふるさとの会」に参加できないのは残念です。

◆足立 圭造

ご案内ありがとうございます。健康上の都合で欠席させていただきます。郷友会様の益々のご隆盛をお祈り申し上げます。

◆足立 晴夫

東京新宿の東郷神社に勤めています。休みの日は健康のためテニスに夢中です。

◆足立 ひろ子

丹波の友人から丹波栗を入手して渋皮煮を作っています。

◆石橋 昭彦

「山ざる」が益々発展しますように。

◆上田 道代

ごめんなさい。また重なってしまいました。19日別用でお出かけします。ご盛会を祈ります。

◆植田 茂樹

病氣療養中のため欠席させていただきます。

◆金出 武雄

楽しい読み物「山ざる」をありがとうございます。

うございます。今回は残念ながら出席できません。

◆正呂地 悟

ご盛会を祈念しています。

◆谷垣 悦夫

いつもお世話になっております。都合がつかず欠席させていただきますが、「ふるさとの会」が盛会でありますよう祈っております。

◆谷垣 邦夫

所用があり申し訳ございません。ご盛会をお祈りしています。

◆堂本 修

ご案内ありがとうございます。最近特に耳が遠くなり苦勞しています。皆様方のご健勝をお祈り申し上げます。

◆十倉 直樹

ご盛会を祈念しています。

◆富田 貞子

いつも「山ざる」嬉しく拝見しています。10月半ばより12月まで丹波で暮らしています。ふるさとに癒されて元気をもらっています。

◆中居 篤子

長い間足が痛くて悩んでいましたが、入院して手術をすることにしました。

◆野村 節三

コロナ禍も収束せず、不安な昨今ですが、昨年より当市の老人クラブ連合会の会長と、県老連の理事で、いささか多忙な毎日を送っています。コロナ禍が去れば上京したく思います。当日の盛会を祈っております。

◆前田 守

元気にしております。

◆三木 亮

3年前、心臓弁膜症の手術（成功）

その後、体力低下が急激に進み、軽いウォーキング以外の外出が出来なくなりました。「ふるさとの会」の益々のご盛会を祈っております。

◆安井 俊夫

2010年以來、中学校の歴史教科書編集の仕事に取り組んでいます。

◆山路 鈴香

元気で暮らしていますが、足元がおぼつかないので失礼いたします。

◆山名 昌衛

いつも欠席が多く申し訳ございません、会の盛会を祈念いたします。

◆大城戸 しず代

いつもありがとうございます。「山ざる」54号、新たな挑戦の杉本秀和君は夫の姉の孫で春に会ったばかりですが、嬉しく読ませていただきました。良い企画をいつもありがとうございます。

す。

◆杉岡 明美

「山ざる」ありがとうございます。ふと気づくと85歳、長いように思いますが、あつという間でした。色々ありましたが、人生とはそういうものでしょうか。これからはより大切に日々生きていかねばと思いますが、ではどのように？同じく日々を重ねていくのです。私より先輩の方々教えてください。

◆足立 さつき

お世話になっております。出席できませんが、ご盛会をお祈りしております。

◆蘆田 あつ子

丹波が年々遠く感じしております昨今ですが、「山ざる」の中で懐かしいお名前に触れることができまして、大変嬉しく思っております。ありがとうございます。

ございました。ご盛会をお祈り申し上げます。

います。

◆上野 忠明

いつもお世話になります。今年も参加出来るれしく思っています。今回もよろしく願います。

◆田中 さち子  
いつもご案内をいただきありがとうございます。土日は予定が入っており失礼いたします。

◆坂上 豊

年1回の「山ざる」誌を楽しみにしています。歳を重ねること87年、次回の「山ざる」を手にすることが出来るよう、健康に留意し、趣味の囲碁を友に日々楽しみ乍ら生きていこうと思っています。

◆鶴田 ゆき子  
水上郷友会の発展をお祈りしています。久々の「ふるさとの会」のご隆盛をお祈り申し上げます。

◆塚田 寿代

お世話になります。「山ざる」の發送、いつもありがとうございます。

◆藤田 千治  
少々体調が不調なので、残念ですが、欠席いたします。

◆赤井 正洋

体調がイマイチのため申し訳ありませんが、欠席します。ご盛会を祈ります。

◆大前 寿美

「山ざる」ありがとうございます。

◆笹倉 鉄平  
残念ですが欠席させて頂きます。

◆徳田 八郎衛

帰省先もなくなり、テニスもマラソンも引退したので趣味も「LCCを用いて海外の観光地でない田舎を廻る事」に代わりました。

◆余田 幸夫

いつもお世話になっております。

◆灰野 悦昭

何とか元気で過ごしています。皆様のご健勝を願っています。

◆徳田 邦男

「山ざる」の皆様お元気でお暮らしますか。54号ありがとうございます。丹波とも時代の流れから幼少時から知る方から若い方々に変わり、だんだんと疎遠になりつつ、「山ざる」からたくさんのお話を聞き、高齢者になるにつれ勇気をもらい、少しでも丹波を忘れないように励ましの言葉そして「一人じゃないよ」と思っております。朝

夕寒さが厳しくなりますが、お体を大事にしてお暮らし願います。

◆山本 述子

いつも丹波を軸にホットな情報を誌面から頂きありがとうございます。遠くなりつつある故郷が「山ざる」が届くたびに近く感じられ元気をいただいています。皆様のご尽力に感謝いたします。

◆吉見 あや子

いろいろお世話になっております。ありがとうございます。

◆松村 智子

東京に来てから25年が経ちました。2人の子供も1人は結婚、下の子ども近々結婚をします。これからの人生をふと考えるときに、今までお世話になった故郷のことも考えております。平田先生のお話やふるさとの方々にお会いできることを楽しみにしております。

◆近藤 利春

「山ざる」の発行ありがとうございます。編集委員二年目。冊子を改めて眺めてみて、手前味噌ながらなかなか拡張高いと思いました。新しい方の寄稿があると同郷の思いが広がります。新聞ではないので、筆者の味がある方が親しみがあります。夏休みの感想文のノリでお寄せいただけるとありがたいですね。

◆田中 一美

ご無沙汰しております。先日は「山ざる」に祝寿のご紹介をいただきありがとうございます。編集委員の皆様のご尽力に頭が下がります。役員の皆様にも心より感謝申し上げます。

◆鈴木 富子

皆様へ長らくお世話になりありがとうございます。妻富子は令和3年に病気のため永眠いたしました。遅れて申し訳ありません。「山ざる」を楽し

みにしております。(ご家族様より)

◆林 進

「ふるさとの会」は久しぶりで楽しみにしています。まだ現役で釣具業界新聞「釣具界」の発行をしています。

◆形田 恒夫

11月に75歳運転免許証更新予定、高齢者講習を受けます。ちよつと不安もあります。丹波に帰省するときは買い物難民になってしまう為、車での帰省になります。80歳までは運転したいです。

◆大野 富士夫

「ふるさとの会」幹事の皆様、「山ざる」編集委員の皆様ご苦労様です。何事をするにも億劫になり、それではダメだと自分に言いつつ暮らしています。

◆影山 一恵

八十路を忙しく、時にはのんびりと

過ごしております。認知予防には社会性を持つこと、フレイル予防にはやはり自分の為に行うことができるか社会即みんなの為に何ができるかと言う思いを持ちつつ、日々つつがなく暮らしておりますが、日々衰える体力も何とか踏ん張りながら今を過ごしております。

◆竹安 正伸

当日所用のため出席できません。今年のお盆は先祖の墓参りの為に丹波に帰省しました。久しぶりに旧友とも会うことが出来たとっても有意義でした。いつも「山ざる」は遠く離れて故郷を思う機会を与えてくれます。今後ともよろしくお祈りします。皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

◆浮田 信子

秋の気配が強まって参りました。事務局の皆様にはお世話になり感謝しております。ありがとうございます。「山ざる」も楽しみに読ませていただ

いております。4月末、人工股関節の取替手術を受け、リハビリ中ですが、日常生活はまずまず痛みもなくできておりますが、外出の自信がありません。元気に致しておりますが、欠席とさせていただきます。皆様のご健康とご盛会をお祈りいたします。

◆八木 信行

すみませんが、当日は韓国出張中欠席となり申し訳ありません。

◆足立 義雄

現在まだ療養中に付き出席できません。ご盛会をお祈りいたします。

◆廣瀬 安伸・庸世

いつもお世話になりありがとうございます。10月21〜23日迄丹波焼まつり、ユニトピア篠山泊、翌日は大阪港海遊館等へ行く予定です。当日宜しくお祈りいたします。

◆可部 美智子

今年91歳になりましたが、まだ陶芸を続けております。やはりもうそろそろ体のほうもあちこち動かなくなりましてので、ご案内をいただいても出席できず申し訳ありません。中井政吉（中井書店）の頃から長きにわたりお世話様になりありがとうございます。

◆田村 公平

申し訳ありません。当方のコンサートと日程が重なっており、出席することが叶いません。どうぞよろしくお祈りいたします。

◆荒木 司郎

役員の皆様には日頃大変お世話様になっております。介護5年ストレスを溜めないよう、卓球、吹矢クラブ、等々、男性、介護の会などに出席し、体力、健康維持に頑張っているこの頃です。

◆西川 宣孝

丹波の花見会を契機にして、11月に中学校同窓会を開催し旧交を温めました。丹波市内の公園、神社、佐治川の流域など清閑な地に咲く満開の桜は一見の価値があります。故郷に帰省しドライブでも楽しんでください。会のご盛会をお祈りいたします。

◆木呂子 惠美子

今年も「山ざる」をお送り下さりありがとうございました。「ふるさとの会」のご案内を頂き、久しぶりに皆様とお会いしたいと思いつつも、ずっと在宅医療を受けており、心身の自由が利かない状態です。今までの皆様の暖かいご交流に心から感謝いたします。

◆植木 十和子

迷っていましたが、結局ちよつと遠いので無理かなと思ひ欠席することになりましたが残念です。「山ざる」ありがとうございました。丹波の色々な事

を知るよすがとなり、いつも楽しみにしています。いつもお世話になり感謝いたしております。

◆大坪 則夫

返信遅くなり申し訳ありませんでした。年会費、寸志を払い込みました。

◆安達 健一郎

今月20日入院手術の為欠席します。入院なくして人生が終われると思つていましたが残念、快復して出席できることを願っています。会費と寄付金を払い込んでおきました。

◆森田 栄子

お忙しい所ご案内ありがとうございました。残念ながら今回は欠席させていただきます。皆様に宜しくお伝えくださいませ。ご盛会をお祈りいたします。

(順不同)



撮影・岡 吉明

令和6年度柏陵同窓会東京支部総会・懇親会の開催報告

谷敬三支部長が急逝で

安井孝之副支部長を支部長に選出

令和6年度柏陵同窓会東京支部は7月13日(土)、学士会館で総会・懇親会を開催しました。東京支部会員のほかご来賓や他支部の皆様など合計100人が参加されました。今年の総会は支部長の谷敬三さんが6月11日に73歳の若さで急逝されたことを受け、冒頭に過去1年間の物故者8人とともに谷さんを追悼する黙祷で始まりました。

谷さんは平成30年に支部長に就任され、3期6年目の途中でした。谷さんの就任時期は日本ばかりか世界中の社会、経済、暮らしを一変させたコロナ禍に見舞われ、支部活動も大きく影響を受けました。支



安井孝之新支部長

部総会・懇親会の開催は令和2年から令和4年まで開くことができず、同窓会活動への求心力の維持にご苦労されたのが谷さんでした。それだけに昨年に続き今年も総会・懇親会が開かれることを楽しみにされていた谷さんが中心になって総会開催に向けて準備を進められていました。谷さんの急逝について総会参加者はみな驚き、黙祷で哀悼の意を捧げました。

総会ではまず谷さんの後任の支部長を選任する動議について審議しました。山口敏之副支部長が支部長逝去を報告するとともに、その後の支部運営に関する議論の中で、後任支部長を速やかに選出することが適当であり、6月29日に開かれた臨時理事会で安井孝之副支部長(28回)を次期支部長として推薦することが決まった経緯を説明し、支部会則に則って総会での承認を求め



総会・懇親会風景

ました。その結果、全会一致で安井さんを支部長に選任しました。

安井さんは「谷さんの急逝に驚きました。6月8日に谷さんらとこの学士会館で総会に向けての打ち合わせをし、谷さんと相談しながら準備を進めようとしていた所でした。支部長の仕事は私にとっては重責ですが、非力ながら全力で取り組みます。高齢の方にも引き続きお元気に活動していただくと





高岡正人さんの講演

もに、若

い会員の

獲得に努

力してい

きたい」

と挨拶さ

れました。

その後、

会務報

告・会則

変更、会

計報告、監査報告が審議され、全会一致で了承されました。会則変更では

「常任理事会」、「常任理事」が廃止され、日常的な運営について議論する「運営会議」が新設されました。

第2部の柏陵セミナーと3部の懇親会は28回生の皆様に運営をお願いしました。柏陵セミナーの講師は28回生の高岡正人さん（中央大学特任教授）で、「外交官が見た世界、日本、そして丹波」と題し、外交官時代に赴任した多くのお国事情を語るとともに丹波への想い

を話されました。

講演は高岡さんが赴任された国の中でモンゴルやインド、イラク、クウェート、オーストラリアなどについて「紛争国のイラクでは日本のような日常的な平和な生活が非日常であり、対立する者同士が殺戮するという非日常の状況が日常でした。暮らしやすいオーストラリアでは多くの国から移住者がたくさんやってくる。国柄は十人十色、十国十色です」と指摘され、「なぜみなさんは日本にお住まいなのでしょうか？」と問いかけられた。

そのうえで、高岡さんは「私はいろんな国に赴任しましたが、お盆になると山南町の坂尻に戻り、庭の草刈りに精を出します。丹波にはやはりこだわりがあります」と話されました。また観光振興に関して丹波地域の広域連携の可能性について話され、「丹波の自然は外国人を魅了する観光資源になり得る」と期待を述べられました（詳細は柏陵同窓会東京支部のホームページ、

ふるさとセミナーのアーカイブをご覧ください）。

第3部はお待ちかねの懇親会。テーブルごとやテーブルを越えて旧交を温め、各所で懇談が盛り上げられている様子がかがえました。同窓会の大西伸弘会長、母校の稲次一彦校長、丹波市の林時彦市長、丹波新聞の小田晋作相談役らの挨拶のほか、阪神・東海・京滋の各支部長らには乾杯のご発声、校歌・応援歌の指揮、万歳三唱をいただきました。懇親会を盛り上げてもらいました。

来年の幹事学年は29回の皆様で代表の足立和孝さんが挨拶され、来年に向けて抱負を語られました。来年は令和7年7月13日（日）にホテルグランドヒル市ヶ谷で開かれます。これまでの開催場所だった学士会館が建て替えのため使用できなくなるためです。新しい会場の皆様とお会いするのを楽しみにしております。

（柏陵同窓会東京支部副支部長 本城英明）

## 「丹波やながわ 東京春日店」新店舗でオープン

和洋菓子を製造販売する「やながわ」（柳川拓三代代表取締役、丹波市春日町）が8月20日、新店舗「丹波やながわ東京春日店」をオープンした。本業三丁目交差点に面した「かねやすビル」の1階という好立地で、お店で焼いたどら焼き「どら福」を売り物にして丹波のお菓子や食材を東京で広げてゆく。



新店舗が入った「かねやすビル」は江戸時代から小間物売っていた「兼康（かねやす）」があつた場所、大きな土蔵が目立っていたという。川柳でも「本郷も かな やすまでは 江戸のうち」と詠われた。かなや

すから江戸城までの街並みは防火のため、に瓦葺だったことから川柳となった。やながわが最初に東京に出店したのは2018年9月。今回の出店地から

500メートルほど離れた場所である春日の局の生誕地の春日町と終馬の地の文京区との縁に導かれ、柳川さんが出店を決断した。6年前に出店場所を探していた際にも「かねやすビル」の1階は空いており、「ぜひお借りしたい場所でしたが、ご縁がなく入ることができませんでした」と柳川さん。

今年には春日の局没400年という節目の年。「かねやすビル」は春日の局の菩提寺「麟祥院」からも徒歩5分少々と近い。柳川さんは1年ほど前からビルのオーナー家に手紙を書き、出店を再度お願いしたという。6年越しの柳川さんの熱意が通じたのか、今回は早く出店を許された。

出店が決まりオーナー家の一人から柳川さんに驚くべきことが伝えられた。「兼康家は丹波氏の末裔で丹波兼康

が祖先です。室町時代には丹波（現在の福知山市今安）に住んでいたようです」

ここにも奇妙な縁があつたのだ。新店舗を構えるにあたり、どら焼きの工房を新設した。焼きたてのどら焼きを提供し、丹波の味を楽しんでもらいたいからだ。粒餡は上級品の「春日大納言小豆」でつくり、卵は丹波から地卵を送ってもらい、兵庫県産の小麦粉を使う。「素材にこだわり、丹精込めて焼きます」と柳川さん。

新店舗オープンの日、朝からどら焼きの前にはお客様行列ができていた。「地元のお客様に愛される店にします。今日はゴールでなくスタートです」。柳川さんは満面の笑みだった。

（安井孝之）

丹波やながわ 東京春日店  
文京区本郷2-40-11 かねやすビル1階  
営業時間 午前9時～午後7時

◎寄附者芳名(2023年度)

柏陵同窓会会長	一〇、〇〇〇円
大西 伸弘様	一〇、〇〇〇円
丹波新聞社社長	一〇、〇〇〇円
足立 友宏様	一〇、〇〇〇円
岸本 勲様	一〇、〇〇〇円
金出 武雄様	一五、〇〇〇円
鶴田 ゆき子様	一三、〇〇〇円
貴志 典子様	一〇、〇〇〇円
中居 篤子様	一〇、〇〇〇円
柳川 拓三様	一〇、〇〇〇円
頼澤 豊様	一〇、〇〇〇円
大野 富士夫様	八、〇〇〇円
岡田 昌子様	八、〇〇〇円
笹倉 鉄平様	八、〇〇〇円
島津 和子様	八、〇〇〇円
谷口 浩章様	八、〇〇〇円
野垣 有様	八、〇〇〇円
浜田 靖子様	八、〇〇〇円
山口 敏之様	八、〇〇〇円
山名 昌衛様	八、〇〇〇円
由良 幸二様	八、〇〇〇円
安達 健一郎様	五、〇〇〇円
井上 巖様	五、〇〇〇円
上 高子様	五、〇〇〇円
柿原 康一郎様	五、〇〇〇円
直田 正様	五、〇〇〇円

高見 美智子様	五、〇〇〇円
田中 貴美子様	五、〇〇〇円
谷口 捷様	五、〇〇〇円
塚口 智様	五、〇〇〇円
土井 雄三様	五、〇〇〇円
中山 昇様	五、〇〇〇円
足立 悦雄様	三、〇〇〇円
足立 和孝様	三、〇〇〇円
足立真一・松子様	三、〇〇〇円
植木 十和子様	三、〇〇〇円
上原 賢一様	三、〇〇〇円
浮田 信子様	三、〇〇〇円
大坪 則夫様	三、〇〇〇円
鴻谷 正博様	三、〇〇〇円
大野 義昭様	三、〇〇〇円
奥井 廣様	三、〇〇〇円
梶原 やす子様	三、〇〇〇円
金出 一郎様	三、〇〇〇円
川勝 美代子様	三、〇〇〇円
絹川 正様	三、〇〇〇円
木下 真理様	三、〇〇〇円
木呂子 恵美子様	三、〇〇〇円
小林 宏様	三、〇〇〇円
近藤 龍夫様	三、〇〇〇円
齋藤 陽子様	三、〇〇〇円
坂上 豊様	三、〇〇〇円
鈴木 一美様	三、〇〇〇円
勢 正彦様	三、〇〇〇円

徳舛 雅孝様	三、〇〇〇円
仲 正様	三、〇〇〇円
橋本 真二様	三、〇〇〇円
林 進様	三、〇〇〇円
原 利充様	三、〇〇〇円
廣瀬 安伸様	三、〇〇〇円
藤井 栄蔵様	三、〇〇〇円
藤田 純様	三、〇〇〇円
藤田 千治様	三、〇〇〇円
安井 孝之様	三、〇〇〇円
安本 義正様	三、〇〇〇円
足立 美都子様	二、〇〇〇円
足立 吉雄様	二、〇〇〇円
石橋 昭彦様	二、〇〇〇円
勢川 武彦様	二、〇〇〇円
徳田 邦男様	二、〇〇〇円
本城 英明様	二、〇〇〇円
前田 正和様	二、〇〇〇円
山内 正和様	二、〇〇〇円
山路 鈴香様	二、〇〇〇円
渡邊 郁代様	二、〇〇〇円
赤井 正洋様	一、〇〇〇円
足立 勝幸様	一、〇〇〇円
足立 さつき様	一、〇〇〇円
足立 武夫様	一、〇〇〇円
足立 敏悟様	一、〇〇〇円
足立 義雄様	一、〇〇〇円
飯田 光雄様	一、〇〇〇円

井出 恭子様	一、〇〇〇円
稲岡 俊一様	一、〇〇〇円
植原 良幸様	一、〇〇〇円
白井 元弘様	一、〇〇〇円
荻野 悦男様	一、〇〇〇円
影山 一恵様	一、〇〇〇円
粕谷 迪子様	一、〇〇〇円
葛谷 理俊様	一、〇〇〇円
小林 和子様	一、〇〇〇円
杉岡 明美様	一、〇〇〇円
正呂地 悟様	一、〇〇〇円
高木 好作様	一、〇〇〇円
高田 守様	一、〇〇〇円
田中 和哉様	一、〇〇〇円
谷垣 浩樹様	一、〇〇〇円
塚口 恭一様	一、〇〇〇円
富田 貞子様	一、〇〇〇円
友井 洋介様	一、〇〇〇円
西川 宣孝様	一、〇〇〇円
野村 節三様	一、〇〇〇円
灰野 悦昭様	一、〇〇〇円
山岸 幸子様	一、〇〇〇円
山口 泰男様	一、〇〇〇円
山本 述子様	一、〇〇〇円
横谷 喜代孝様	一、〇〇〇円
余田 幸夫様	一、〇〇〇円

本誌にご協力有難うございます ❖



タイヤは、  
雨で選ぼ。



**YOKOHAMA**

詳しくはこちら



横浜ゴム株式会社 ☎ 0120-667-520 | [www.y-yokohama.com/product/tire/](http://www.y-yokohama.com/product/tire/) 月に一度は空気圧の点検を。



※2023年12月時点

❖ 本誌にご協力有難うございます

# 肉の丹波屋



創業 50 余年  
神戸牛・但馬牛神戸市場での名誉賞 3 回  
最優秀賞牛 連続 25 年販売実績店  
(令和 6 年現在)

世界的に有名な神戸ビーフを取り扱っております。  
神戸ビーフは但馬牛から厳しい基準をクリアしたのが神戸ビーフです。  
その柔らかさと風味豊かな味わいで、多くの方々に愛されています。  
店主自ら厳選した、神戸ビーフのみを提供しております。

(株)肉の丹波屋ホームページより

<https://1129tanbaya.com>

15,000 円(税別)以上お買い上げいただくと  
送料無料にさせていただきます。



\* 備考欄に「山ざる」とご記入をお願いいたします。



Instagram

神戸牛登録指定店  
肉の丹波屋

丹波市柏原町南多田 472-1  
Tel 0795-72-1129  
Fax 0795-70-2901

来る人に知らずとも、

住む人にうるおいを与え、

ふるさとのおびとちゃんから

出迎えてくれるおまかせの

温もりいっぱいのお地域

おばあちゃん  
の里

2025年  
全国道の駅  
シンポジウム  
丹波市開催!

丹波の「ちいき百貨店」



オリジナルジェラート

丹波大納言小豆発祥の地



丹波黒大豆

丹波栗

丹波大納言小豆

国土交通省選定 重点「道の駅」

おばあちゃん  
の里

〒669-4131

兵庫県丹波市春日町七日市 710

TEL 0795-70-3001

<https://tamba-obasato.co.jp/>

ホーム  
ページは  
コチラ▶



❖ 本誌にご協力有難うございます

NPO法人アジアの新しい風 名誉顧問

<http://www.npo-asia.org>

上 高 子 (氷上町出身)

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-18-22-414

TEL / FAX 03 - 5426 - 6714

e-mail takako-ue@t05.itscom.net

世界が時代の変革期を迎えていることをひしひしと感じます。「アジアの新しい風」は設立21周年を迎えるNPO法人で、アジアの大学で日本語を学ぶ学生たちを支援しています。彼らとのコミュニケーションを通して、多文化共生の理念を学び、紛争解決の姿勢・態度を獲得していきましょう。詳しくはホームページをご覧ください、ぜひ入会のご検討をお願いします。



丹波と100年、  
この先も。

おかげ様で丹波新聞は創刊100周年を迎えることができました。地域の皆様に心より感謝申し上げます。これからも変わらぬご愛顧のほど、何卒よろしくお願いいたします。

株式会社 丹波新聞社

丹波市柏原町柏原201-1 TEL0795-72-0530

週2回 日・木曜日発行 月極め購読料1,450円(税込)



購読申し込みQR

あなたの町の「石屋さん」  
そんな石屋をめざしています!!

墓石・霊園・建築石材・造園石材

## (株) 丹波総合石材

代表取締役 堀 公二 柏高 昭和36年卒

いしやは ここよ



☎ 0120-1480-54

事務所 〒669-3311 丹波市柏原町母坪425

工場 〒669-3314 丹波市柏原町拳田13-1

TEL 0795-72-3032

FAX 0795-72-4343

<http://www.tanba-sekizai.com>

## 今、求められている

### 新しいスタイルの物流トータルサービスをあなたに

情報誌・SP販促物などの梱包・発送管理、DM発送  
データ入力等の情報処理、コールセンター、  
事務局代行、在庫管理など一連業務を代行いたします

——— いつでもよりよいサービスを ———

# BSS

## 株式会社ベターサービス

代表取締役 絹川 正 (山南町池谷)

本社：〒262-0003 千葉市花見川区宇那谷町 1501-2

TEL：043-257-0414 FAX：043-257-2865

<http://www.betterservice.co.jp>

e-mail：kinugawat@betterservice.co.jp



❖ 本誌にご協力有難うございます

## 関西丹波市郷友会会報

# たんば 第9号



(11月発行予定)

会 長 公江 茂

副 会 長 大槻佐知子

田 晴行

坂谷 高義

常任理事

足立 栄逸

磯尾 隆司

岸田 康博

田中なほみ

山口 直樹

山名 純吾

近藤 紀子

編 集 長

岸田 隆博

池畑廣士郎

大西 伸弘

清水 昭景

仁藤 欽嗣

山口 洋子

大木 玲子

岸田 隆博

ホームページ

<https://goyukai.net/>



郵送料のみご負担にて配布致します。

[申し込み先] 関西丹波市郷友会

## 縁尋機妙 多逢聖因(えんじんきみょう たほうしょういん)



良い縁がさらに良い縁を尋ねて発展していく様は誠に妙なるものがある。いい人に交わっていると良い結果に恵まれる。という意味だそうです。

この度、縁あって「本郷は かねやすまでは江戸の内」と詠われた、かねやすビルの1階に「丹波やながわ 東京春日店」をオープンしました。13代目の兼康肇様は丹波氏(たんばうじ)の直系で、室町時代に丹波(現在の福知山市今安)に実在した丹波兼康が祖先と考えられています。春日局に導かれ春日通りに出店してから6年、奇しくも没400年の節目の年に、新たなご縁の舞台で丹波ブランドの魅力発信に努めてまいります。会員の皆様も機会があれば、是非お立ち寄りくださいませ。



丹波 **やながわ**

東京春日店  
TEL 03-3868-5610

都営地下鉄 大江戸線  
「本郷三丁目」

〒113-0033  
東京都文京区  
本郷2丁目40-11  
かねやすビル1階

東京メトロ丸ノ内線  
「本郷三丁目」



丹波やながわ  
東京春日店  
公式 LINE

株式会社やながわ 兵庫県丹波市春日町野上野 209-1

希望と  
うるおいのある  
まちづくり



 JA丹波ひかみ

代表理事組合長 藤原 昌和

〒669-3461 兵庫県丹波市氷上町市辺440

TEL 0795-82-0170 FAX 0795-82-3658

URL <https://ja-tanbahikami.or.jp/>

E-mail [thk.info@jamail.hyogo.jp](mailto:thk.info@jamail.hyogo.jp)



JA 丹波ひかみ  
ホームページ



JA 丹波ひかみ  
公式 LINE

再生医療をはじめとした幅広い医療を提供するクリニック

医療法人社団 熊谷整形外科

## 熊谷整形外科

再生医療・整形外科・内科・皮膚科

医療法人社団 廣和会理事長

医師 藤本 和幸

防衛医科大学卒業 柏原高校・昭和 52 年卒業

住所：〒 130-0022 東京都墨田区業平2丁目14-9

電話：03-3625-0080 <http://www.kumagaiseikei.cn/>

廣和会 ふじクリニック 浅草二天門クリニック 中島クリニック

各クリニック 埼玉東部診療所 埼玉杉戸診療所

医療法人社団 友暖会 ともクリニック 理事長 藤本 将友(長男)



❖ 本誌にご協力有難うございます

心の通う目のホームドクターとして最高水準の眼科医療を提供します

医療法人社団 順孝会

 **あだち眼科**

Adachi eye clinic

理事長・医学博士 足立 和孝

眼科専門医 順天堂大学眼科非常勤講師  
順天堂大学医学部卒 柏原高校・昭和52年卒業



〒347-0015 埼玉県加須市南大桑 1620-1

電話 0480-65-5988 相談専用フリーダイヤル 0120-55-3385

<http://adachi-eye-clinic.com/>

DESIGN ROOM

**Peg**  
Inc.

広告、パッケージなど  
企画・デザイン制作  
[peg-design.co.jp](http://peg-design.co.jp)

株式会社ペグ  
-----  
代表取締役  
松本 祥一  
(柏高H1卒)

〒104-0045  
東京都中央区築地  
3-5-13 北村ビル  
T:03-6228-4186  
F:03-6228-4187



イベント企画 有価証券取引 人事コンサル  
夢企画工房 プロスタッフサービス

代表 林 孝 男

東京都中央区日本橋人形町3-5-8  
日本橋センチュリー21  
<http://www.prostaffsvs.com>



丹波ふる里せんべい

小谷製菓



丹波市市島町上牧 663-1

TEL : 0795-85-0678

FAX : 0795-85-2512



[kotaniseika.com](http://kotaniseika.com)



ユーロボックス  
*EuroBox*  
万年筆と寫眞のある書齋

万年筆の販売・修理・買取・委託販売  
蒔絵万年筆の鑑定・買取

東京都中央区銀座 1-9-8  
奥野ビル 407

TEL : 03-3538-8388



[euro-box.com](http://euro-box.com)



EuroBox®

❖ 本誌にご協力有難うございます



創業100年以上の老舗和洋菓子店

丹波菓子

Hiro 正栄



Instagram



丹波菓子 Hiro 正栄  
丹波市柏原町田路114-5  
TEL:0795-73-0730  
FAX:0795-82-0019  
新郷店：丹波市氷上町新郷1458  
代表 進藤 敏郎



原谷 洋美

藤原 ひさ子



現場を歩き、現場で考える

**Gemba Lab**

代表・ジャーナリスト 安井 孝之

(日本記者クラブ会員、東洋大学社会学部非常勤講師)

Gemba Lab 株式会社

〒278-0031 千葉県野田市中根 218-10

Tel:090-1114-8071 e-mail: yasui@gembalab.jp



株式会社ナレッジリンク  
足立国際会計事務所

代表取締役  
税理士・米国公認会計士 (Certificate)

足立 知佳子

〒152-0035 東京都目黒区自由が丘一―三十四UIWII自由が丘ビル六〇二  
TEL〇三三七―八八〇四七 FAX〇三三七―八八一四七  
E-mail : cadachi@ata.gr.jp

マーケティング・コンサルタント

井徳正吾事務所

Eメール : [business@officeitoku.com](mailto:business@officeitoku.com)  
Webサイト : <https://www.officeitoku.com>

神奈川県立高校英語科講師  
英検一級、全国通訳案内士 (英語)

石橋 順子

E-mail: [ykimarch@ab.cyberhome.ne.jp](mailto:ykimarch@ab.cyberhome.ne.jp)

PCC大洋

岡 吉 明

〒351-0014 朝霞市膝折町四―四―三〇  
TEL〇四八―四六〇―一六〇一  
FAX〇四八―四六〇―二三九七  
<http://www.pcc-taiyo.co.jp>

岸田 勇

木呂子 恵美子

坂  
上  
豊

坂  
上  
勝  
朗

坂  
上  
明

谷  
口  
浩  
章

高  
見  
秀  
史

いい眠りのためのNPO法人…  
SASネットメールマガジン  
magazine@sas-j.org をご覧ください。

仲  
一  
聰

鶴田 ゆき子

エネクスフリースト株式会社  
西日本支店 支店長

土井 聖司

〒812-0024 福岡県福岡市博多区綱場町4-1  
福岡RDビル3F  
電話 〇九二-二九二-五四四七

日本舞踊  
西崎 祥  
端唄  
根岸 妙

〒224-0032 横浜市都筑区茅ヶ崎中央五六一九-七二二  
電話 〇九〇-九九七七-七七九三

株式会社 埼玉りそな銀行 桶川支店  
支店長

西出 達郎

〒363-0013 埼玉県桶川市東一-一-十八  
TEL 〇四八-七七三-一四八一  
FAX 〇四八-七七三-九五四二  
<http://www.resona-gr.co.jp>

西山 裕三

〒669-4302 兵庫県丹波市市島町  
中竹田 一七二

株式会社 メイク  
代表取締役

広瀬 寿和

〒160-0003 東京都新宿区本塩町二十三第二田中ビル  
電話 〇三一-三三五四-〇二一一  
FAX 〇三一-三三五四-一三一一



林 進

エネクスフリースト株式会社  
関東支店 支店長

川 畑 政 成

〒346-0003 埼玉県久喜市久喜中央一―一二十  
久喜駅前西口再開発ビル五階五〇九号  
電話 〇四八〇―二九一―〇六〇

青葉山 真照寺 (都立八王子霊園隣り)  
八王子 青葉霊苑 墓地分譲 案内中  
和合廟 (永代供養墓) 受付中

住 職 堀 井 隆 川

〒193-0821 東京都八王子市川町四九三―二  
電話 〇四二―六五二―二〇一一  
FAX 〇四二―六五二―二〇三三

郷友の皆様へお願い

- ▼同じふるさとをもつ者の親しさは、親兄弟にも似て快よく、その気がねのない交りは、互いに清新なはげみと呼びおこします。そんな仲間のひろがりやを、この小誌は求めつづけます。
  - ▼この雑誌は毎号全会員に贈ります。同郷者の全員が会員ですから、登録のない方や住所変更等がありましたらぜひお知らせください。
  - ▼関東水上郷友会は、すべて有志のボランティア活動によつて運営されています。『山ざぐる』誌や通信費等の資金源も、有志の寄付、協賛広告料、郷友会会費等によつて支えられています。
  - ▼広告料は名刺広告五千円、一／三頁広告一万円、半頁広告一万五千円、全頁広告三万円です。何卒ご協力お願い致します。
  - ▼年会費の二〇〇〇円は会の運営を支える重要な資源です。同封振込用紙にてお振込みくださいますようお願い致します。
- これだけ充実した会誌をもつ同郷会はないとうらやましがられるたびに、『丹波のきずな』の強さを思います。

(山ざぐる編集部)

# 集 記 編 後

★もう何年も、それも無料で送られてくる「山ざる」は不思議な存在でした。ページ数も結構あってそれなりにコストも掛かるだろうなと思っていました。それがいつの間にかこの欄に名前を記すことになるとは。郷土が呼び寄せてくれたのでしょうか。

(長澤)

★夏の柏陵同窓会で同じテーブルに座った若い女性が私の名札を見て「上さんのエッセイは『山ざる』で読んでいますよ」と言ってくれました。久々の嬉しい言葉でした。迷惑かもしれませんが、言いたいことが十二分に表現できる冊子としてこの「山ざる」が生き続けますように。

★父の遺品「植物採集手製本」について書くにあたり父の軍歴などを知り、九死に一生を得て生還できたことが分かりました。「植物採集」製作の真相は分かりませんが、後世に想像してみました。戦争の悲惨さ愚かさを後世に伝えなくてはという思いを改めて強く思いました。

(石橋)

★マイギャラリーページは今号も2名様より作品を頂きました。これまで掲載した色んな趣味の作品に、自分とはとても無理だな……と作者のセンスと技術に感心しつつも、色んな趣味をお持ちの方がいらっしやるのには思います。是非、「山ざる」読者にお披露目ください。書、絵手紙、絵画

手芸等、何でも結構です。次号に期待しています。作品の撮影は連絡いただけましたら、こちらで致します。遠慮なくお申し越しください。

★「あーあーあー本日は晴天なり、本日は晴天なり。只今マイクのテスト中」。小学校の運動会でよく聞きました。わたしにとっては、丹波を思い出すフレーズです。

(本城)

★日本語の乱れについて文化庁も匙を投げ、国民の大半が使い出したら本来の意味と異なっても認めるといふ有り様だ。そんな弱腰では日本語教室の講師も間違った日本語を教えるのではなからうか？だから本号の拙文でも「行年90歳」と記さず、従来の「行年90」を護っています。

(徳田)

★昨年の郷友会「ふるさとの会」でいただいた丹波新聞に高校時代の大槻隆先生が載っていました。懐かしく、「山ざる」の喧伝になると思い立ち、丹波新聞、自由の声へ投稿。調子にのって、千代栄関の投稿も掲載されました。ちよっぴり「山ざる」を知っていただけかでもです。

(近藤)

★夏休みの絵日記の気温欄。32、33度くらいの数値が多かったように思う。35度など珍しい。しかし、今では当たり前。20年先には一体どうなっているのか？人の行き交いが無い昼間の商店街。枯れ果てる野菜や果物。子供の声も聞こえない公園。未病の日本か。

(井徳)

★何にでも張り付くQRコードに、現代は迷路だ

らけと思っています。と言うのも携帯電話を持たない私はQRコードの先に現れるリアル情報画面を体験したことが無いからです。流石にこの頃は危機感も芽生え、チケット購入も医者予約も出来なくなり、これはもう別の迷路を彷徨い始めた炎暑の夏でした。

(原谷)

★「山ざる」は1966年に創刊されたので、2年後に還暦を迎えます。不易流行で誌面を見直しています。55号は、丹波人の活躍を紹介する「山ざる群像」を始め、「ふるさとの会」関連のページを後ろに移しました。還暦に向けて誌面刷新を加速させます。今後もご支援下さい。

(安井)

## 山ざる 第55号 定価500円

令和六年十一月一日発行

- 編集委員
- 井徳正吾 石橋順子 上高子
  - 岡吉明 近藤利春 徳田八郎衛
  - 長澤孝昭 原谷洋美 藤原ひさ子
  - 本城英明 安井孝之 山口敏之

発行者 関東水上郷友会会長岸本 勲

〒351-0014 埼玉県朝霞市膝折町4-4-30

関東水上郷友会事務局(岡吉明)

☎〇四八(四六〇)一六〇一

振替〇〇一〇一三二二三三三〇

製 作 株式会社ニ又社  
編集協力 ダイワコムズ



漢字は太古の思いを詰めた玉手箱。

# こわくて ゆかいな漢字

張 莉 著

A5判変型・320頁●2200円(税込)

漢字の故郷、中国から日本に留学した才媛が、白川静、阿辻哲次の両大家に学んだ漢字学の知識を元にして書き上げた、漢字をめぐるエッセイ集。日常見慣れた文字の意外な字源を取り上げて行く。



## きれいな文字の書きかた [書き込み式練習帳]

宮澤正明 著

B5判・160頁●2750円(税込)

なぞり書きを交えながら実際に鉛筆やペンで反復練習。ひらがな・漢字の練習から、ハガキ・手紙の書き方まで、きれいな文字が身につく練習帳。



## 大人が学ぶ小学校の漢字 [なぞり書き練習帳]

宮澤正明 著

B5判・164頁●1650円(税込)

教育漢字1026字について楷・行・草書の三書体をマスター。小学校レベルの漢字を練習するだけで、キレイなくずし字が気軽に身に付く練習帳。



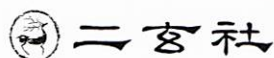
## 大人が学ぶ中学校の漢字 [なぞり書き練習帳]

宮澤正明 著

B5判・178頁●1980円(税込)

中学校で学ぶ漢字1130字について、楷・行・草書の三書体を網羅。ポイントを学びながら、キレイなくずし字が実用レベルで使えるようになる練習帳。

株式会社二玄社 代表取締役 渡邊也寸美



〒113-0021 東京都文京区本駒込 6-2-1 Tel.03-5395-0511 Fax.03-5395-0515 <http://nigensha.co.jp>